



K8V Deluxe

ユーザーガイド

Motherboard

J1375

第1版 V1

2003年9月

Copyright(C)2003 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

目次

ご注意	vi
安全上の注意	vii
本ガイドについて	viii
本ガイドの構成	viii
本ガイドの表記について	ix
詳細情報	ix
ASUSサポート情報	x
K8V Deluxe仕様のまとめ	xi
第 1 章: はじめに	
1.1 ようこそ!	1-1
1.2 梱包の内容	1-1
1.3 特殊機能	1-2
1.3.1 製品のハイライト	1-2
1.3.2 付加価値ソリューション	1-5
1.4 マザーボードの概要	1-6
1.4.1 主なコンポーネント	1-6
1.4.2 コア仕様	1-8
第 2 章: ハードウェアセットアップ	
2.1 マザーボードの取り付け	2-1
2.1.1 配置方向	2-1
2.1.2 ネジ穴	2-1
2.2 マザーボードのレイアウト	2-2
2.3 続行する前に	2-3
2.4 中央処理装置(CPU)	2-4
2.4.1 概要	2-4
2.4.2 CPUを取り付ける	2-5
2.4.3 ヒートシンクとファンを取り付ける	2-7
2.4.4 CPUファンケーブルを接続する	2-9
2.4.5 CPUヒートシンクとファンの公認 メーカーリスト	2-10
2.5 システムメモリ	2-11
2.5.1 概要	2-11
2.5.2 メモリ構成	2-11
2.5.3 DIMMの取り付け	2-14
2.5.4 DIMMの取り外し	2-14

目次

2.6	拡張スロット	2-15
2.6.1	拡張カードの取り付け	2-15
2.6.2	拡張カードの構成	2-15
2.6.3	PCI スロット	2-17
2.6.4	AGP スロット	2-18
2.6.5	Wi-Fiスロット	2-19
2.7	ジャンパ	2-20
2.8	コネクタ	2-23

第 3 章: 基本操作

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	ボーカルPOSTメッセージ	3-2
3.3	コンピュータの電源をオフにする	3-4

第 4 章: BIOSセットアップ

4.1	BIOSの管理と更新	4-1
4.1.1	ブート可能なフロッピーディスクを作成する	4-1
4.1.2	AFUDOSを使用してBIOSを更新する	4-1
4.1.3	AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする	4-3
4.1.4	ASUS EZフラッシュを使用して、BIOS を更新する	4-4
4.1.5	CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する	4-5
4.2	BIOSセットアッププログラム	4-7
4.2.1	BIOSメニュー画面	4-8
4.2.2	メニューバー	4-8
4.2.3	ナビゲーションキー	4-8
4.2.4	メニューアイテム	4-9
4.2.5	サブメニューアイテム	4-9
4.2.6	構成フィールド	4-9
4.2.7	ポップアップウィンドウ	4-9
4.2.8	スクロールバー	4-9
4.2.9	全般ヘルプ	4-9
4.3	メインメニュー	4-10
4.3.1	システムの時間[xx:xx:xxxx]	4-10
4.3.2	システムの日付 [日 xx/xx/xxxx]	4-10
4.3.3	古いタイプのディスク A [1.44M, 3.5 in.]	4-10
4.3.4	言語 [英語]	4-10
4.3.5	1次および2次IDE マスタ/スレーブ	4-11
4.3.7	システム情報	4-12

目次

4.4	詳細メニュー	4-13
4.4.1	CPU 構成	4-13
4.4.2	チップセット	4-19
4.4.3	オンボードデバイス構成	4-22
4.4.4	PCI PnP	4-25
4.4.5	ジャンプフリー構成	4-26
4.4.6	スピーチ構成	4-27
4.4.7	インスタントミュージック構成	4-28
4.5	電源メニュー	4-29
4.5.1	Suspend Mode [S1 (POS) & S3 (STR)]	4-29
4.5.2	Repost Video on S3 Resume [No]	4-29
4.5.3	ACPI 2.0 Support [No]	4-29
4.5.4	ACPI APIC Support [Enabled]	4-29
4.5.5	APM 構成	4-30
4.5.6	ハードウェアモニタ	4-32
4.6	ブートメニュー	4-34
4.6.1	ブートデバイスのプライオリティ	4-34
4.6.2	ブート設定構成	4-35
4.6.3	セキュリティ	4-36
4.7	メニューの終了	4-39

第 5 章: サポートソフトウェア

5.1	OSのインストール	5-1
5.2	サポートCDについて	5-1
5.2.1	サポートCDの起動方法	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3
5.2.4	ASUS サポート情報	5-4
5.2.5	その他の情報	5-5
5.3	ソフトウェア情報	5-7
5.3.1	ASUS Update	5-7
5.3.2	ASUS MyLogo2™	5-8
5.3.3	ASUS PC Probe	5-10
5.3.4	マルチチャンネルオーディオの設定	5-14
5.4	VIA® RAID 構成	5-18
5.5	Promise® RAID構成	5-25
5.6	Makedisk.exeを使用する	5-33
5.7	Marvell® 仮想ケーブルテストテクノロジー	5-34

ご注意

Federal Communications Commission Statement

This device complies with FCC Rules Part 15. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上の注意

電氣的安全性について

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置が故障していないか、正しい電圧を出力しているか確認してください。電源装置に異常がある場合は、電源装置のメーカーにご相談ください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理はメーカーまたは専門家に依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、代理店などの専門家に依頼してください。

本ガイドについて

本書は、ASUS K8V Deluxeマザーボードを使用する場合に必要な情報について説明したユーザーガイドです。

本ガイドの構成

本書は、以下の章から構成されています。

- ・ 第 1 章: はじめに
K8Vマザーボードの主な特徴について説明します。また、最新技術や特別仕様についての解説があります。
- ・ 第 2 章: ハードウェアセットアップ
システムを構築するために必要なハードウェア情報です。マザーボードのスイッチ・ジャンパ・コネクタについて詳しく説明します。
- ・ 第 3 章: 基本操作
電源の入れ方と切り方、および起動(POST)時のトラブル対処について説明します。
- ・ 第 4 章: BIOSセットアップ
BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。
- ・ 第 5 章: サポートソフトウェア
添付のサポートCDに収録されているソフトウェアの説明です。

本ガイドの表記について

本書では重要な注意事項について、以下の記号(アイコン)を用いています。表示内容をよく理解して必ずお守りください。



警告: 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



注意: 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



重要: 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



注: 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS ウェブサイト

ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。各国や地域に対応したサイトがあります。URLは次ページを参照してください。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や代理店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

ASUSサポート情報

ASUSTeK COMPUTER INC. (アジア・太平洋)

住所: 150 Li-Te Road, Peitou, Taipei, Taiwan 112
電話(代表): +886-2-2894-3447
Fax(代表): +886-2-2894-3449
Webサイト: www.asus.com

テクニカルサポート

MB/その他 (電話): +886-2-2890-7121 (英語)
ノートPC (電話): +886-2-2890-7122 (英語)
デスクトップ/サーバー (電話): +886-2-2890-7123 (英語)
サポートFax: +886-2-2890-7698

ASUS COMPUTER INTERNATIONAL (アメリカ)

住所: 44370 Nobel Drive, Fremont, CA 94538, USA
Fax(代表): +1-502-933-8713
Email(代表): tmd1@asus.com
Webサイト: usa.asus.com

テクニカルサポート

サポートFax: +1-502-933-8713
総合サポート: +1-502-995-0883
ノートPC サポート: +1-510-739-3777 x5110
サポートEmail: tsd@asus.com

ASUS COMPUTER GmbH (ドイツ・オーストリア)

住所: Harkortstr. 25, 40880 Ratingen, BRD, Germany
Email(代表): sales@asuscom.de (for marketing requests only)
Fax(代表): +49-2102-9599-31
Webサイト: www.asuscom.de

テクニカルサポート

MB/その他: +49-2102-9599-0
ノートPC (電話): +49-2102-9599-10
サポートFax: +49-2102-9599-11
サポート (Email): www.asuscom.de/support (オンラインサポート)

ASUSTek COMPUTER (中東・北アフリカ)

住所: P.O Box 64133, Dubai, U.A.E.
電話(代表): +9714-283-1774
Fax(代表): +9714-283-1775
Webサイト: www.ASUSarabia.com

K8V Deluxe 仕様のまとめ

CPU	1MB L2キャッシュを内蔵したAMD Athlon™ 64プロセッサ 用Socket 754 32ビットおよび64ビットコンピューティングを同時に有効 にするAMD64アーキテクチャ
チップセット	VIA K8T800 VIA VT8237
システムバス	拡張可能なハイパートランスポートバス
メモリ	最大3GBとバッファなしECCおよび非ECC PC3200/ PC2700/PC2100/PC1600 SDRAMメモリ用3 x 184ピン DDR DIMMソケット
拡張スロット	1 x AGP 8X/4X 5 x PCI 1 x WiFiスロット
記憶装置	サウスブリッジは次をサポート - 2 x UltraATA 133コネクタ - 2 x SATA (RAID 0、RAID 1) Promise R20378 RAIDコントローラ - 1 x UltraDMA133は2つのハードドライブをサポート - 2 x シリアルATAコネクタ - RAID 0、RAID 1、RAID 0+1構成
オーディオ	ADI AD1980 SoundMax 6チャンネルオーディオCODECがS/ PDIF出カインターフェイスをサポート
LAN	3COM® 3C940 Gbit LANコントローラ
USB	最大8つのUSB 2.0ポート
オーバークロック 機能	調整可能なメモリおよびVLink電圧 200 MHzから1 MHzずつ最大300 MHzまでSFS (ステップ レス周波数選択) 調整可能FSB/DDR倍率 ASUS ジャンパフリー ASUS C.P.R. (CPUパラメータリコール)
特殊機能	ASUS AI NET ASUS AI BIOS ASUS POST Reporter ASUS C.P.R. (CPUパラメータリコール) ASUS EZ Flash ASUS CrashFree BIOS ASUS MyLogo2 ASUS Instant Music ASUS Q-Fan Multi-language BIOS S/PDIF出カインターフェイスのサポート

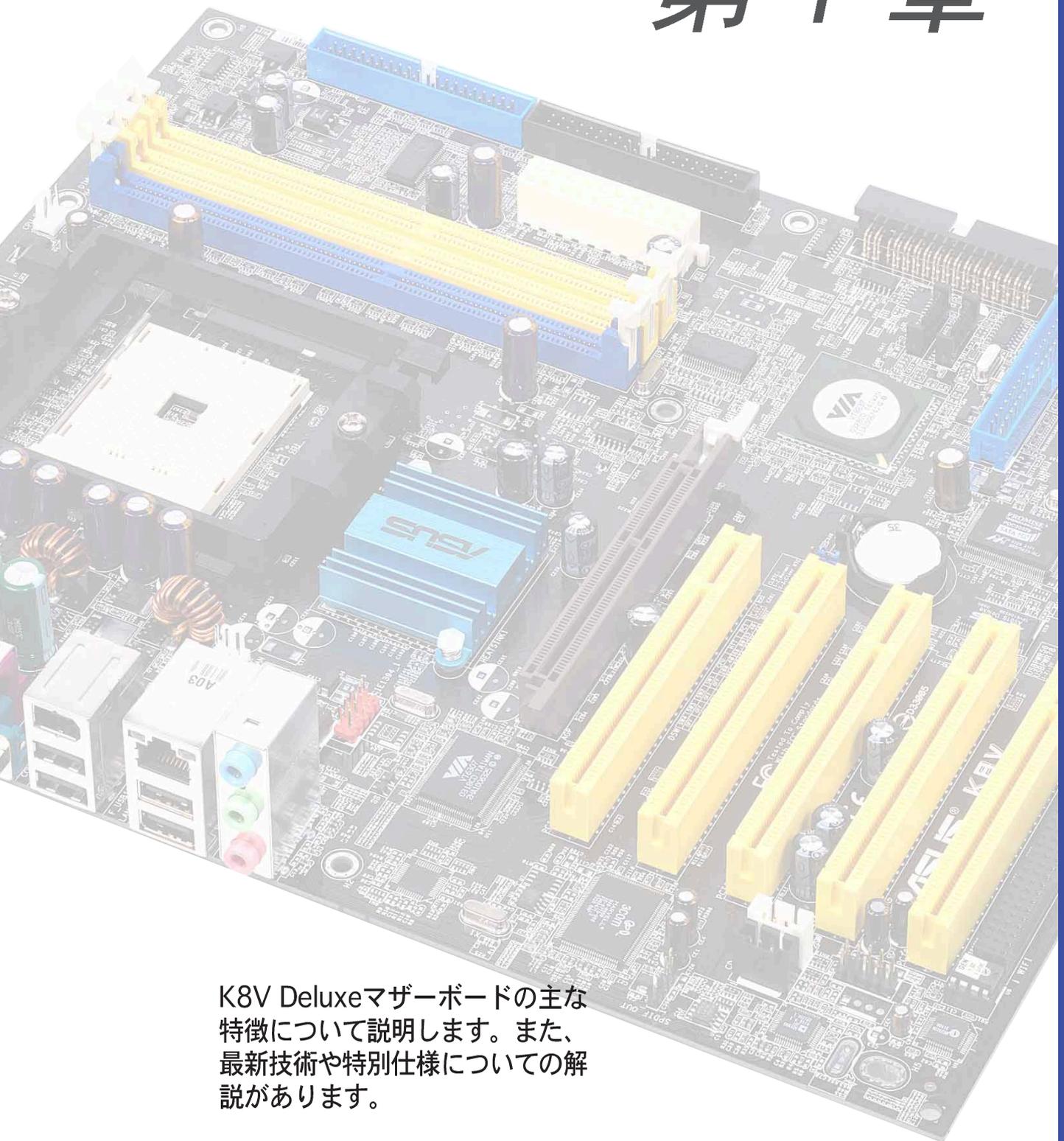
(次ページに続く)

K8V Deluxe仕様のまとめ

背面パネル I/O	1 x パラレルポート 1 x シリアルポート 1 x PS/2キーボードポート 1 x PS/2マウスポート 4 x USB 2.0ポート 1 x IEEE 1394ポート 1 x S/PDIF出力 1 x RJ-45ポート ライン入力/ライン出力/マイクポート
内部 I/O	2 x USB 2.0コネクタ (4つの追加USBポート用) CPU/シャーシ/電源ファンコネクタ 20ピン/4ピンATX 12V電源コネクタ CD/AUXコネクタ S/PDIF出力コネクタ ゲーム/MIDIコネクタ IEEE 1394コネクタ COM2コネクタ
BIOS機能	4Mb Flash EEPROM AMI BIOS (強化されたACPI、PnP、DMI2.0、グリーン付) ASUS EZ Flash、ASUS MyLogo2、Q-Fan、SM BIOS 2.3、多言語BIOS、CrashFree BIOS2
業界標準	PCI 2.2, USB 2.0/1.1
管理可能性	DMI 2.0、PMEによるWOL、PMEによるWOR
電源条件	ATX電源装置(4ピン12Vプラグ付)
フォームファクタ	ATXフォームファクタ: 30.5 cm x 24.4 cm
サポートCDの内容	デバイスドライバ ASUS PC Probe Trend Micro® PC-cillin 2002ウイルス駆除ソフトウェア

*仕様は、将来予告なしに変更することがあります。

第1章



K8V Deluxeマザーボードの主な特徴について説明します。また、最新技術や特別仕様についての解説があります。

はじめに

本章の内容

1.1 ようこそ!	1-1
1.2 梱包の内容	1-1
1.3 特殊機能	1-2
1.4 マザーボードの概要	1-6

1.1 ようこそ!

ASUS® K8V Deluxe マザーボードをお買い上げいただきありがとうございます!

ASUS K8V Deluxe マザーボードはホストに新機能と最新テクノロジーを提供して、ASUSの高品質マザーボードの長い製品ラインにもう一つの標準を作り上げました!

K8V Deluxe は、高性能デスクトップ用途に設計されたSocket 754パッケージに、AMD® Athlon™64プロセッサを組み込んでいます。800Mhz ハイパートランスポートバスにVIA® K8T800チップセットを提供して新しいベンチマークを設定し、効率的なデスクトッププラットフォームソリューションを実現します。

最大3GBとバッファなし PC3200/PC2700/PC2100/PC1600 SDRAMメモリ、AGP 8Xスロットを介した高解像度グラフィックス、シリアルATAのサポート、RAID、IEEE 1394、USB 2.0、および6チャンネルオーディオ機能をサポートするK8V Deluxeは、パワーコンピューティングの世界で前進するための完璧な手段となっています!

マザーボード、およびマザーボード上にハードウェアデバイスの取り付けを開始する前に、下に一覧する付属品が梱包にあるかチェックしてください。

1.2 梱包の内容

K8V Deluxeの梱包に、次の付属品があるかチェックしてください。

- | | |
|---|-------------------|
| ✓ ASUS K8V Deluxeマザーボード | ✓ S/PDIF 出力モジュール |
| ✓ ASUS サポート CD | ✓ 40コンダクタIDEケーブル |
| ✓ 2 x SATA ケーブル | ✓ I/Oシールド |
| ✓ 1 x シングルポート1394 モジュール | ✓ 外部ジャンパキャップの袋 |
| ✓ 1 x 4 ポートUSB モジュール
(ケーブル付) | ✓ ユーザーガイド |
| ✓ 1 x SATA 電源ケーブル | ✓ WinDVD Suite |
| ✓ UltraDMA133/100/66 IDEドライブ用
2 x 80コンダクタリボンケーブル | ✓ インスタントミュージックラベル |
| ✓ 3.5インチフロッピードライブ用
リボンケーブル | |



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特殊機能

1.3.1 製品のハイライト

最新のプロセッサテクノロジー

AMD Athlon™64デスクトッププロセッサは、x86-64テクノロジーを業界ではじめて導入したAMDの64ビットアーキテクチャに基づいています。この次世代プロセッサは互換性、パフォーマンス、投資保護において劇的な飛躍を達成し、所有と開発の総費用を削減します。詳細は、2-4ページをご覧ください。

HyperTransport™テクノロジー

HyperTransport™テクノロジーは高速、低レイテンシ、ポイントツーポイントリンクで、コンピュータ、サーバー、埋め込み式システムの集積回路、ネットワーク、電気通信装置の間で、既存テクノロジーより最大48倍まで通信速度を上げるために設計されています。

シリアルATAテクノロジー



本マザーボードは、オンボードのSATAインターフェイスを通して新しいシリアルATAテクノロジーをバンドリングしています。SATA仕様により、低いピンカウント、低減された電圧要求、最大150 MB/秒のデータ転送速度を持つ、薄くて柔軟性に富むケーブルが可能になります。2-25ページをご覧ください。

デュアルSATA RAID

K8V マザーボードは2つの高性能シリアルATA RAIDコントローラを提供し、追加RAIDカードに費用を費やすことなく、ハードディスクパフォーマンスとデータバックアップ保護を強化しています。Promise 20378 RAID コントローラは2つのシリアルATAと1つのパラレルコントローラにRAID 0、RAID 1、RAID 0+1機能を組み込んでいますが、VIA® VT8237 RAID コントローラはRAID 0とRAID 1機能に対し他にも2つのシリアルATAコントローラを提供しています。5-18、5-25ページをご覧ください。

AGP 8X のサポート

本マザーボードは最新のグラフィックアーキテクチャ、AGP 8X インターフェイス(a.k.a. AGP 3.0)をサポートして、旧タイプのAGP 4Xの2倍にあたる2.1GB/秒のバンド幅を提供しています。

ASUS Wi-Fiスロット



ASUS Wi-FiスロットはASUS WiFi-b™ アドオンカード用に特別に設計された802.11b/gワイヤレス規格に基づき、ワイヤレスLAN用に環境をセットアップしています。ASUS WiFi-b™ アドオンカードは専用のソフトウェアAP (アクセスポイント)を組み込んで、スタンドアロンAPの余分なコストを節約します。さらに、カードには使い勝手の良いユーティリティとアプリケーションが付属しているため、ノートPC、PDA、その他のワイヤレスLAN周辺装置に簡単に接続することができます。独自に開発したスロットは、将来のアップグレードに備えて802.11g規格をサポートしています。2-19ページをご覧ください。

C.P.R. (CPU パラメータリコール)

マザーボードのC.P.R.機能により、オーバークロックのためにシステムがハングアップした場合、BIOSのデフォルト設定を自動的に再設定することができます。オーバークロックのためにシステムがハングアップしたとき、C.P.R.はシステムシャーシを開かずにRTCデータを消去します。システムをシャットダウンして再ブートすると、BIOSはそれぞれのパラメータに対するBIOSデフォルト設定を自動的に復元します。

AI ネットソリューション

3Com® 3C940 Gigabit PCI LAN コントローラチップセットはボード上に搭載されて、LANオンマザーボード(LOM)アプリケーション用のシングルチップソリューションを実現しています。3C940コントローラは32ビット10/100/1000BASE-T Gigabitイーサネットメディアアクセスコントロール (IEEE 802.3 準拠)と物理層トランシーバソリューションを統合して、高性能ネットワークアプリケーションをサポートします。コントローラはネット診断ユーティリティ、VCT (仮想ケーブルテスター)を組み込んで、100メートルまでの離れた場所からケーブル障害をインテリジェントに診断し報告します。この機能により、安定したネットワーク接続を簡単に維持することができます。5-34ページをご覧ください。

AI BIOS ソリューション

AI BIOS は、次のASUSの3つのインテリジェントなソリューションを組み合わせたものです: CrashFree BIOS2、Q-Fan、POST Reporter。

ASUS Qファンテクノロジー

ASUS Qファンテクノロジーはシステムローディングに従ってファン速度をスマートに調節し、静かで、熱を発生させない、効率的な操作を確保します。

ASUS POST Reporter™



本マザーボードはASUS POST Reporter™ と呼ばれる新しいエキサイティングな機能を提供し、パワーオンセルフテスト(POST)の間に親しみやすい音声メッセージと警告を出して、システムのブートステータスとブートエラーがあればその原因を通知します。バンドリングされたWinbond Voice Editorソフトウェアにより、異なる言語で音声メッセージをカスタマイズすることができます。3-2ページをご覧ください。

CrashFree BIOS 2



この機能により、BIOSコードやデータが破損したとき、サポートCDやブート可能なフロッピーディスクからオリジナルのBIOSデータを復元することが可能になります。この保護により、交換用のROMチップを買う必要がなくなります。4-5ページをご覧ください。

ASUS MyLogo2™



本マザーボードに搭載されたこの新機能により、カスタマイズ可能なブートロゴでシステムに自分のスタイルを追加することができます。5-8ページをご覧ください。

ASUS 多言語BIOS



多言語BIOSにより、利用可能なオプションから希望する言語を選択できます。ローカライズされたBIOSメニューでは、簡単かつ素早く構成することを可能にしています。サポートされる言語については、ASUSのWebサイトにアクセスしてください。4-10ページをご覧ください。

IEEE 1394 のサポート



ボード上のIEEE 1394インターフェイスは、IEEE 1394aに準拠する幅広い範囲の周辺装置やデバイスに、高速かつ柔軟性に富むPC接続性を提供しています。IEEE 1394により、コンピュータ、周辺装置、ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラなどの家庭用電化製品の間でインターフェイスを取る、簡単で、低コスト、高いバンド幅の非同期（リアルタイム）データを通して400Mbpsまでの転送速度を可能にします。2-30ページをご覧ください。

6チャンネルオーディオソリューション

K8V DeluxeはオンボードオーディオCODECを使用して、最新のサウンドカードを買わずに高品質6チャンネルオーディオをお楽しみいただけます。5-14ページをご覧ください。

S/PDIF出力ポート

K8V DeluxeはS/PDIF出力インターフェイスを通して、外部のホームシアターオーディオシステムに便利な接続性を提供しています。お気に入りのDVDやゲームを再生しながら、サウンドや機能強化された3D オーディオをお楽しみください。

ASUS インスタントミュージック

この独特な機能により、オペレーティングシステムに入らなくてもオーディオファイルを再生することができます。ASUSインスタントミュージックの特殊機能キーを押すだけで、音楽をお楽しみいただけます!

ASUS EZ Flash BIOS

ASUS EZ Flashを使うと、オペレーティングシステムをロードする前でもシステムBIOSを簡単に更新できます。DOSベースのユーティリティやフロッピーディスクからブートする必要はありません。4-4ページをご覧ください。

USB 2.0 ポートテクノロジー

USB 2.0 は、最新の外部周辺機器用インターフェイスです。従来のUSBインターフェイスの約40倍：480 MB/s のデータ転送速度を持ちます。デジタルビデオや大容量ストレージとの接続に威力を発揮します。USB 2.0 規格は、従来のUSB 1.1 と上位互換性があります。2-29ページをご覧ください。

ボーナス!

無料でバンドルされたTrendMicro™PC-cillin 2002 ウィルス駆除ソフトウェア (OEM バージョン)

1.3.2 付加価値ソリューション

温度、ファン、電圧の監視

CPU 温度は過熱と損傷を防ぐために、Winbond W83697HFによって監視されます。毎分のシステムファン回転(RPM)は障害を検出するために適時監視されます。システムの電圧レベルは、重要なコンポーネントに対し電流の安定供給を確保するために監視されます。

ASUS 更新

このユーティリティにより、使い勝手のよいインターフェイスを通してマザーボードBIOSを更新できます。インターネットに接続したら最寄りのASUS FTPサイトにアクセスして、マザーボード用の最新BIOSバージョンを入手してください。

1.4 マザーボードの概要

マザーボードを取付ける前に、物理構成と利用可能な機能に精通しておく
と、マザーボードの取り付けと将来のアップグレードが容易になります。
マザーボード仕様に対する十分な知識があれば、ボードとそのコンポーネ
ントを損傷する恐れのあるミスを避けることができます。

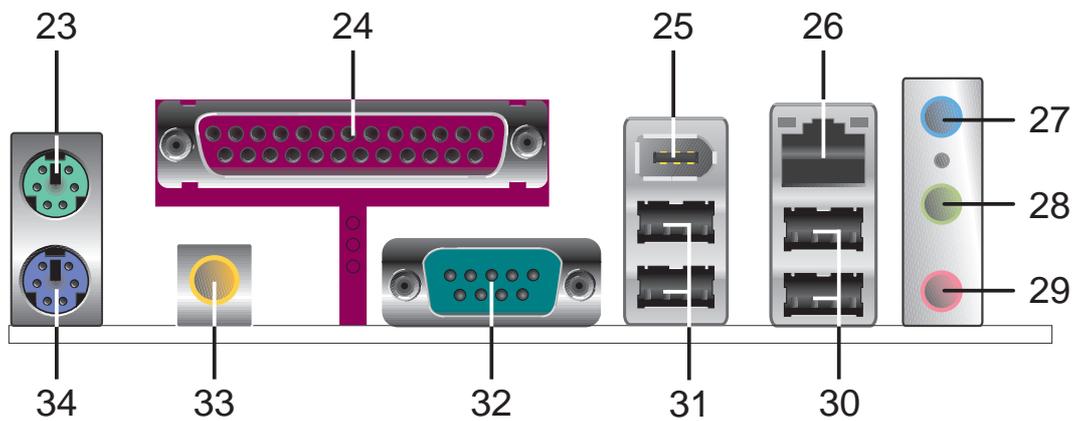
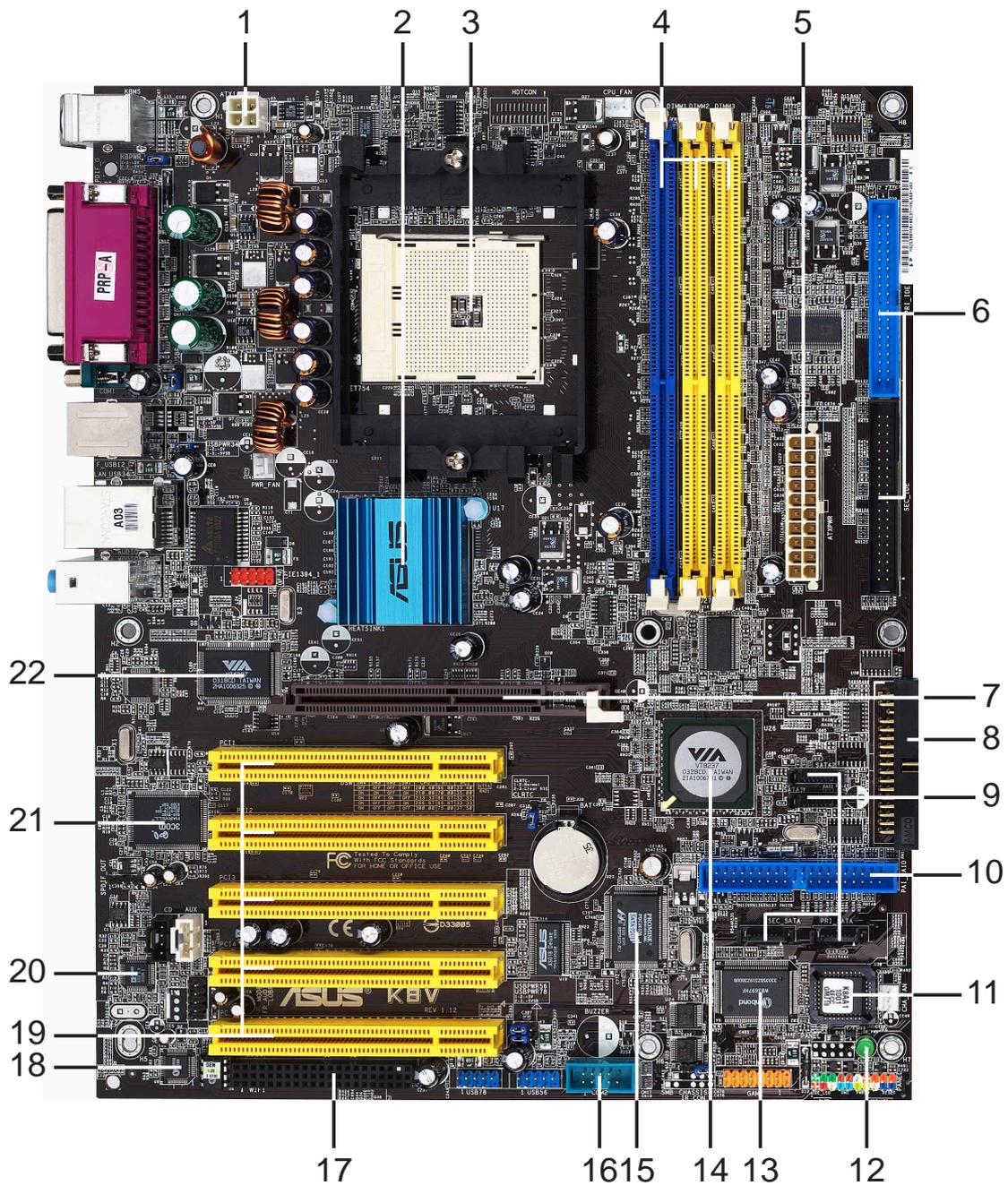
1.4.1 主なコンポーネント

次は、1-7ページの図で指摘した、K8V Deluxeマザーボードの主なコン
ポーネントです。

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. ATX12V電源コネクタ | 18. スピーチコントローラ |
| 2. ノースブリッジコントローラ | 19. PCIコネクタ |
| 3. CPUソケット | 20. オーディオCODEC |
| 4. DDR DIMM ソケット | 21. GigabitLANコントローラ |
| 5. ATX電源コネクタ | 22. IEEE 1394コントローラ |
| 6. IDEコネクタ | 23. PS/2マウスポート |
| 7. AGP 8X スロット | 24. パラレルポート |
| 8. フロッピーディスクコネクタ | 25. IEEE 1394ポート |
| 9. SATAコネクタ | 26. RJ-45ポート |
| 10. RAID Ultra ATA133コネクタ | 27. ラインインジャック |
| 11. ラッシュROM | 28. ラインアウトジャック |
| 12. スタンバイ電源LED | 29. マイクジャック |
| 13. Super I/Oコントローラ | 30. USB 2.0ポート1および2 |
| 14. サウスブリッジコントローラ | 31. USB 2.0ポート3および4 |
| 15. RAIDコントローラ | 32. シリアルポート |
| 16. COM2コネクタ | 33. S/PDIFジャック |
| 17. Wi-Fiコネクタ | 34. キーボードポート |



各コンポーネントの仕様については1-8ページをご覧ください。コン
ポーネントの詳細については、第2章を参照してください。



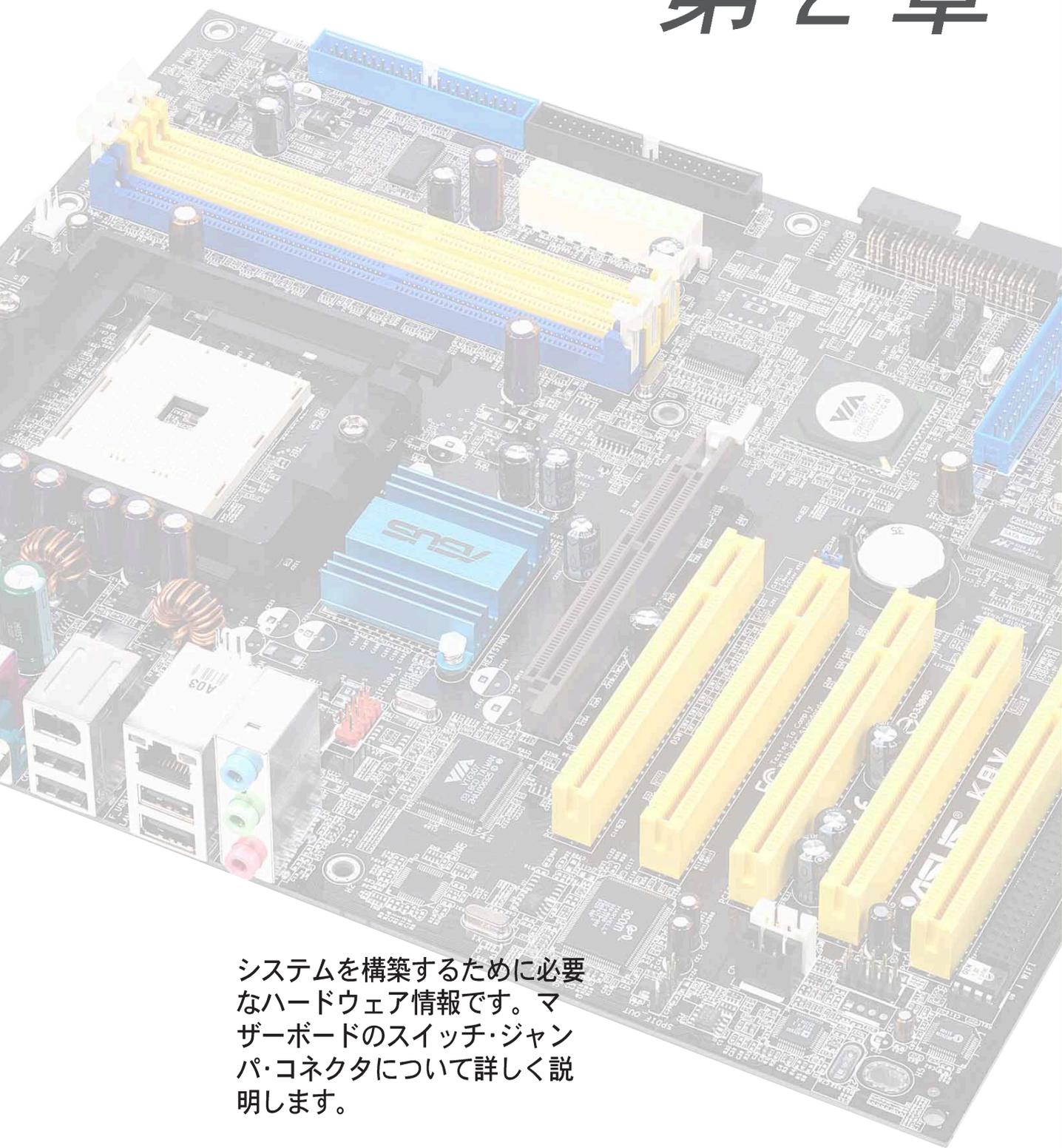
1.4.2 コア仕様

- 1** ATX 12V コネクタ。この電源コネクタは、ATX 12V 電源装置から出る4ピン12Vプラグを接続します。
- 2** ノースブリッジコントローラ。VIA® K8T800 はAGP 8X モード、Ultra V-Link、極度に拡張可能なHyperTransport™をサポートしてCPUにリンクしています。
- 3** CPUソケット。AMD® Athlon64™ プロセッサ用に設計された754ピンサーフェスマウント、ゼロインサージョンフォース(ZIF)ソケットで、統合低レイテンシ高バンド幅メモリコントローラ、拡張性の高いHyperTransport™テクノロジベースのシステムバス。
- 4** DDR DIMM ソケット。これらの3つの184ピンDIMM ソケットは、バッファなしECCまたは非ECC PC3200/2700/2100/1600 DDR DIMMを使用して、最大3GBのシステムメモリをサポートします。
- 5** ATX 電源コネクタ。この20ピンコネクタはATX 12V 電源装置に接続します。電源装置は+5V スタンバイリード(+5VSB)上に少なくとも1.5Aがなければなりません。
- 6** IDE コネクタ。これらのデュアルチャネルバスマスタIDEコネクタウルトラ DMA133/100、PIO モード3 & 4 IDE デバイスをサポートします。1次 (青) および2次 (黒) コネクタにはどちらも、IDEリボンケーブルを間違えて挿入しないように溝が刻んであります。
- 7** AGP スロット。このアクセラレーテッドグラフィックスポート (AGP) スロットは、3Dグラフィカルアプリケーション用に1.5V AGP 8X モードのグラフィックスカードをサポートし、最大2.1GB/秒のバンド幅を提供します。
- 8** フロッピーディスクコネクタ。このコネクタは、フロッピーディスクドライブ用に付属のリボンケーブルを提供しています。コネクタの片側には、フロッピーディスクケーブルを間違えて差し込むことがないように溝が刻んであります。
- 9** SATA コネクタ。この4つの7ピンコネクタはSerial ATA HDDをサポートし、133 MB/秒の標準のParallel ATA より速い、150MB/秒までのデータ転送速度を可能にします。
- 10** RAID ATA133 コネクタ。このコネクタは2つのウルトラUltra DMA/133 HDDをサポートします。
- 11** フラッシュROM 。この4Mbファームウェアハブ(FWH)には、プログラム可能なBIOS プログラムが含まれています。
- 12** スタンバイ電源LED。このLEDは、マザーボードにスタンバイ電源が供給されていれば点灯します。このLED は、装置にプラグを差し込んだり装置からプラグを抜く前に、システム電源をオフにするように注意を促すものとして機能します。

- 13** スーパーI/O コントローラ。Winbond W83697HF は一般に使用されているスーパーI/O 機能を提供しています。チップセットは、360K/720K/1.44M/2.88M フロッピーディスクドライブ用高性能フロッピーディスクコントローラ、マルチモードパラレルポート、2つのシリアルポート、マウスとキーボードインターフェイス、LPC（ローピンカウント）インターフェイスをサポートしています。
- 14** サウスブリッジコントローラ。VIA® VT8237 は、2つのシリアルATAポート、RAID機能、2チャンネル、ATA/133 バスマスタ IDE コントローラ、最大8つのUSB 2.0ポート、LPC スーパーI/O インターフェイス、AC'97 インターフェイス、PCI 2.2インターフェイスなどの、さまざまなI/O機能をサポートしています。
- 15** RAID コントローラ。このコネクタは2つのウルトラATA133 HDDをサポートします。RAIDモデルの場合、このコネクタのHDDは、SATA RAID コネクタ上で、シリアルATA HDDと共にRAID0、RAID1、またはRAID0+1として構成できます。
- 16** COM2 コネクタ。この 9-pin COM2 コネクタは追加シリアルポートのCOM2ケーブル用です。
- 17** Wi-Fi スロット。Wi-Fi(ワイヤレスフィデリティ)スロットは、ワイヤレスネットワーキングに対してWi-Fi装置を接続し、2.4 GHzバンドで11Mbpsの転送（5.5、2、1 Mbpsにフォールバック）を可能にします。Wi-FiネットワークはIEEE 802.11b (以降)として知られる無線テクノロジーを使用して、高速で信頼性の高いワイヤレス接続を提供します。
- 18** スピーチコントローラ。Winbond 83791SDは、POSTスピーチ機能を使いやすくしています。
- 19** PCI スロット。これらの5つの32ビットPCI 2.3拡張スロットは、133MB/秒の最大スループットを持つSCSIやLANカードのような、バスマスタPCIカードをサポートします。
- 20** オーディオCODEC。ADI 1980は、PCマルチメディアシステム用AC'97 準拠のオーディオCODECです。
- 21** Gigabit LANコントローラ。3Com® Gigabit LAN は、従来の10/100イーサネット接続に比べ最大10倍の高い速度を実現しています。ビデオ、オーディオ、オンデマンドなどの大容量データを処理するのに最適です。
- 22** IEEE 1394コントローラ。VIA® VT6307はシングルチップの、低電力2ポートIEEE 1394ホストコントローラで、幅広い周辺装置と家庭用電化製品に対して高速で、柔軟性に富んだ接続を提供しています。
- 23** PS/2 マウスポート。この緑色の6ピンコネクタはPS/2マウス用です。

- 24** パラレルポート。この25ピンポートはパラレルプリンタ、スキャナ、またはその他のデバイスを接続します。
- 25** IEEE 1394 ポート。この6ピンポートはビデオカメラ、VCR、プリンタ、デジタルカメラのようなIEEE 1394準拠デバイスを接続します。
- 26** RJ-45 ポート。このポートにより、ネットワークハブを通して構内通信網(LAN)に接続できます。
- 27** ラインインジャック。このラインイン (ライトブルー) ジャックは、テーププレーヤーまたはその他のオーディオソースに接続されます。6チャンネルモードで、このジャックの機能は低音/センタースピーカーになります。
- 28** ラインアウトジャック。このラインアウト (ライム色) ジャックはヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能はフロントスピーカーアウトになります。
- 29** マイクジャック。このMic (ピンク色) ジャックはマイクを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能はリアスピーカーアウトになります。
- 30** USB 2.0 ポート 1 および 2。これらの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0デバイスを接続するために利用できます。
- 31** USB 2.0ポート 3 および 4。これらの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0デバイスを接続するために利用できます。
- 32** シリアルポート。この9ピンCOM1ポートはポインティングデバイスまたはその他のシリアルデバイス用です。
- 33** S/PDIF ジャック。このジャックは外部オーディオ出力デバイスに接続します。
- 34** PS/2キーボードポート。この紫色のコネクタはPS/2キーボード用です。

第2章



システムを構築するために必要なハードウェア情報です。マザーボードのスイッチ・ジャンパ・コネクタについて詳しく説明します。

ハードウェアセットアップ

本章の内容

2.1	マザーボードの取り付け	2-1
2.2	マザーボードのレイアウト	2-2
2.3	続行する前に	2-3
2.4	中央処理装置(CPU)	2-4
2.5	システムメモリ	2-11
2.6	拡張スロット	2-15
2.7	ジャンパ	2-20
2.8	コネクタ	2-23

2.1 マザーボードの取り付け

マザーボードを取付ける前に、シャーシの構成を調べてマザーボードがシャーシにフィットするかどうかを確認してください。マザーボードは、ATXフォームファクタを使用し、30.5 x 24.5 cmを測定します。



マザーボードの取り付けまたは取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。そうしないと、負傷したりマザーボードコンポーネントが損傷することがあります。

2.1.1 配置方向

マザーボードを取付けるとき、マザーボードがシャーシに正しい向きで配置されていることを確認してください。外部ポートのあるエッジは、下の図に示すようにシャーシの背面にあります。

2.1.2 ネジ穴

9本のネジを円で示された穴に取り付け、マザーボードをシャーシに固定します。

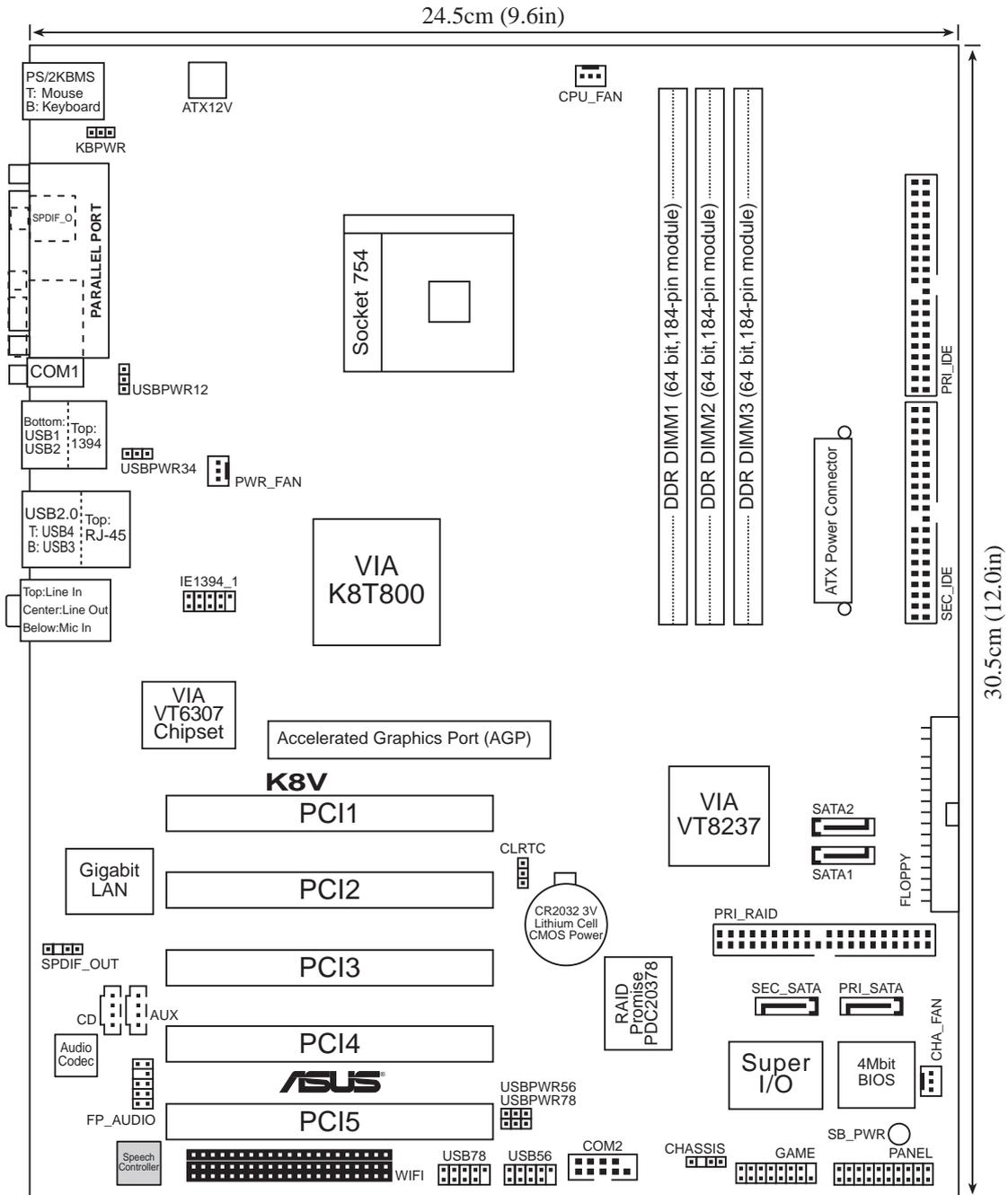


ネジをきつく締めすぎないでください! マザーボードが損傷する原因となります。

この面をシャーシ背面に向けて置いてください。



2.2 マザーボードのレイアウト



2.3 続行する前に

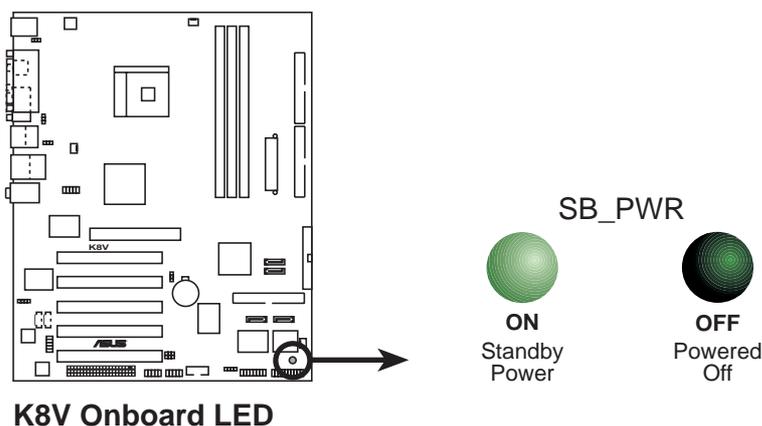
マザーボードコンポーネントを取付ける前に、またはマザーボード設定を変更する前に、次の注意事項を守ってください。



1. コンポーネントに触れる前に、コンセントから電源コードを抜く。
2. コンポーネントを取り扱う前は、静電気で損傷しないように、アースされたリストバンドを使用するか、安全にアースされた物体または電源装置のケースなどの金属物体に触れる。
3. ICに触れないように、コンポーネントを持つときは端をつかむ。
4. コンポーネントを取り外すときは、必ずアースされた静電気防止パッドの上に置くか、またはコンポーネントに付属する袋の中に入れる。
5. コンポーネントの取り付け/取り外しを行う前に、ATX電源装置の電源がオフになっていることを、または電源コードが電源装置から抜いてあることを確認する。そうしないと、マザーボードや周辺装置、コンポーネントなどが損傷する原因となります。



緑色のLED(SB_PWR)が点灯していると、システムはオン、スリープモード、またはソフトオフモードのいずれかになっており、マザーボードコンポーネントを取り外したりプラグを抜く前に、必ずシステムをシャットダウンし電源ケーブルを抜く必要があります。



2.4 中央処理装置(CPU)

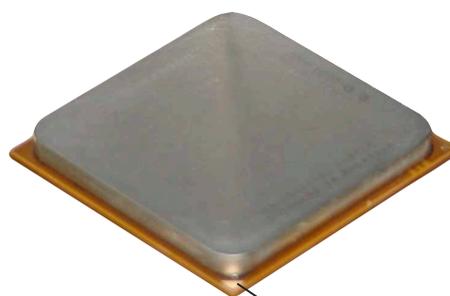
2.4.1 概要

マザーボードには、サーフェスマウント754ピンのゼロインサクションフォース(ZIF)ソケットが付属しています。ソケットは754ピンの蓋つきセラミックマイクロPGAパッケージの、新しいAMD Athlon™ 64プロセッサ用に設計されています。AMD Athlon™ 64プロセッサは業界標準のx86命令セットアーキテクチャに基づく64ビットのデスクトッププロセッサで、x86ベースの32ビットと64ビットアプリケーションを実行できます。プロセッサには、低いレイテンシ高いバンド幅メモリコントローラと拡張性の高いHyperTransport™ テクノロジベースのシステムバスが統合されています。また、プロセッサにはL1およびL2キャッシュデータとDRAM ECC保護（チップキル付）用のエラー訂正コード(ECC)が含まれています。

さらに、AMD Athlon™ 64プロセッサの128ビット幅データパスは、32または64ビット幅のデータパスしかない従来のプロセッサより高速でアプリケーションを実行します。現在の32ビットプロセッサには、4ギガバイトメモリアドレッシングキャップが搭載されています。AMD Athlon™ 64には40ビットの物理および48ビットの仮想アドレッシング

キャップが搭載されていて、システムが最大1テラバイトの物理メモリスペースと256テラバイトの仮想メモリにアドレス指定できるようにしています。

図の1つの隅に金色の三角形があることにご注意ください。このマークは、CPUソケットの特定の隅に一致するプロセッサピンA1を示しています。

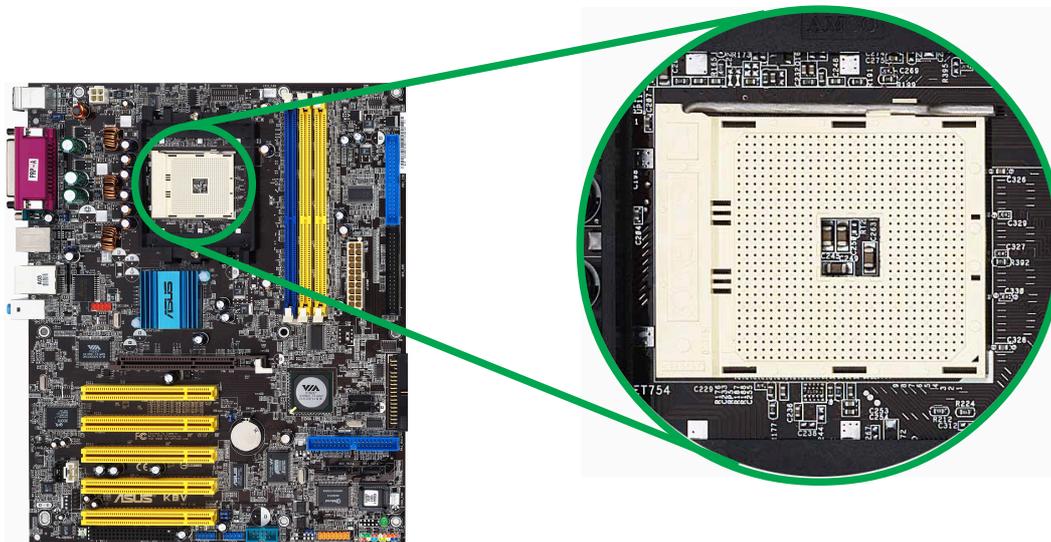


金色の三角形

2.4.2 CPUを取り付ける

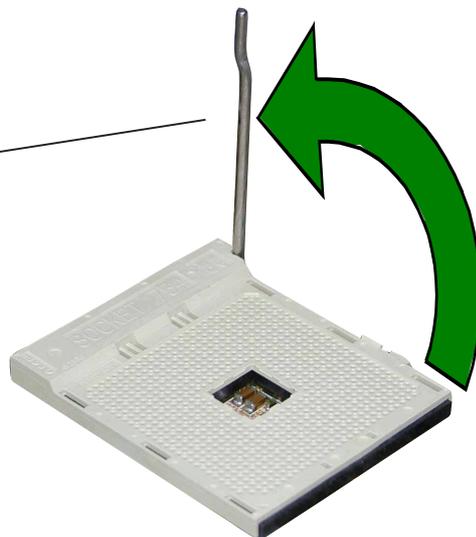
次の手順に従って、CPUを取付けます。

1. マザーボードで、754ピンZIFソケットを探します。



2. レバーを横側に押し、ソケットのロックを解除し、90°-100°の角度まで持ち上げます。

ソケットレバー

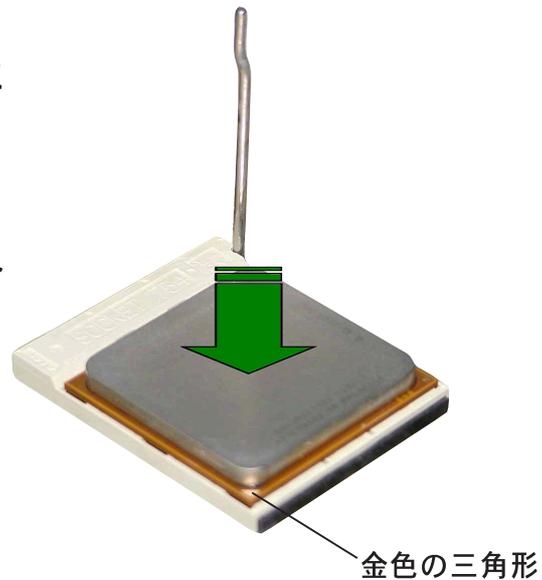


ソケットレバーが90°-100°の角度に持ち上げられていることを確認してください。そうでないと、CPUは完全にフィットしません。



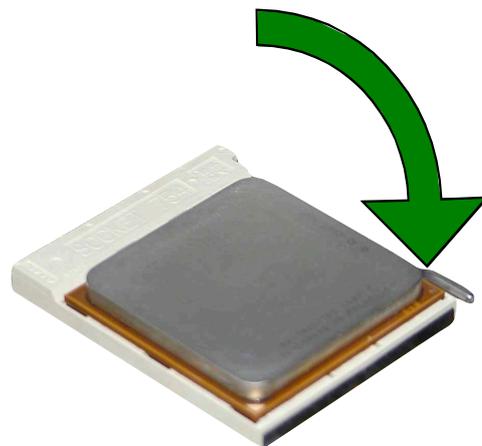
CPUをソケットに間違って挿入すると、ピンが曲がりCPUがひどく損傷する原因となります。

3. CPUの金色の三角形のある隅がソケットの小さな三角形がある隅に合うように、CPUをソケットの上に置きます。
4. CPUが適切な位置にフィットするまで、ソケットにそっと差し込みます。



CPUは1つの方向にしか正しくフィットしません。CPUをソケットに差し込むときに無理に力を入れないでください。ピンが曲がったり、CPUが損傷する原因となります。

5. CPUを適切な場所に取り付けたら、ソケットレバーを押し下げてCPUを固定します。レバーがサイドタブでカチッと鳴ると、ロックされたことを示します。



2.4.3 ヒートシンクとファンを取り付ける

AMD Athlon 64™ プロセッサは、最適の熱状態と性能を確実にするには、特別に設計されたヒートシンクとファンアセンブリを必要とします。



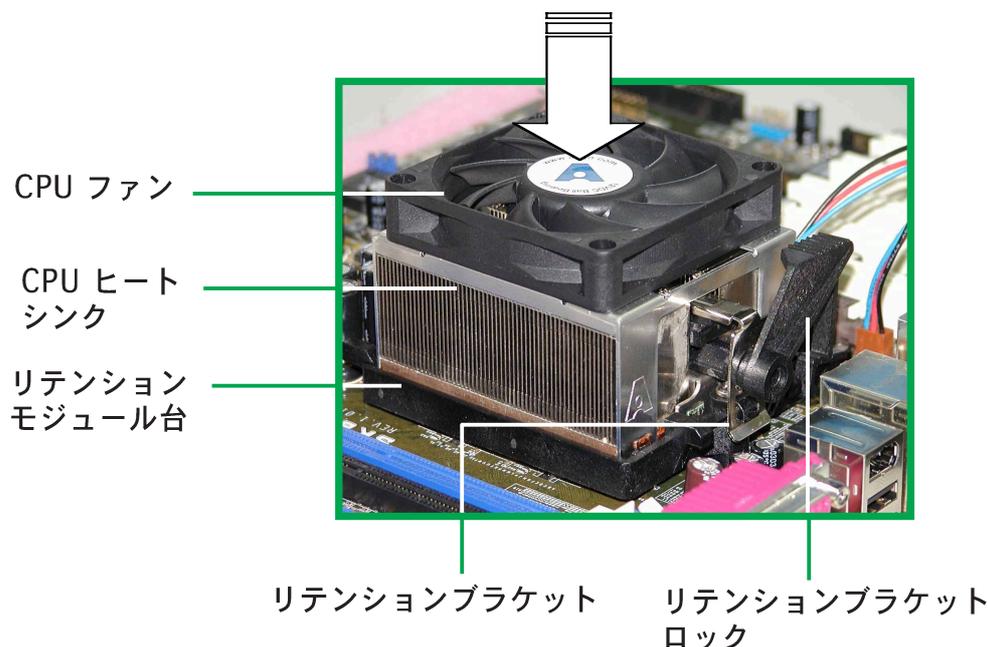
公認のヒートシンクとファンアセンブリのみを使用していることを確認してください。

以下の手順に従って、CPUヒートシンクとファンを取り付けてください。

1. 取り付けたCPUの上部に、ヒートシンクがリテンションモジュール台に正しくフィットしていることを確認しながら、ヒートシンクを配置します。

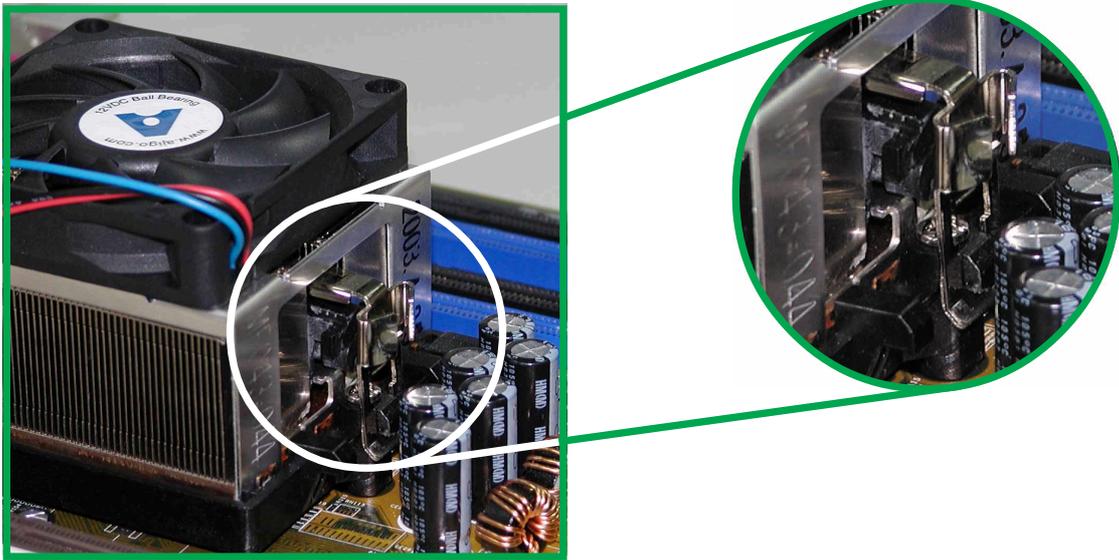


リテンションモジュール台は、購入されたマザーボードにすでに取り付けられています。CPUまたはマザーボードコンポーネントを取り付けるとき、リテンションモジュール台を取り外す必要はありません。



箱入りCPUヒートシンクとファンアセンブリにはCPU、ヒートシンク、リテンションメカニズム用のインストール説明書が付属していません。本項の説明がCPUの説明と一致しないときは、CPUの説明に従ってください。

- リテンションブラケットの一方の端をリテンションモジュールベースに取り付けます。

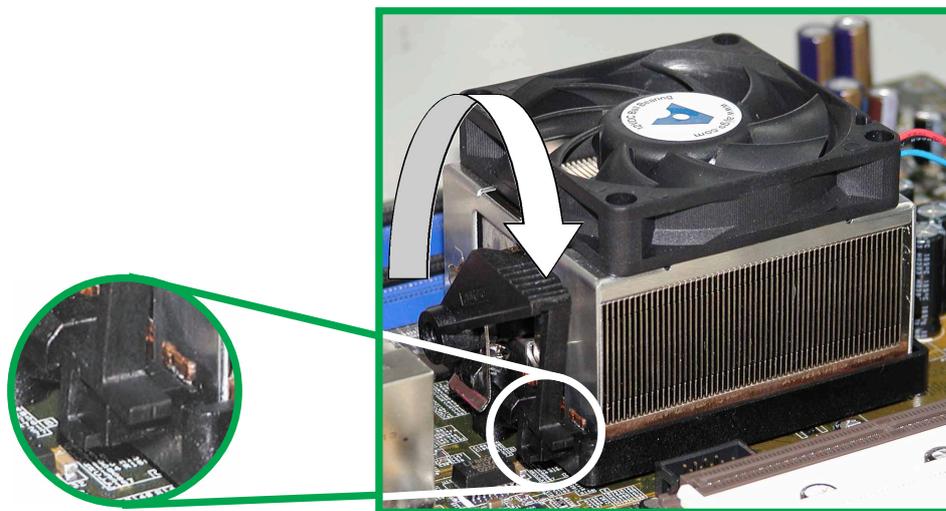


- リテンションブラケットのもう一方の端（リテンションブラケットロックの傍）をリテンションモジュールベースに一直線に揃えます。クリック音がすると、リテンションブラケットは正しい位置に取り付けられたことを示します。



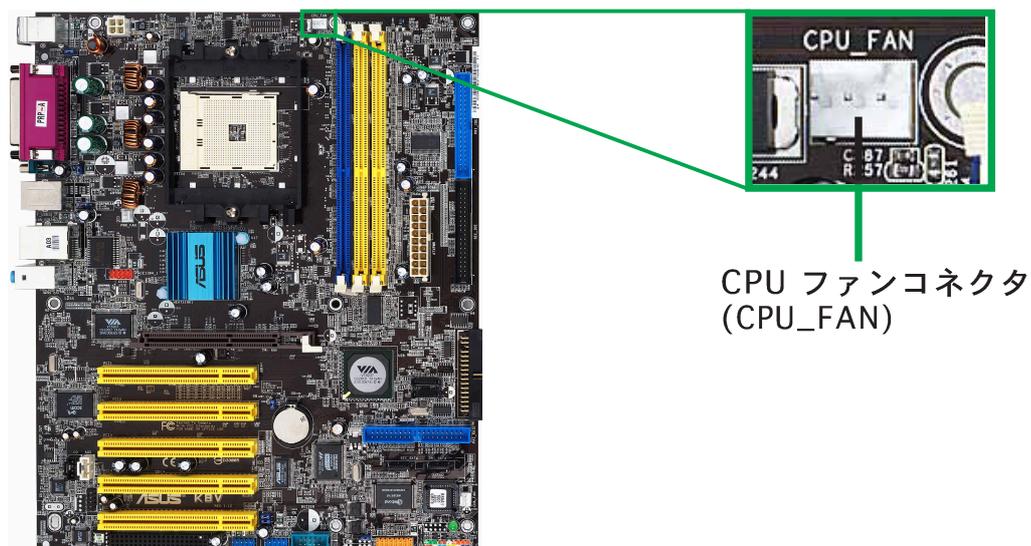
ファンとヒートシンクアセンブリが、リテンションメカニズムモジュールベースにフィットしていることを確認してください。そうでないと、リテンションブラケットを正しい位置に取り付けられません。

4. リテンションブラケットロックをリテンションメカニズムに押し下げ、ヒートシンクとファンをモジュールベースに固定します。



2.4.4 CPUファンケーブルを接続する

ファン、ヒートシンク、リテンションメカニズムを適切な位置に取り付けたら、CPUファンケーブルをCPU_FANとラベルされたマザーボードのコネクタに接続します。



CPUファンコネクタの接続を忘れないでください! このコネクタを接続しないと、ハードウェア監視エラーが発生する原因となります。

2.4.5 CPUヒートシンクとファンの公認メーカーリスト

次の表は、このマザーボードで使用するためにテストされ公認された、CPUヒートシンクとファンアセンブリを一覧表示しています。

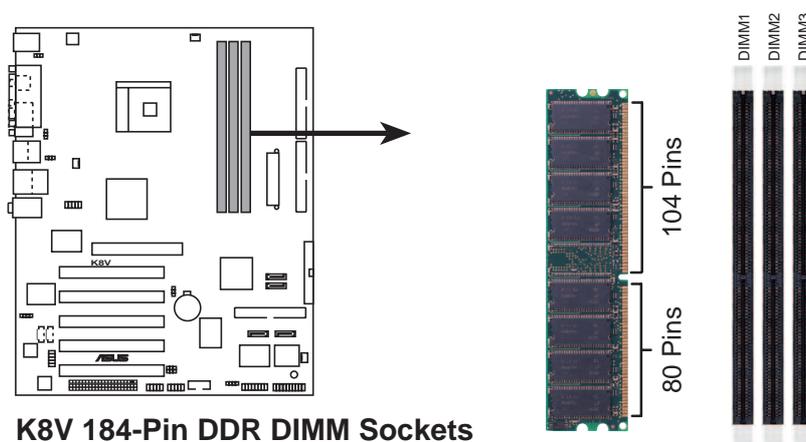
メーカー	部品番号
AVC	Z7UB003
Thermaltake	AP1892
Taisol	111-8061010-90

2.5 システムメモリ

2.5.1 概要

このマザーボードには、3つのダブルデータレート(DDR)デュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが付属しています。これらのソケットは、184ピンのバッファなしECCまたは非ECC PC3200/PC2700/PC2100/PC1600 DDR DIMMを使用して最大3GBのシステムメモリをサポートし、最大5.33GB/秒のデータ転送速度を可能にしています。

次の図は、DDR DIMMソケットの位置を説明しています。



DDRテクノロジーに関する注

DDR SDRAM テクノロジーは、シングルデータレート(SDR) SDRAM、DDRとして知られるメインストリームPC66、PC100、PC133メモリから発展したものです。しかし、DDRメモリには1つのクロックサイクルで2つのデータ操作を実行する機能があり、これによってSDRメモリのスループットを2倍にしています。

DDR DIMM はSDR DIMMと同じ物理的寸法を持っていますが、SDR DIMMが168ピンなのに対して184のフットプリントしかありません。また、DDR DIMMはシングルノッチですが、SDR DIMM はダブルノッチです。従って、DDR DIMM はSDRと下位互換性がなく、DDR DIMM用に特別に設計されたソケットのみに取り付ける必要があります。

2.5.2 メモリ構成

本項のメモリ構成を使用して、64MB、128MB、256MB、512MB、1GB DDR DIMMをDIMMソケットに取り付けることができます。

重要な注



1. 推奨する構成以外のDDR DIMMを取り付けると、メモリサイジングエラーとシステムブートエラーが起こる原因となります。表1の推奨構成をご使用ください。
2. 最適の互換性を得るために、公認メーカーからメモリモジュールを購入する必要があります。公認メーカーのリストについては、2-13ページをご覧ください。
3. まず、青いDIMMスロットを使用するようにお勧めします。
4. 18以上のチップを搭載した積層RAMとDDR DIMMモジュールは、サポートされていません。
5. 常に同じCASレイテンシを持つDIMMを取り付けてください。最適の互換性を得るには、同じベンダーからメモリモジュールを入手することをお勧めします。

表1 推奨されるメモリ構成

DIMMの数	DIMMスロット			最高速度
	DIMM1	DIMM2	DIMM3	
1	シングルサイド	-	-	DDR 400
1	-	シングルサイド	-	DDR 400
1	-	-	シングルサイド	DDR 400
1	ダブルサイド	-	-	DDR 400
1	-	ダブルサイド	-	DDR 400
1	-	-	ダブルサイド	DDR 400
2	シングルサイド	シングルサイド	-	DDR 400
2	シングルサイド	ダブルサイド	-	DDR 400
2	シングルサイド	-	シングルサイド	DDR 400
2	シングルサイド	-	ダブルサイド	DDR 400
2	ダブルサイド	シングルサイド	-	DDR 400
2	ダブルサイド	ダブルサイド	-	DDR 400
2	ダブルサイド	-	シングルサイド	DDR 400
2	-	シングルサイド	シングルサイド	DDR 400
2	-	シングルサイド	ダブルサイド	DDR 400
2	-	ダブルサイド	シングルサイド	DDR 400
2	-	ダブルサイド	ダブルサイド	DDR 400
2	ダブルサイド	-	ダブルサイド	DDR 400

表1 推奨されるメモリ構成(継続)

DIMMの数	DIMMスロット			最高速度
	DIMM1	DIMM2	DIMM3	
3	シングルサイド	シングルサイド	シングルサイド	DDR 333
3	シングルサイド	シングルサイド	ダブルサイド	DDR 200
3	シングルサイド	ダブルサイド	シングルサイド	DDR 200
3	シングルサイド	ダブルサイド	ダブルサイド	DDR 200
3	ダブルサイド	シングルサイド	シングルサイド	DDR 333
3	ダブルサイド	シングルサイド	ダブルサイド	DDR 200
3	ダブルサイド	ダブルサイド	シングルサイド	DDR 200
3	ダブルサイド	ダブルサイド	ダブルサイド	DDR 200

2.5.2.1 DDR 推奨ベンダーリスト (QVL)

次の表は、このマザーボードで使用するためにテストされ認可を得た、PC3200 (DDR400)メモリモジュールの一覧を表示しています。

表1 DDR400 推奨ベンダーリスト (QVL)

サイズ	ベンダー	モジュール	DS/SS	コンポーネント
512 MB	Infineon	HYB25D256800BT-5B	DS	HYS64D64320GU-5-B
256 MB	Micron	MT46V32M8TG-5BC	SS	MT8VDDT3264AG-40BC4
512 MB	Micron	MT46V32M8TG-5BC	DS	MT16VDDT6464AG-40BC4
256 MB	ATP	K4H560838D-TCC4	SS	AG32L64T8SQC4S
256 MB	Brain Power	K4H560838D-TCC4	SS	B6U808-256M-SAM-400
512 MB	Brain Power	K4H560838D-TCC4	DS	B6U808-512M-SAM-400



最新の認可を得たベンダーのDDR 400モジュール一覧については、ASUSのWebサイト(www.asus.co.jp)にアクセスしてください。



最高のシステム性能を得るために、ASUS推奨のベンダーからのみDDR DIMMをお求めください。

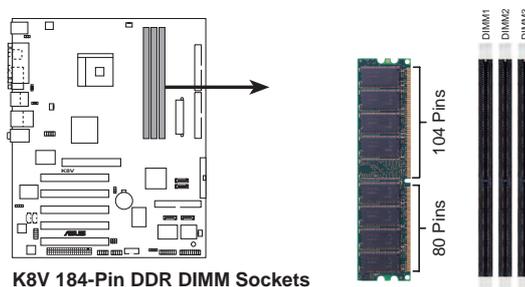
2.5.3 DIMMの取り付け



DIMMまたはその他のコンポーネントの増設または取り外しを行う前に、電源装置を抜いていることを確認してください。そうしないと、マザーボードとコンポーネントがひどい損傷をこうむる原因となります。

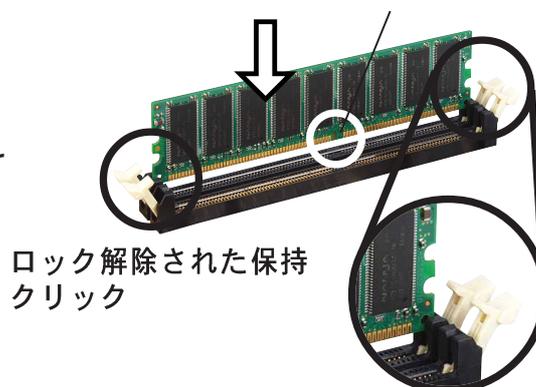
次の手順に従って、DIMMを取り付けてください。

1. マザーボードのDIMMソケットの位置を確認します。



DDR DIMMノッチ

2. 保持クリップを外側に押して、DIMMのロック解除を行います。
3. DIMMのノッチがソケットの裂け目に一致するようにDIMMをソケットに合わせます。

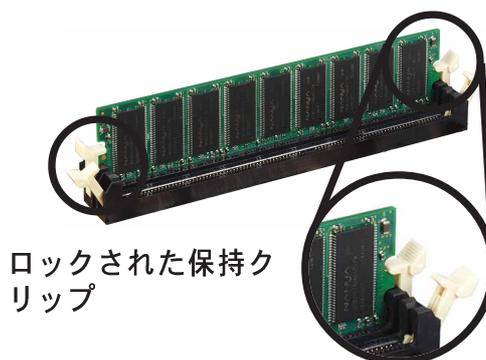


ロック解除された保持クリック



DDR DIMMには、一方向にのみフィットするようにノッチが付いています。DIMMが損傷する原因となるので、DIMMをソケットに無理に押し込まないでください。

4. 保持クリップがカチッと音を立てて適切な位置に閉まりDIMMが正しく取り付けられるまで、DIMMをソケットにしっかりと挿入します。

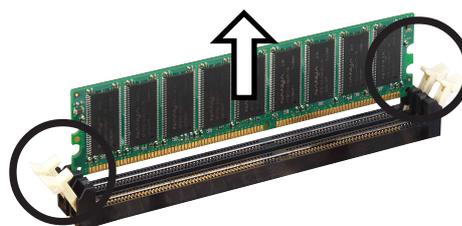


ロックされた保持クリップ

2.5.4 DIMMの取り外し

次の手順に従ってDIMMを取り外します。

1. 保持クリップを外側に同時に押し、DIMMのロック解除を行います。



保持クリップを押すとき、指でDIMMを軽く支えます。DIMMは余分な力を加えると弾き飛ばされて損傷をこうむることがあります。

2. ソケットからDIMMを取り外します。

2.6 拡張スロット

将来、拡張カードを取り付ける必要が生じる場合があります。マザーボードには5つのPCIスロット、1つのアクセラレーテッドグラフィックスポート(AGP)スロット、Wi-Fiスロットがあります。以下で、サポートされるスロットと拡張カードを説明します。



拡張カードの増設または取り外しを行う前に、電源コードを抜いていることを確認してください。そうしないと、負傷したりマザーボードコンポーネントが損傷する原因となります。

2.6.1 拡張カードの取り付け

次の手順に従って、拡張カードを取り付けます。

1. 拡張カードを取り付ける前に、カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェア設定を行ってください。
2. システム装置のカバーを取り外します（マザーボードがシャーシにすでに取り付けられている場合）。
3. 使用するスロットの反対側にあるブラケットを取り外します。将来使用するために、ネジは捨てずに保存してください。
4. カードコネクタをスロットに合わせ、カードがスロットに完全に取り付けられるまでしっかり押します。
5. カードを取り外したネジでシャーシに固定します。
6. システムのカバーを元に戻します。

2.6.2 拡張カードの構成

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェア設定を調整してカードを構成します。

1. システムの電源をオンにし、必要なBIOS設定を行います。BIOSセットアップの詳細については、第4章をご覧ください。
2. IRQをカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
3. 拡張カードのソフトウェアデバイスをインストールします。

標準の割り込み割当

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能割当
3*	11	通信ポート (COM2)
4*	12	通信ポート (COM1)
5*	13	サウンドカード (LPT2の場合もあります)
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	プリンタポート (LPT1)
8	3	システムCMOS/リアルタイムクロック
9*	4	ACPIモード (使用時)
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2互換マウスポート
13	8	数値データプロセッサ
14*	9	1次 IDE チャンネル
15*	10	2次 IDE チャンネル

* これらのIRQは、通常ISAまたはPCIデバイスで利用できます。

このマザーボード用のIRQ割当

	INTA	INTB	INTC	INTD
PCIスロット1	共有	—	—	—
PCIスロット2	—	共有	—	—
PCIスロット3	—	—	共有	—
PCIスロット4	—	—	—	使用済み
PCIスロット5	共有	—	—	—
オンボードLAN	—	共有	—	—
オンボードRAID	—	—	共有	—
オンボード1394	共有	—	—	—
シリアルATA	—	—	共有	—
AGP スロット	共有	—	—	—



共有スロットでPCIカードを使用しているとき、デバイスがIRQの共有をサポートしていることを、またはカードがIRQ割当を必要としていないことを確認してください。そうでないと、2つのPCIグループの間で競合が発生し、システムが不安定になったりカードを操作できなくなったりします。

2.6.3 PCI スロット

このマザーボードには、5つの32ビットPCIスロットがあります。スロットは、LANカード、SCSIカード、USBカード、およびPCI仕様に準拠するその他のカードなどのPCIカードをサポートします。



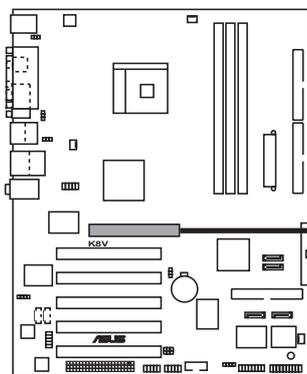
-
- PCI 5スロットとWi-Fiスロットは同時に使用できません。
 - PCI slots 1、2または3に取り付けられた長いPCIカードは、SATA またはRAID コネクタとインターフェイスを取る場合があります。
-

2.6.4 AGP スロット

このマザーボードには、+1.5V AGPカードのみをサポートするアクセラレーテッドグラフィックスポート(AGP)スロットが搭載されています。AGPカードをご購入になるとき、+1.5V仕様に準拠するカードを求めていることを確認してください。カードのゴールデンフィンガーのノッチは、マザーボードのAGPスロットに確実にフィットするためのものです。



このマザーボードには、1.5V AGPカード以外のカードを取り付けしないでください! 3.3V AGP カードはこのマザーボードでサポートされていません。



K8V Accelerated Graphics Port (AGP)



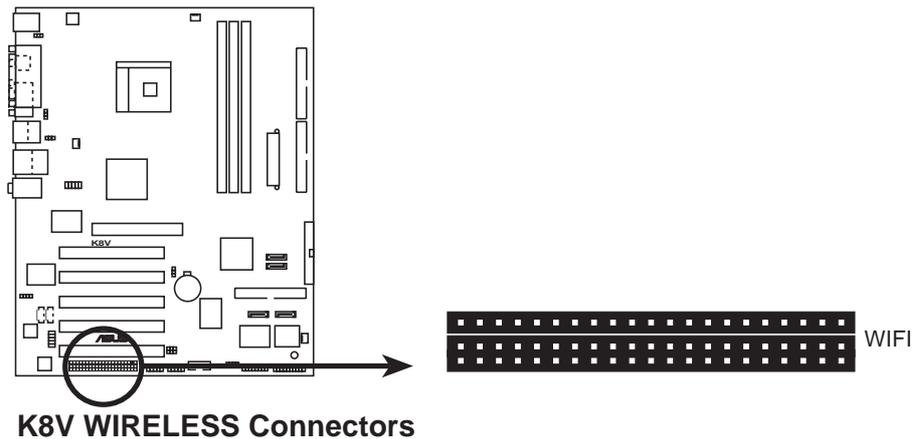
ATi 9500 または 9700 Pro Series VGAカードを取り付ける場合、最適の性能とオーバークロックの安定性を得るには、カードバージョン PN xxx-xxxxx-30以降のみを使用してください。



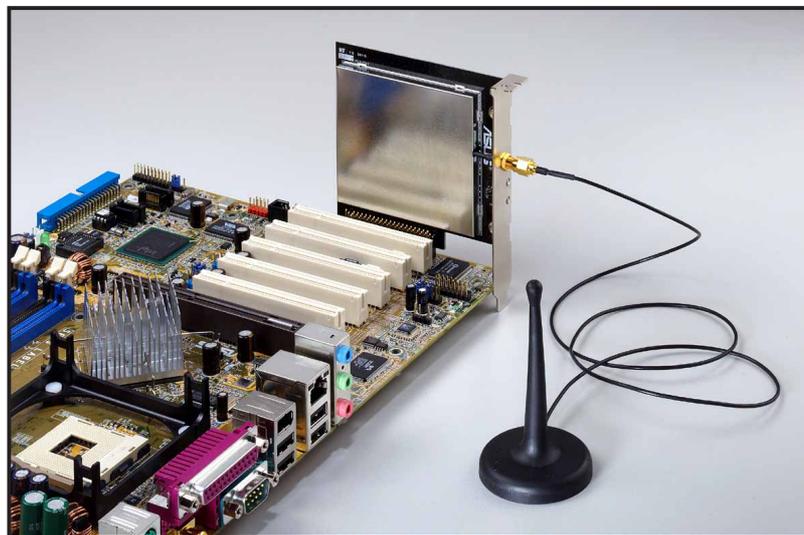
2.6.5 Wi-Fiスロット

Wi-Fi (Wireless Fidelity) スロットは利用可能なとき、ASUS Wi-Fiモジュールをサポートします。製品の更新については、ASUSのWebサイト (www.asus.co.jp)にアクセスしてください。

Wi-Fiスロットは、2.4 GHz周波数バンドで動作するワイヤレスデバイス用の米電気電子技術者協会(IEEE) 802.11b/g標準に準拠しています。



ASUS WiFi-b™ 設定



- ・ PCI 5スロットとWi-Fiスロットは、同時に使用できません。
- ・ Wi-Fiモジュールは別個にお買い求めください。

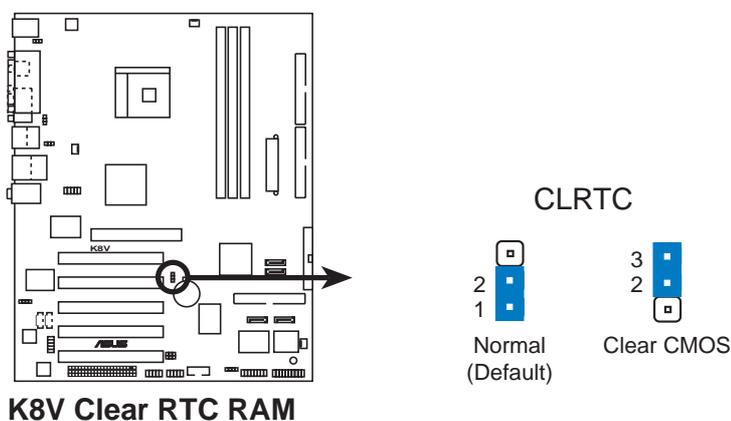
2.7 ジャンパ

1. RTC RAM (CLRTC)の消去

このジャンパによって、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去できます。CMOS RTC RAM データを消去することによって、CMOSメモリの日、時間、システムのセットアップパラメータを消去できます。CMOSのRAMデータは、システムパスワードなどのシステムセットアップ情報を含み、オンボードのボタンセルバッテリーによって電源を供給されます。

RTC RAMを消去するには、次の手順を実行します。

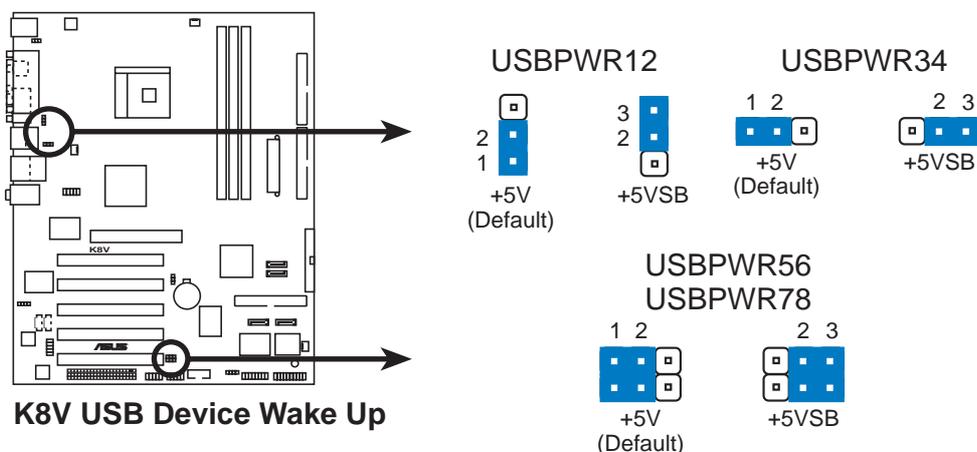
1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. ボード上のバッテリーを取り外します。
3. ピン1-2 (デフォルト) からピン2-3にジャンパキャップを移します。ピン2-3に約5~10秒間キャップをかぶせ、それからキャップをピン1-2に戻します。
4. バッテリーを交換します。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. ブートプロセスの間、キーを押し下げBIOSセットアップに入ったらデータを再入力します。



2. USBデバイスの呼び起こし (3ピンUSBPWR12、USBPWR34、USBPWR56、USBPWR78)

これらのジャンパを+5Vに設定すると、接続されたUSBデバイスを使用して、コンピュータをS1スリープモード（停止したCPU、リフレッシュしたDRAM、低パワーモードで実行するシステム）から呼び起こします。+5VSBに設定すると、S3とS4スリープモード（CPUへの電源なし、遅いリフレッシュのDRAM、低下した電源モードにある電源装置）から呼び起こします。

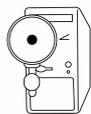
USBPWR12 とUSBPWR34ジャンパはリアUSBポート用です。
USBPWR56 とUSBPWR78 ジャンパは内部USBヘッダ用で、前面USBポートに接続することができます。



- USB デバイスの呼び起こし機能は、各USBポートに対して+5VSB リードに500mAを提供できる電源装置を必要とします。この電源装置がなければ、システムは起動できません。
- 消費される全電流は、標準状態でもスリープモードでも、電源容量(+5VSB)を超えることはできません。

2.8 コネクタ

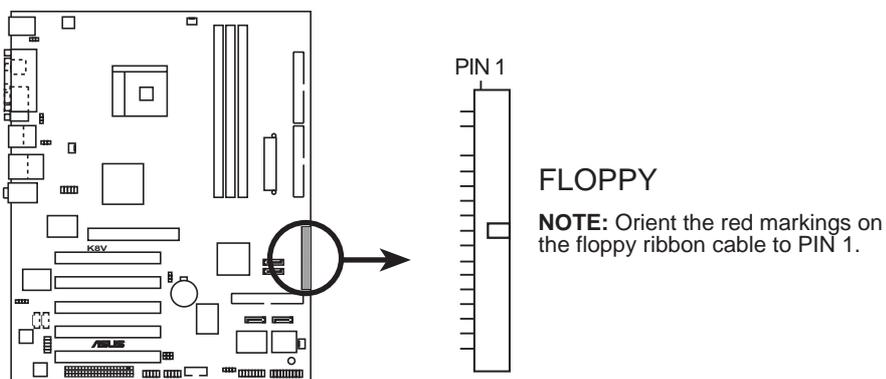
本項では、マザーボードの内部コネクタを図を示して説明します。



赤いストライプのあるリボンケーブルは、常にコネクタのピン1に接続してください。ピン1は通常、ハードドライブとCD-ROMドライブの電源コネクタのすぐ傍にありますが、フロッピーディスクドライブの反対側にある場合もあります。

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンフロッピー)

このコネクタは、付属のフロッピードライブのリボンケーブルをサポートします。マザーボードに一方の端を接続したら、もう一方の端をフロッピードライブに接続してください(ピン5プラグでリボンケーブルを使用しているとき、間違っても挿入しないようにピン5は取り外されます)。



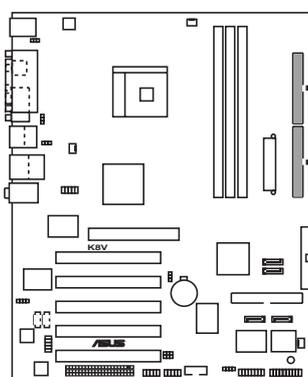
K8V Floppy Disk Drive Connector

2. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE, SEC_IDE)

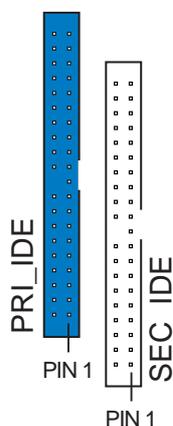
このコネクタは、付属の UltraDMA133/100/66 IDEハードディスクリボンケーブルをサポートします。ケーブルの青いコネクタを1次（推奨）または2次コネクタに接続してから、グレーのコネクタを UltraDMA133/100/66スレーブデバイス（ハードディスクドライブ）に、黒いコネクタをUltraDMA133/100/66マスタデバイスに接続します。非UltraDMA/100/66デバイスを2次IDEコネクタに接続するように推奨します。2台のハードディスクを取り付ける場合、ジャンパを設定することによって、2台目のドライブをスレーブドライブとして構成する必要があります。ジャンパ設定については、ハードディスクのマニュアルを参照してください。BIOSは特定デバイスの起動をサポートします。2つ以上のUltraATA133/100/66デバイスをお使いの場合、他のUltraATA133/100/66ケーブルをご購入してください。2台のハードディスクを2本のリボンケーブル（1本は1次IDEコネクタ用、もう1本は2次IDEコネクタ用）で両方ともマスタデバイスとして構成することができます。



- 各IDEコネクタのピン20はUltraDMAケーブルコネクタのカバーされた穴に一致するように取り除かれます。これによって、ケーブルを接続するときに方向を間違えることはなくなります。
- UltraATA133/100/66ケーブルの青いコネクタの傍にある穴は故意に付けられたものです。



K8V IDE Connectors



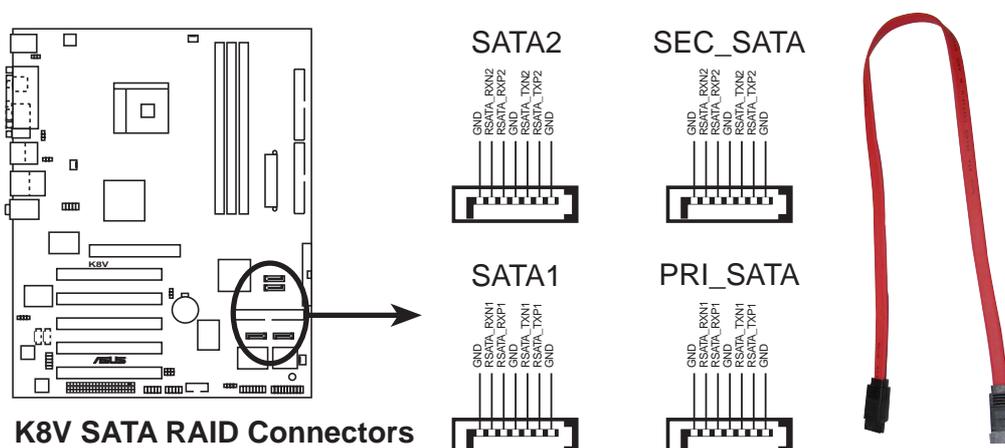
NOTE: Orient the red markings (usually zigzag) on the IDE ribbon cable to PIN 1.



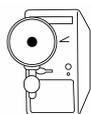
UltraATA133/100/66 IDE デバイスの場合、80コンダクタIDEケーブルを使用してください。UltraATA/66ケーブルはマザーボードの梱包に含まれ、UltraATA133/UltraATA100もサポートしています。

3. シリアルATA RAIDコネクタ (7ピン SATA1, SATA2, SEC_SATA, PRI_SATA)

これらの次世代コネクタは、1次内部記憶装置用に薄いシリアルATAケーブルをサポートします。現在のシリアルATAインターフェイスにより、133 MB/s (UltraDMA133)を組み込んだ標準の平行ATAよりも高速な、150 MB/秒までのデータ転送速度を可能にしています。



K8V SATA RAID Connectors

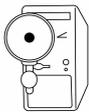
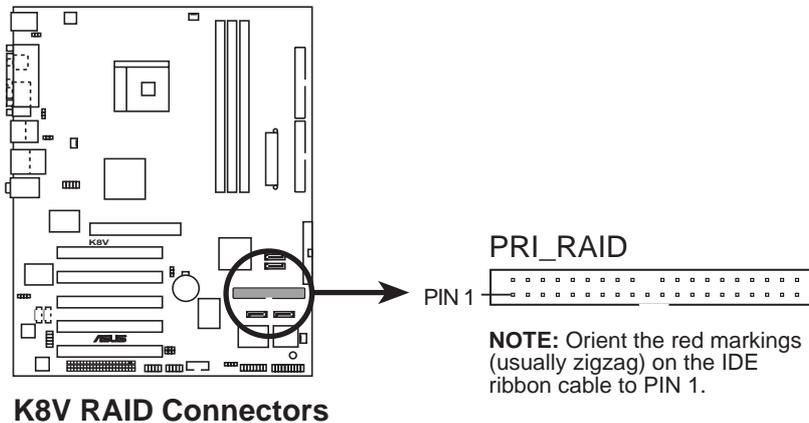


シリアルATAソリューションに関する重要な注：

- Promise® 20378 RAID コントローラは、PRI_RAID、PRI_SATA、SEC_SATAを使用してRAID 0、RAID 1、RAID 0 + 1をサポートします。
- VIA® VT8237 サウスブリッジ統合RAID コントローラは、SATA1、SATA2コネクタを使用してRAID 0とRAID 1をサポートします。
- シリアルATAケーブルは小さくて柔軟性に富むため、ケース内部での配線を簡単に行うことができます。シリアルATAケーブルの下側のピンカウントにより、平行ATAインターフェイスの幅広で、平らなフラットリボンケーブルが原因で起こる問題が取り除かれます。
- シリアルATAドライブと接続のホットプラグサポートは、本マザーボードではサポートされていません。
- シリアルATAを使用してWindows® XP™ Service Pack 1をインストールします。

4. RAID ATA/133/100/66/33コネクタ(40-1ピンPRI_RAID)

このコネクタは、オンボードPromise® PDC20378コントローラを通じたシリアルATAコネクタで、RAID 0、RAID 1、RAID 0+1のどれかをサポートします。RAID機能を使用してディスクアレイ構成をセットアップし、追加IDEデバイスをサポートできます。



RAID機能に関する重要な注:

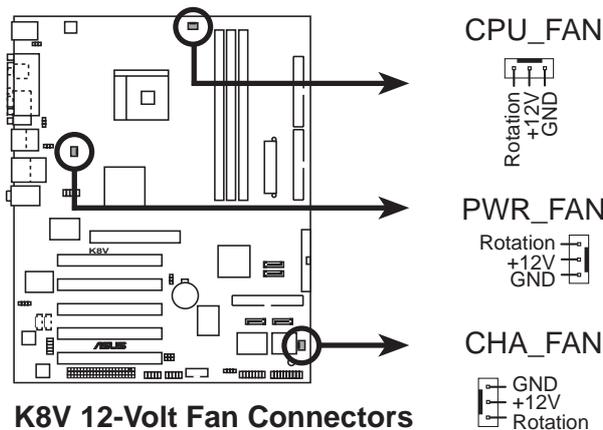
- ・ デフォルトで、PRI_RAIDコネクタに接続するドライブは、ディスクアレイとしてではなく、独立したドライブとしてATA133/100/66/33プロトコルに従います。
- ・ RAID/SATA コントローラチップセットは、CD-ROMやDVD-ROMなどのATAPIデバイスをサポートしません。
- ・ RAID機能は、Microsoftオペレーティングシステムでのみサポートされます。

5. CPU、シャーシ、電源ファンコネクタ (3ピンCPU_FAN, PWR_FAN, CHA_FAN)

ファンコネクタは350mA~740mA (8.88W 最大)の、または+12Vで合計1A~2.22A (26.64W 最大)のクーリングファンをサポートします。各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアース用ピンにぴったり合っていることを確認しながら、ファンケーブルをマザーボードのコネクタに接続してください。



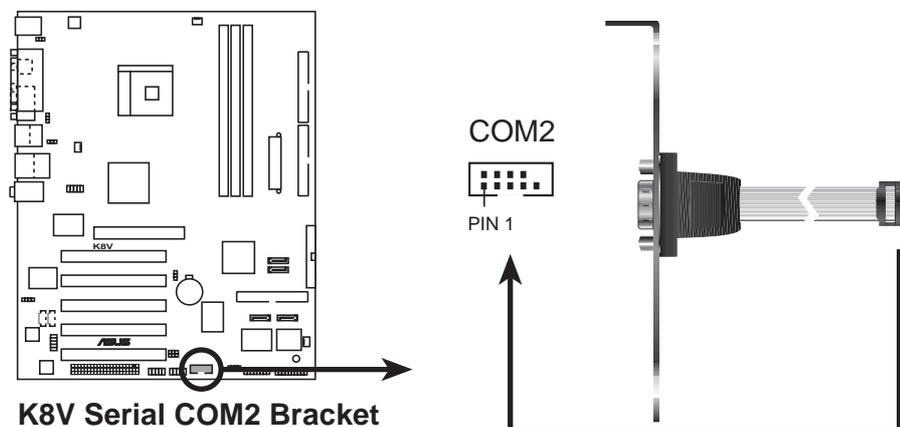
ファンケーブルをファンコネクタに接続するのを忘れないでください。システム内に十分な通気がないと、マザーボードコンポーネントが損傷することがあります。これらはジャンパではありません!。ファンコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください!



電源ファン(PWR_FAN) ハードウェアモニタリング機能は、このマザーボードでは利用できません。

6. シリアルポート 2 コネクタ (10-1 ピン COM2)

このコネクタはオプションのシリアルポートブラケットを使用して、2番目のシリアルポートを提供しています。ブラケットケーブルをこのコネクタに接続してから、ブラケットをシステムシャーシ背面にあるスロット開口部に取付けます。



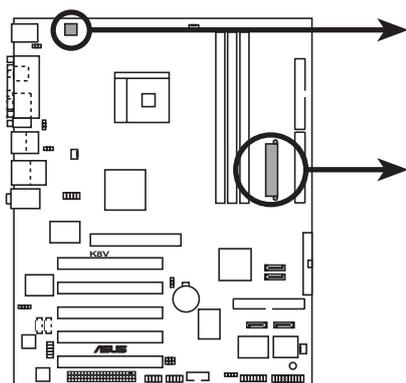
7. ATX 電源コネクタ (20ピン ATXPWR, 4ピン ATX12V)

これらのコネクタはATX 12V電源装置に接続します。電源装置から出るプラグは、一方向でのみこれらのコネクタにフィットするように設計されています。適切な方向を探し、コネクタが完全にフィットするまでしっかり押し下げます。

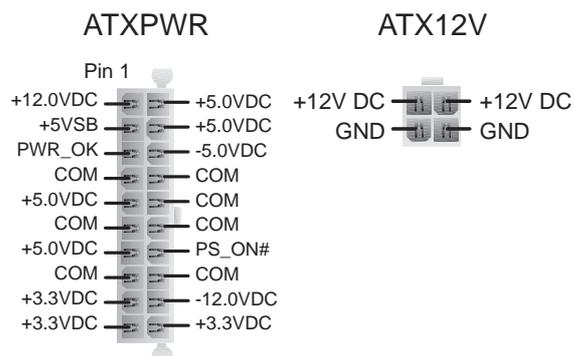
20ピンATXPWRコネクタだけでなく、このマザーボードは、4ピンATX +12V電源プラグを接続して、CPUに十分な電力を提供する必要があります。



- ・ 4ピンATX +12V電源プラグの接続を忘れないでください。そうしないと、システムは起動できません。
- ・ お使いのATX 12V電源装置が+12Vリードで8Aを、および+5ボルトのスタンバイリード(+5VSB)で少なくとも1Aを提供できることを確認してください。推奨する最小のワット数は230W、または完全に構成されたシステムの場合は300Wです。適切な電流が供給されていないと、システムは不安定になったり起動できなくなります。



K8V ATX Power Connectors



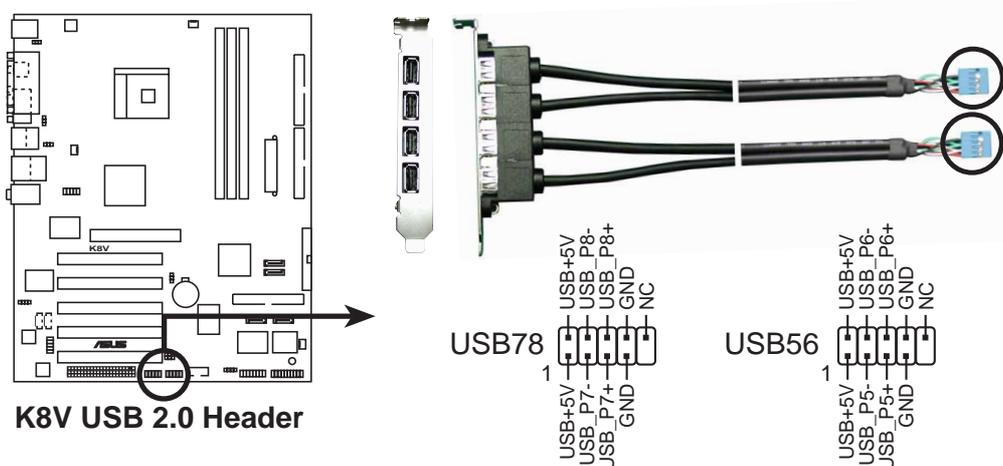
8. USB ヘッド (10-1 ピン USB56, USB78)

リアパネルのUSBポートが適切でない場合、追加USBポートに対して2つのUSBヘッドを利用できます。USBヘッドは、最大480 Mbpsの接続速度をサポートするUSB 2.0仕様でコンパイルされます。USB 1.1での従来の12 Mbpsを上回る速度によって、より高速なインターネット接続、双方向型のゲーム、高速周辺装置の同時実行が可能になります。

このヘッドにオプションのUSB 2.0/GAMEモジュールを接続してください。モジュールは2つのUSB 2.0ポートを搭載して、高解像度カメラ、スキャナ、プリンタなどの次世代USB周辺装置をサポートします。



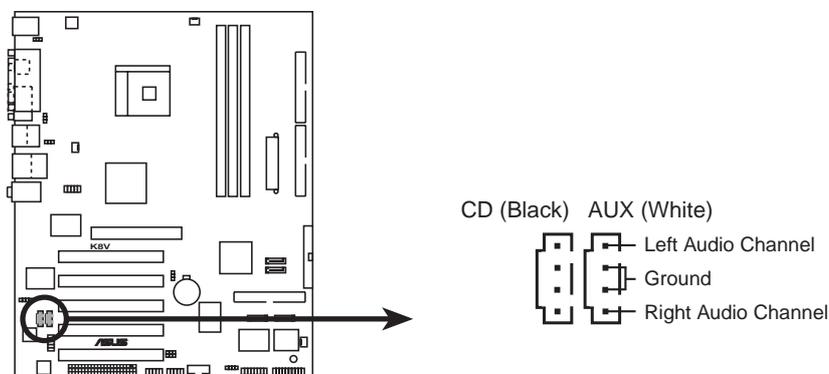
USB 2.0機能を使用する前に、ドライバをインストールする必要があります。



1394ケーブルをUSB56 または USB78コネクタには絶対に接続しないでください。マザーボードが損傷する原因となります!

9. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD, AUX)

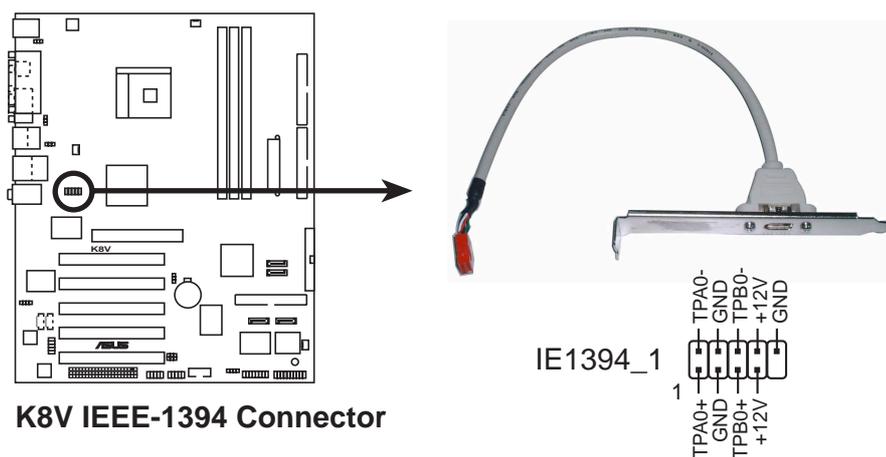
これらのコネクタによって、CD-ROM、TV チューナー、MPEG カードなどのサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信できます。



K8V Internal Audio Connectors

10. IEEE 1394 コネクタ (10-1 ピン IE1394_1(オレンジ))

このコネクタは、オプションの1394モジュール用です。モジュールから出る10-1 ピン1394ケーブルプラグをこのコネクタに接続します。1394準拠の内部ハードディスクをこのコネクタに接続することもできます。



K8V IEEE-1394 Connector

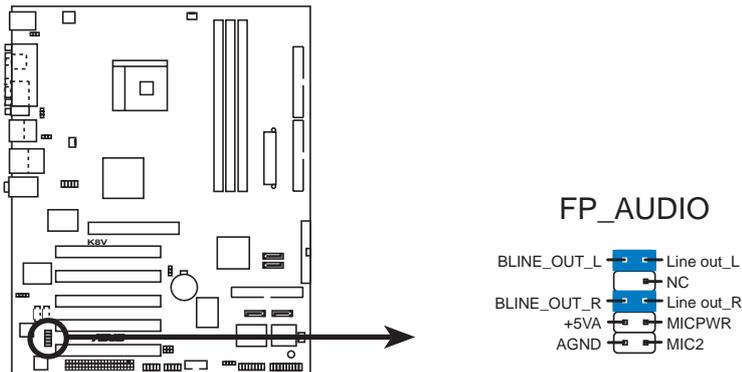


USB ケーブルをIEEE 1394コネクタに、絶対に接続しないでください。マザーボードを損傷させる原因となります!

11. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン FP_AUDIO)

これはIntelフロントパネルのオーディオケーブル用のインターフェイスで、オーディオデバイスの簡単な接続と制御を可能にしています。

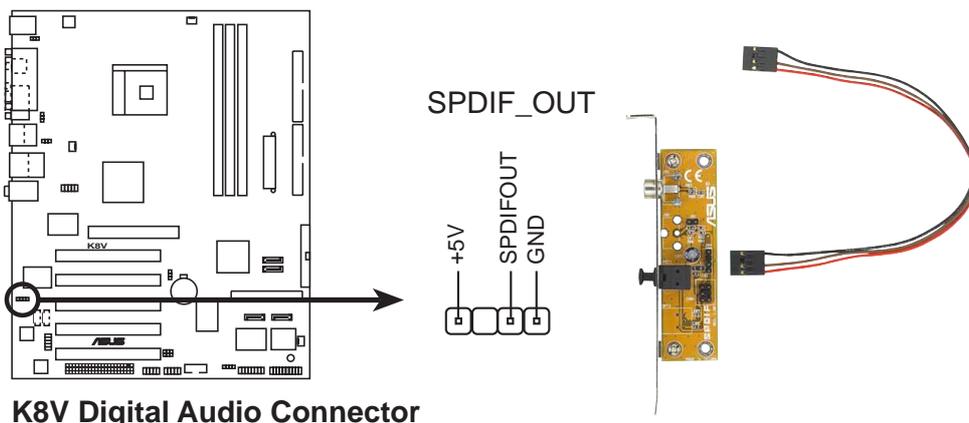
デフォルトで、LINE OUT_R/BLINE_OUT_RとラベルされたピンとLINE OUT_L/BLINE_OUT_Lピンは、ジャンパキャップにより短くなっています。キャップの取り外しは、フロントパネルのオーディオケーブルを接続するときのみ、行ってください。



K8V Front Panel Audio Connector

12. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピンSPDIF_OUT)

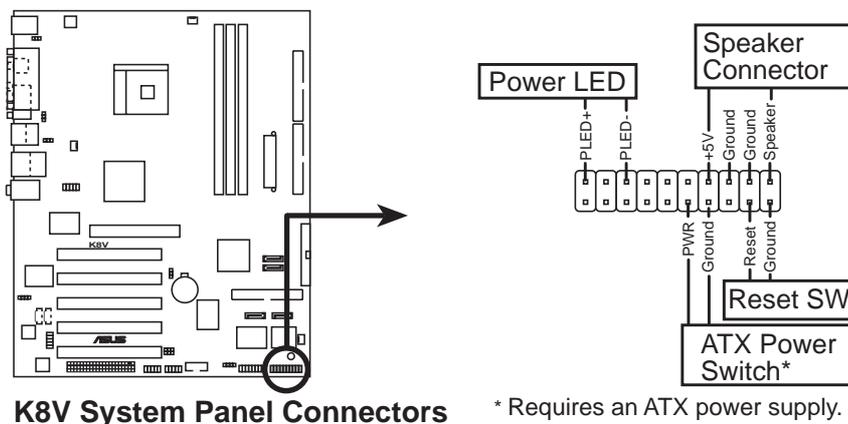
このコネクタは、デジタルサウンド出力を可能にする、S/PDIFオーディオモジュール用です。S/PDIFオーディオケーブルの一方の端をこのコネクタに、もう一方の端をS/PDIFモジュールに接続します。



K8V Digital Audio Connector

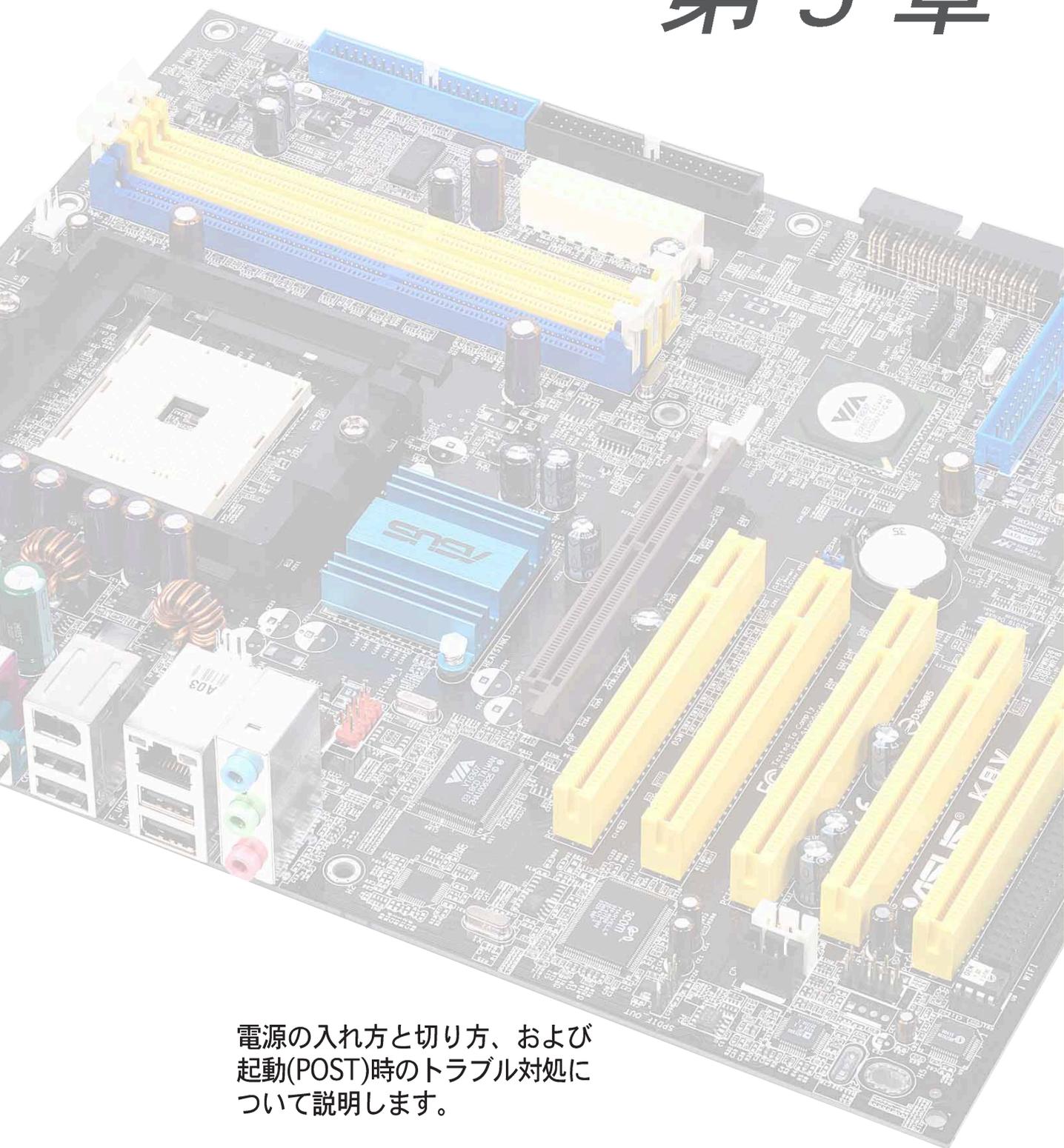
13. システムコネクタ (20ピン PANEL)

このコネクタは、複数のシステムフロントパネル機能を提供します。



- ・ システム電源 LED リード (3-1 ピン PLED)
この3-1 ピンコネクタはシステム電源に接続します。LED はシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- ・ システム警告スピーカーリード (4ピン SPKR)
この4ピンコネクタはケースにマウントされたスピーカーに接続され、システムビープ音と警告を鳴らします。
- ・ スイッチリードのリセット (2ピン RESET)
この2ピンコネクタは、ケースにマウントされたリセットスイッチに接続し、システム電源をオフにすることなくシステムをリブートします。
- ・ ATX 電源スイッチ / ソフトオフスイッチリード (2ピン PWRBTN)
このコネクタは、システム電源を制御するスイッチに接続します。電源スイッチを押すとシステムはBIOSまたはOS設定に従って、オンとスリープ、またはオンとソフトオフの間で切り替わります。オンモードになっている間に電源スイッチを4秒以上押すと、システムはオフになります。
- ・ ハードディスクアクティビティリード (2ピン IDE_LED)
この2ピンコネクタはHDD LEDケーブル用です。IDEコネクタのどれかに接続されているデバイスの読み込みまたは書き込みアクティビティにより、IDE LEDが点灯します。

第3章



電源の入れ方と切り方、および
起動(POST)時のトラブル対処に
ついて説明します。

基本操作

本章の内容

- 3.1 初めて起動する 3-1
- 3.2 ボーカルPOSTメッセージ 3-2
- 3.3 コンピュータの電源をオフにする 3-4

3.1 初めて起動する

1. 全ての接続を行った後、システムケースのカバーを元に戻します。
2. 全てのスイッチがオフになっていることを確認してください。
3. 電源コードを、システムシャーシの背面にある電源コネクタに接続します。
4. 電源コードを、サージプロテクタに装備されているコンセントに接続します。
5. 次の順序で装置の電源をオンにします:
 - a. モニタ
 - b. 外部SCSI装置(チェーンの最後の装置からオンにする)
 - c. システム電源(ATX電源装置を使用している場合、電源装置をオンにした後に、シャーシ前面のATX電源スイッチを押す必要があります)。
6. 電源をオンにすると、システムのフロントパネルケースの電源LEDが点灯します。ATX電源装置の場合、システムLEDはATX電源スイッチを押したときに点灯します。モニタが「グリーン」標準に準拠している場合、または「電源スタンバイ」機能を搭載している場合、システムLEDがオンになった後にモニタLEDが点灯するか、オレンジ色になったり緑色になったりします。それから、システムは電源オンテストを実行します。テストの実行中は、BIOSがビープ音を出したり(次のBIOSビープコード表をご覧ください)、画面に追加メッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒たっても画面に何も表示されない場合、システムは電源オンテストに失敗した可能性があります。ジャンパ設定と接続をチェックするか、販売店に連絡してアドバイスを求めてください。
7. 電源オン時に、<Delete>を押し下げているとBIOSセットアップに入ります。第4章の指示に従ってください。

3.2 ボーカルPOSTメッセージ

本マザーボードはWinbondスピーチコントローラを組み込んで、ASUS POST Reporter™と呼ばれる特殊機能をサポートします。この機能はボーカルPOSTメッセージを表示して、システムイベントと起動ステータスを通知する警報を出します。起動エラーの場合、問題の特定の原因が聞こえます。

これらのPOSTメッセージは、梱包に付属するWinbond Voice Editorソフトウェアを使用してカスタマイズできます。独自のメッセージを記録して、それをデフォルトのメッセージの代わりに使用できます。

次は、デフォルトのPOSTメッセージと対応するアクションの一覧です。

POST メッセージ	アクション
CPUが取り付けられてされていません	<ul style="list-style-type: none">Intel Pentium 4プロセッサをCPUソケットに取り付けます。
システムがCPUテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">CPUが正しく取り付けられているかチェックします。ASUSの技術サポートに電話してアドバイスを求めてください。xページの「ASUSサポート情報」をご覧ください。
システムがメモリテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">DIMMソケットに184ピンバッファなしPC3200/2700/2100 DIMMsを取り付けます。DIMMソケットのDIMMが正しく取り付けられているかチェックします。DIMMsに欠陥がないか確認します。DIMMを取り付ける指示については、「2.5システムメモリ」を参照してください。
システムがVGAテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">PCI VGAカードをPCIスロットのどれかに、または+0.8V/1.5V AGPカードをAGPスロットに取り付けます。VGA/AGPカードに欠陥がないか確認します。
CPUオーバークロッキングのためにシステム	<ul style="list-style-type: none">BIOSでCPU設定をチェックし、推奨される設定エラーが発生しましたのみに設定していることを確認します。

POSTメッセージ	アクション
キーボードが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボードが紫色のPS/2コネクタまたはリアパネルに正しく接続されているかチェックします。 ・ コネクタの位置については、「1.4.1 主なコンポーネント」をご覧ください。
フロッピーディスクが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロッピーディスクをマザーボードのフロッピーディスクコネクタに接続していることを確認します。 ・ 「2.8コネクタ」をご覧ください。
IDEハードディスクが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ IDEハードディスクドライブをマザーボードのIDEコネクタのどれかに接続しているか確認します。 ・ 「2.8コネクタ」をご覧ください。
CPU温度が高すぎます	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンが正しく作動しているかチェックします。
CPUファンエラーです	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンをチェックして、電源をシステムに取り付けた後オンになるか確認します。 ・ CPUファンがファン速度検出機能をサポートしているか確認します。
CPU 電圧が範囲外です	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源装置をチェックして、欠陥がないことを確認します。 ・ ASUS正規代理店に連絡してください。
システムが電源オンセルフテストを完了しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションを取る必要はありません
コンピュータはオペレーティングシステムから	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションを取る必要はありません 起動中です



BIOSセットアップでASUS POST Reporter™を無効にすることができます。「4.4 .6 スピーチ構成」をご覧ください。

3.3 コンピュータの電源をオフにする

OSシャットダウン機能を使用する

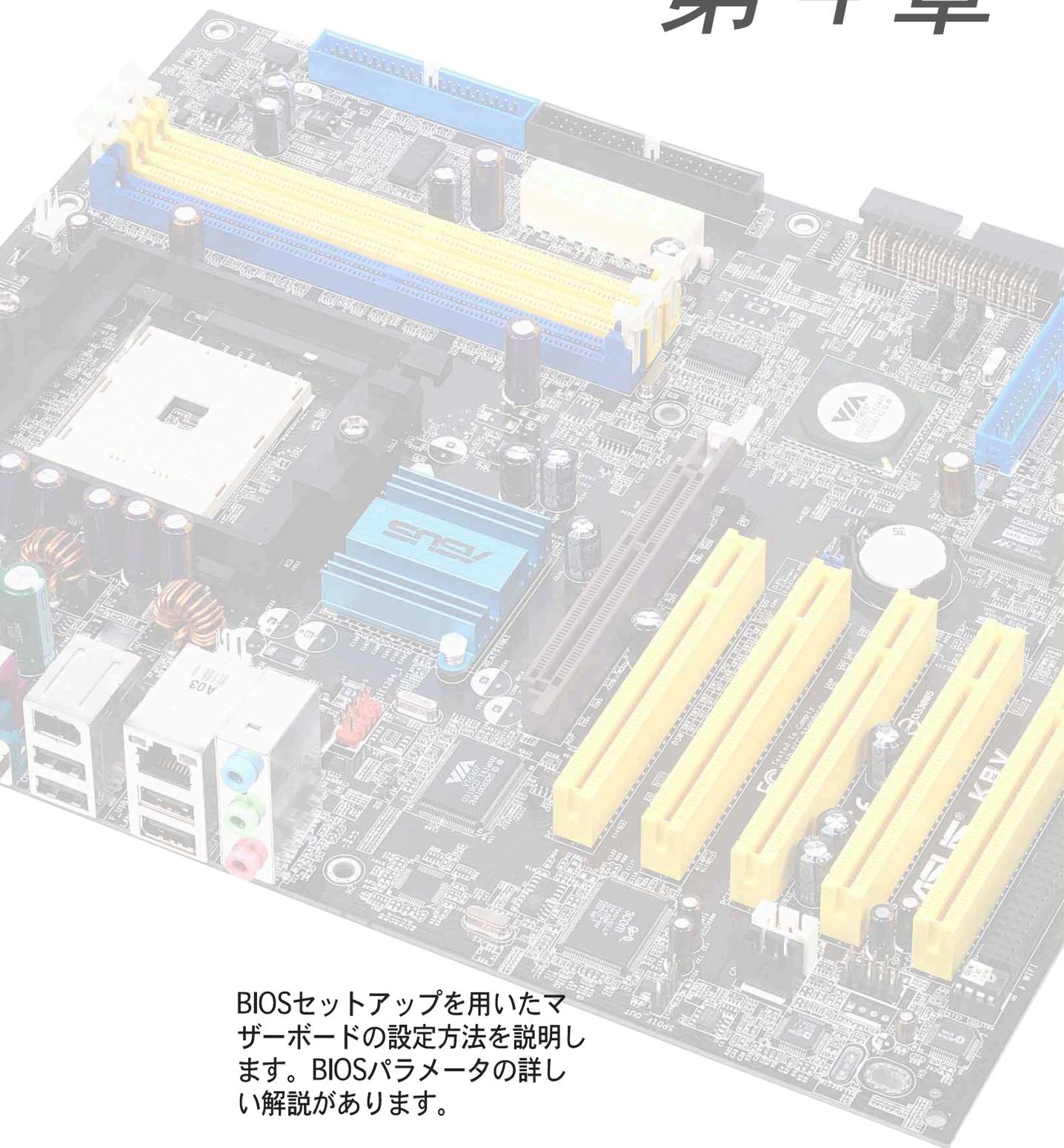
Windows 98/98SE/ME/NT/2000を使用している場合、[スタート]、[シャットダウン]ボタンを順にクリックし、次に[OK]ボタンをクリックして、コンピュータをシャットダウンします。電源装置の電源は、Windowsをシャットダウンした後にオフにする必要があります。

Windows XPをお使いの場合、[スタート]ボタンをクリックし、[シャットダウン]をクリックし、[OK]ボタンをクリックしてから、コンピュータをシャットダウンします。Windowsをシャットダウンした後、電源装置をオフにする必要があります。

デュアル機能電源スイッチを使用する

システムの電源がオンになっている間電源スイッチを4秒以下押すと、システムはBIOS設定に従って、スリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、システムはBIOS設定に関わらずソフトオフモードに入ります。第4章の「4.5電源メニュー」をご覧ください。

第4章



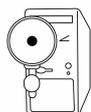
BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。

BIOSセットアップ

本章の内容

4.1	BIOSの管理と更新	4-1
4.2	BIOSセットアッププログラム	4-7
4.3	メインメニュー	4-10
4.4	詳細メニュー	4-13
4.5	電源メニュー	4-29
4.6	ブートメニュー	4-34
4.7	メニューの終了	4-39

4.1 BIOSの管理と更新



- ・ このマザーボードのオリジナルのBIOS ファイルは、サポートCDのルートディレクトリに、"K8V.ROM"というファイル名で格納されています。
- ・ 将来BIOSを復元する必要がある場合、オリジナルのBIOSをブート可能なフロッピーディスクにコピーしてください。

4.1.1 ブート可能なフロッピーディスクを作成する

1. 次のどれかを実行して、ブート可能なフロッピーディスクを作成します。

DOS環境

1.44 MBフロッピーディスクをドライブに挿入します。DOSプロンプトで、次を入力します。

```
format A:/S <Enter>
```

Windows環境

- a. Windowsデスクトップから、[スタート]をクリックし、[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックします。
 - b. [コントロールパネル]ウィンドウから[プログラムの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
 - c. [スタートアップディスク]タブをクリックして、[ディスクの作成]ボタンをクリックします。
 - d. 要求されたら、1.44 MBフロッピーディスクを挿入します。次の画面指示に従って、プロセスを完了します。
2. オリジナルの（または最新の）マザーボードBIOSをブート可能なフロッピーディスクにコピーします。

4.1.2 AFUDOSを使用してBIOSを更新する

DOS環境でAFUDOS.EXEユーティリティを使用してBIOSを更新します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。BIOSファイルは、ブート可能なフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名を紙に書き留めてください。プロンプトで正確なBIOSファイル名を入力する必要があります。

2. サポートCDからBIOSファイルを含むブート可能なフロッピーディスクにAFUDOS.EXEユーティリティをコピーします。
3. フロッピーディスクからシステムをブートします。

4. DOSプロンプトで、コマンドラインを入力します。

```
afudos /i<filename.rom>
```

"filename.rom"は、ブート可能なフロッピーディスクにコピーした最新の（またはオリジナルの）BIOSファイルを意味します。

画面は更新プロセスのステータスを表示します。



画面のBIOS情報は参照のためのものです。画面に表示される情報は、次の情報と異なっていることがあります。

```
A:\>afudos /ik8v.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

BIOSの更新プロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

```
A:\>afudos /ik8v.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
Verifying flash .. done

A:\>
```

5. ハードディスクからシステムをリブートします。

4.1.3 AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする

AFUDOS.EXE ユーティリティは、現在のシステムBIOS設定をフロッピーディスクまたはハードディスクにコピーするためにも使用されます。コピーは、システムBIOSがエラーを起こしたり破損した場合のバックアップとして使用できます。

1. DOSプロンプトで、次のようにコマンドラインを入力します。

```
afudos /o<ファイル名>
```

"ファイル名"には、メインのファイル名として(8)文字以下の英数字と拡張子として(3)文字以下の英数字からなるファイル名を、ユーザーが自由に入れることができます。

Enterキーを押します。



画面のBIOS情報は、参照専用です。実際の画面の表示は、図に表示されるものとまったく同じでないこともあります。

メインのファイル名
拡張子

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```

2. ユーティリティは、デフォルトで現在のシステムBIOSをフロッピーディスクにコピーします。フロッピーディスクが書き込み禁止になっていないか、ファイルを格納するだけの十分なスペース（少なくとも600 KB）があるかを確認してください。

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... done

A:\>
```

BIOSのコピープロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

4.1.4 ASUS EZフラッシュを使用して、BIOSを更新する

ASUS EZフラッシュ機能により、ディスクから長い起動プロセスを行ったりDOSベースのユーティリティを使用しなくても、BIOSを簡単に更新できます。EZフラッシュはBIOSファームウェアに組み込まれているため、電源オンセルフテスト(POST)の間に<Alt> + <F2>を押すだけでアクセスできます。

ASUS EZを使用してBIOSを更新するには、次の手順を実行します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.co.jp)にアクセスしてマザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードし、そのファイル名をK8V.ROMに変更します。BIOSファイルをフロッピーディスクに保存します。
2. システムをリブートします。
3. EZフラッシュを起動するには、POSTの間に<Alt> + <F2>を押して次を表示します。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、「フロッピーが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。

フロッピーディスクに正しいBIOSファイルが見つからない場合、「K8V.ROMが見つかりません!」というエラーメッセージが表示されます。

4. BIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。K8V.ROMファイルがフロッピーディスクに見つからない場合、EZフラッシュはBIOS更新プロセスを実行し、プロセスが完了したらシステムを自動的にリブートします。



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーが発生する原因となります!

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "k8v.rom". Completed.
Start flashing...
Flashed successfully. Rebooting.
```

4.1.5 CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する

CrashFree BIOS 2自動回復ツールにより、マザーボードの現在のBIOSがエラーを起こしたり破損した場合、マザーボードのサポートCDから、またはBIOSファイルを含むフロッピーディスクからBIOSを自動的に回復できます。



1. BIOS更新プロセスを続行する前に、マザーボードに付属するサポートCDまたはマザーボードBIOS (K8V.ROM) を含むフロッピーディスクを準備します。
2. オリジナルのマザーボードBIOSのコピーをブート可能なフロッピーディスクに保存している場合、このディスクを使用してBIOSを回復することもできます。「4.1.1 ブート可能なフロッピーディスクを作成する」をご覧ください。

フロッピーディスクからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出された場合、次のメッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
```

```
Checking for floppy...
```

3. このマザーボードのオリジナルのまたは最新のBIOSファイルがあるフロッピーディスクを挿入します。すべての必要なファイルがフロッピーディスクに検出されたら、BIOS更新プロセスが続行されます。



フロッピーディスクのBIOSファイル名が「K8V.ROM」と変更されていることを確認してください。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
```

```
Checking for floppy...
```

```
Floppy found!
```

```
Reading file "k8v.rom". Completed.
```

```
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。

サポートCDからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出されたら、次の画面メッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、システムはCD-ROM.を自動的にチェックします。

3. CD-ROM.にサポートCDを設置します。サポートCDには、このマザーボードのオリジナルBIOSが含まれています。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy not found!  
Checking for CD-ROM...  
CD-ROM found.  
Reading file "k8v.rom". Completed.  
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。



回復されたBIOSは、このバイオスの最新のBIOSバージョンでないことがあります。ASUSのWebサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

4.2 BIOSセットアッププログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアハブ(FWH)をサポートしており、「4.1 BIOSの管理と更新」で述べた付属ユーティリティを使用して更新できます。

マザーボードを取り付けているとき、システムを再構成しているとき、または「セットアップの実行」を指示されたとき、BIOSセットアッププログラムを使用してください。本項では、このユーティリティを使用して構成する方法を説明します。

セットアッププログラムを使用するように指示されない場合でも、将来コンピュータの構成を変更する必要がある場合もあります。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更する必要があるかもしれません。この場合、コンピュータがこれらの変更を認識してファームウェアハブのCMOS RAMでそれらの変更を記録できるように、BIOSセットアッププログラムを使用してシステムを再構成する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには、セットアップユーティリティが格納されています。コンピュータを起動するとき、システムはこのプログラムを実行する機会を提供します。電源オンセルフテスト(POST)の間、<Delete>を押してセットアップユーティリティに入ってください。<Delete>を押さないと、POSTはテストルーチンを続行します。

POST後にセットアップに入る場合、<Ctrl> + <Alt> + <Delete>を押して、システムシャシのリセットボタンを押して、システムを再起動してください。システムの電源をオフにしてから再びオンにすることも、再起動できます。これは、最初の2つが失敗した場合に、最後の選択肢としてのみ行ってください。

セットアッププログラムは、できるだけ使いやすいように設計されています。これは、メニュー制御のプログラムです。これによって、さまざまなサブメニューをスクロールし、ナビゲーションキーを使用して利用可能なオプションから選択できるようになります。



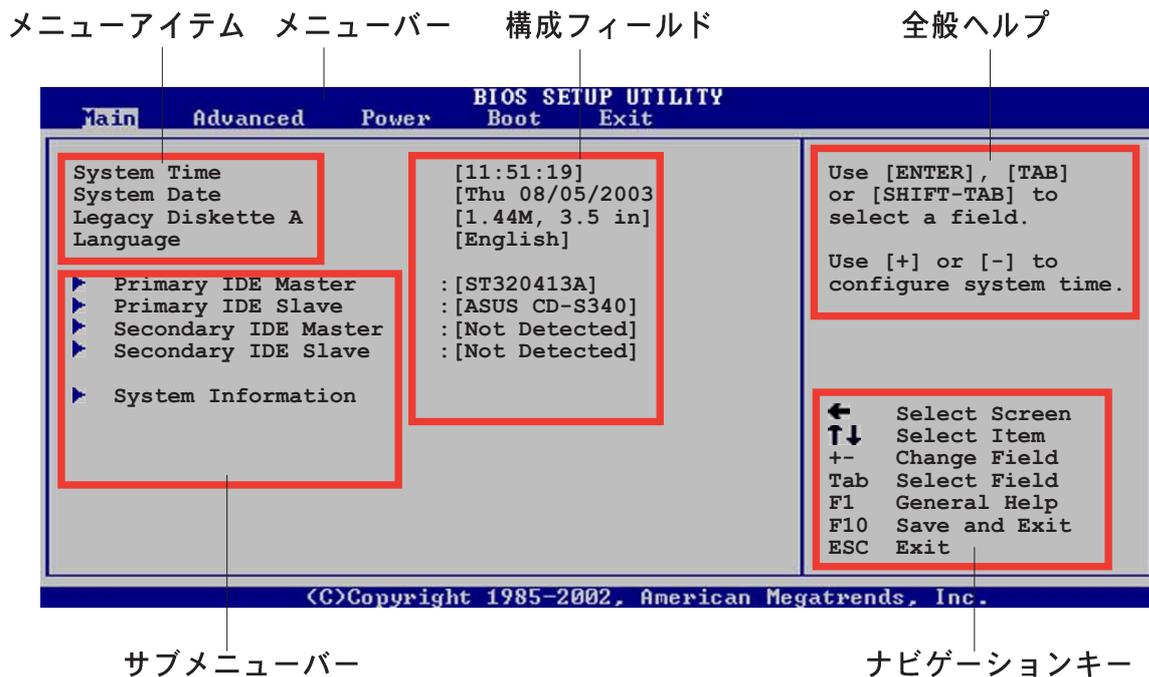
BIOS設定を変更した後、システムが不安定になった場合、デフォルトの設定をロードしてシステムの安定性を確認してください。終了メニューの下で、デフォルト設定のロードを選択します。「4.7 終了メニュー」をご覧ください。



本章で示したBIOSセットアップ画面は、参照のためのものです。画面の表示と全く同じでないこともあります。

ASUSのWebサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、最新の製品とBIOS情報をダウンロードしてください。

4.2.1 BIOSメニュー画面



4.2.2 メニューバー

画面上部のメニューには、次のメインアイテムがあります。

- Main 基本構成システムを変更
- Advanced システムの詳細設定を変更
- Power 拡張電源管理(APM)構成を変更
- Boot システムブート構成を変更
- Exit 終了オプションを選択し、デフォルトの設定をロード

メニューバーのアイテムを選択するには、希望するアイテムが強調表示されるまで、キーボードの右または左矢印キーを押します。

4.2.3 ナビゲーションキー

メニュー画面の右下隅にはその特定メニューのナビゲーションキーがあります。ナビゲーションキーを使用すると、メニューのアイテムを選択して設定を変更できます。



一部のナビゲーションキーは、画面ごとに異なっています。

4.2.4 メニューアイテム

メニューバーの強調表示されたアイテムは、そのメニューに特定のアイテムを表示します。例えば、メインを選択すると、メインのメニューアイテムが表示されます。



メニューバーのその他のアイテム（詳細、電源、ブート、終了）には、それぞれ別のメニューアイテムがあります。

4.2.5 サブメニューアイテム

全てのメニュー画面でサブメニューのあるアイテムは、アイテムの前の黒三角で区別されています。サブメニューを表示するには、アイテムを選択してEnterを押します。

4.2.6 構成フィールド

これらのフィールドは、メニューアイテムの値を表示します。アイテムがユーザー構成可能である場合、アイテムの反対のフィールドの値を変更できます。ユーザー構成可能でないアイテムは、変更することができません。

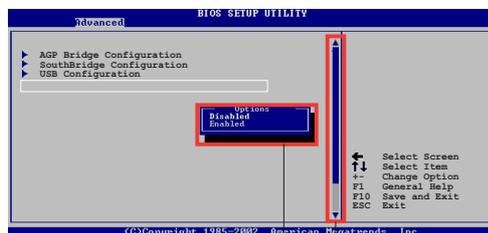
構成可能なフィールドはカッコで囲まれ、選択すると強調表示されます。フィールドの値を変更するには、その値を選択してからEnter押し、オプションの一覧を表示します。「4.2.7 ポップアップウィンドウ」を参照してください。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

メニューアイテムを選択してからEnterを押すと、そのアイテムの構成オプションの付いたポップアップウィンドウが表示されます。

4.2.8 スクロールバー

スクロールバーは、画面に収まりきらないアイテムがあるとき、メニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キーまたはPageUp/PageDownキーを押すと、画面に他のアイテムが表示されます。



ポップアップ
ウィンドウ スクロールバー

4.2.9 全般ヘルプ

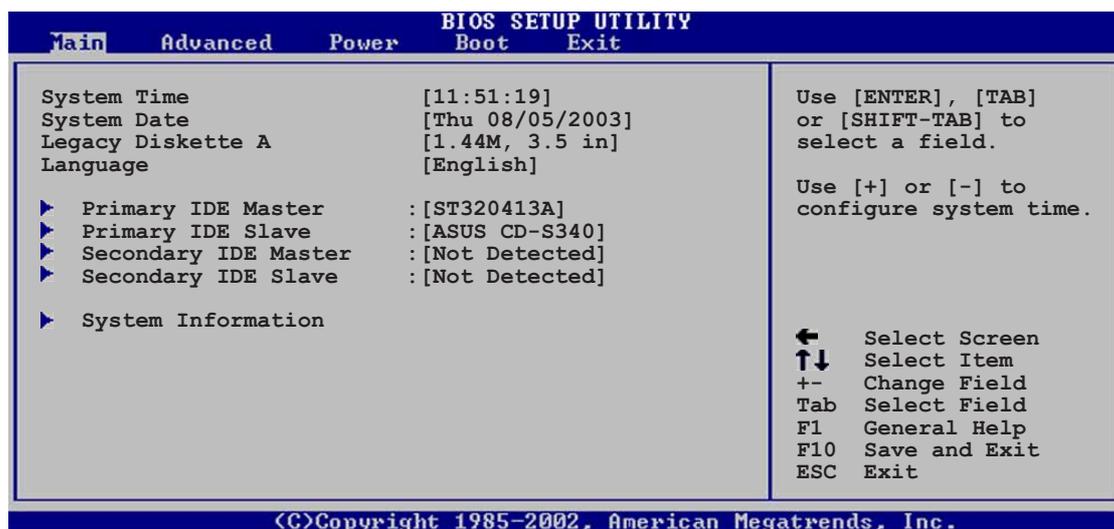
メニュー画面の右上隅には、選択したアイテムの簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOSセットアッププログラムに入るとき、メインのメニュー画面が表示され、基本システム情報の概要が提供されます。



メニュー画面アイテムの情報およびその情報をナビゲートする方法については、「4.2.1 BIOSメニュー画面」を参照してください。



4.3.1 システムの時間 [xx:xx:xxxx]

このアイテムによって、システム時間を設定できます。

4.3.2 システムの日付 [日 xx/xx/xxxx]

このアイテムによって、システムの日付を設定できます。

4.3.3 古いタイプのディスク A [1.44M, 3.5 in.]

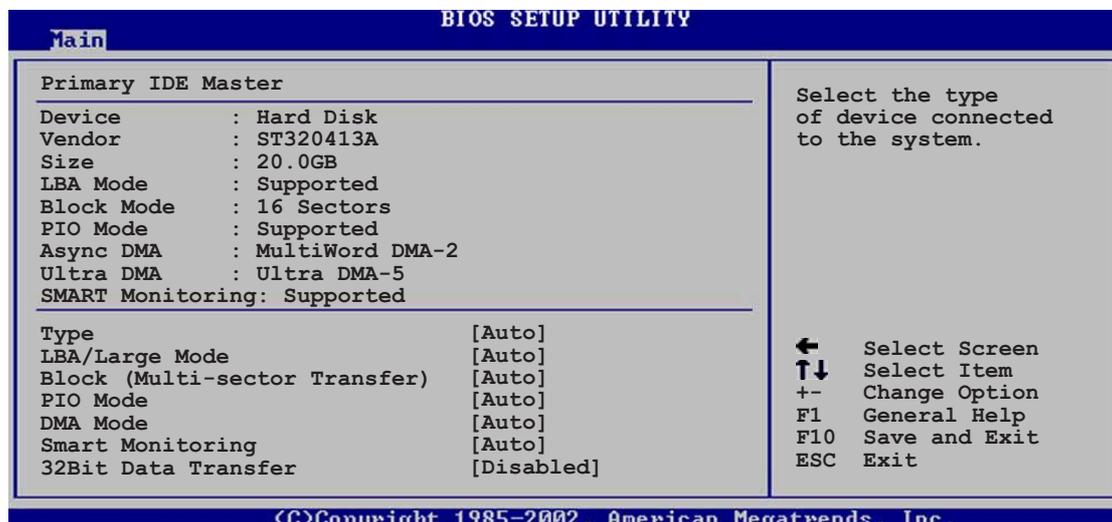
取り付けられているフロッピードライブのタイプを設定します。構成オプション: [無効] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

4.3.4 言語 [英語]

このフィールドによって、利用可能なオプションからBIOS言語バージョンを選択できます。

4.3.5 1次および2次IDE マスタ/スレーブ

セットアップに入っている間、BIOSはIDEデバイスの存在を自動検出します。それぞれのIDEデバイスに対して個々のサブメニューがあります。デバイスのアイテムを選択してからEnterを押すと、IDEデバイス情報が表示されます。



淡色表示されたアイテム（デバイス、ベンダー、サイズ、LBAモード、PIOモード、Async DMA、Ultra DMA、SMART監視）の反対側にある値はBIOSによって自動検出され、ユーザーの側で構成することはできません。これらのアイテムは、IDEがシステムに取付けられていなければ、N/Aを表示します。

Type[Auto]

IDEドライブのタイプを選択します。CD-ROMドライブを特別に構成しているとき、Autoを設定することによって、適切なIDEデバイスタイプを自動選択することができます。お使いのデバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかである場合、ARMD (ATAPIリムーバブルメディアデバイス)を選択してください。構成オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode[Auto]

LBAモードの有効/無効を切り替えます。デバイスがこのモードをサポートしていればLBAモードを自動有効に設定します。また、デバイスがLBAモードで前もってフォーマットされていない場合、無効に設定します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) [Auto]

マルチセクタ転送の有効/無効を切り替えます。自動に設定されているとき、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、デバイスがマルチセクタ機能をサポートしている場合、一度で複数のセクタを発生します。無効に設定されている場合、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、一度で1つのセクタを発生します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。構成オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。構成オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

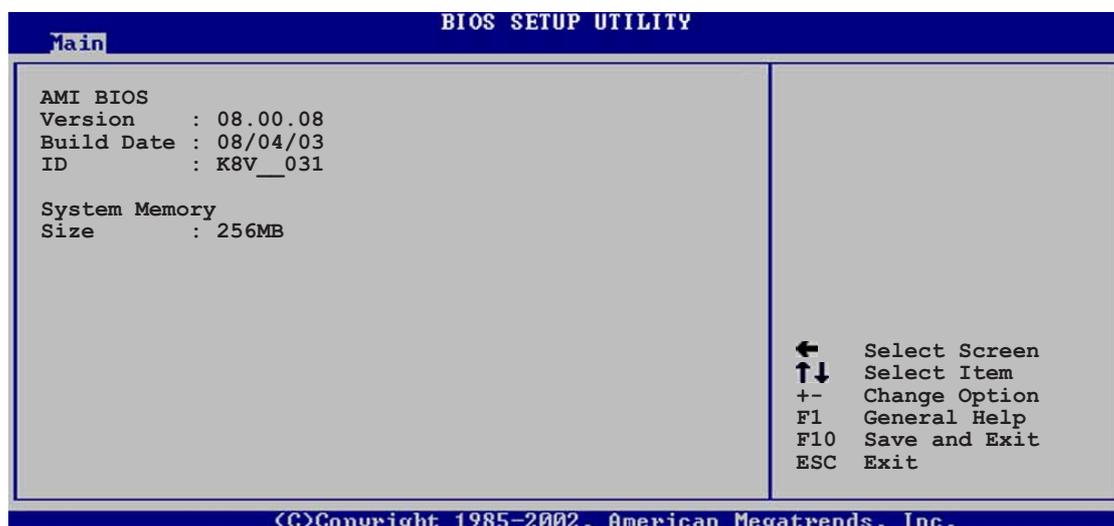
Smartモニタリング、分析、リポーティングテクノロジーを設定します。構成オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

32Bit Data Transfer [Disabled]

32ビットデータ転送の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.6 システム情報

このメニューは、全般的システム仕様の概観を提供します。メニューのアイテムはBIOSにより自動検出されます。



AMI BIOS

このアイテムは、自動検出されたBIOS情報を表示します。

System Memory

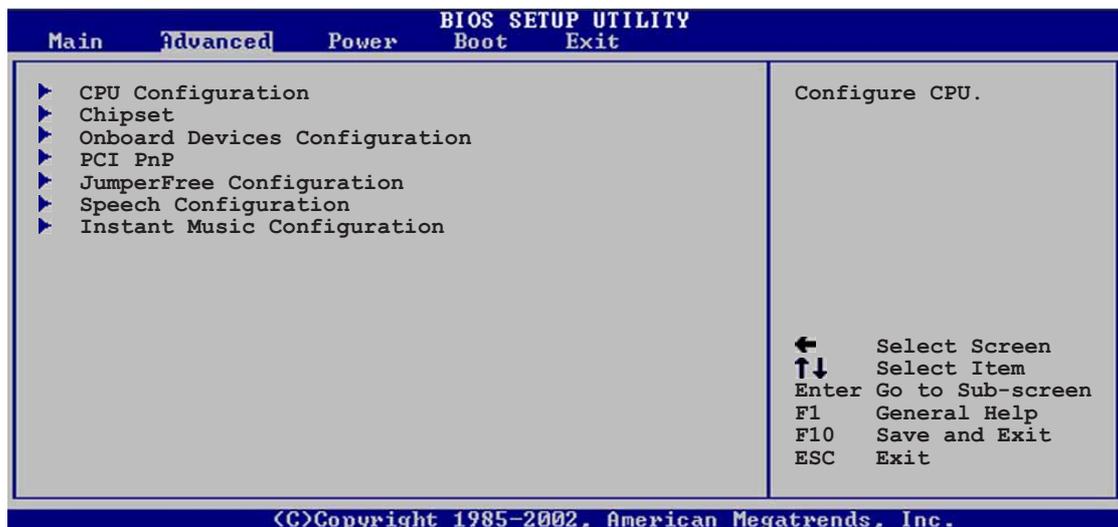
このアイテムは、自動検出されたシステムメモリを表示します。

4.4 詳細メニュー

詳細メニューアイテムにより、CPUおよびその他のシステムデバイス用の設定を変更できます。

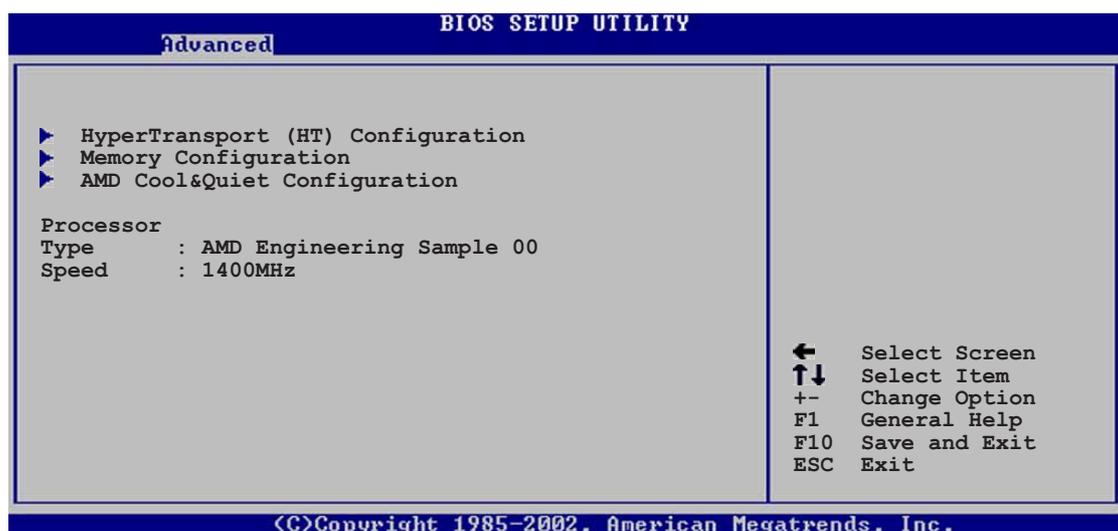


詳細メニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動する原因となります。

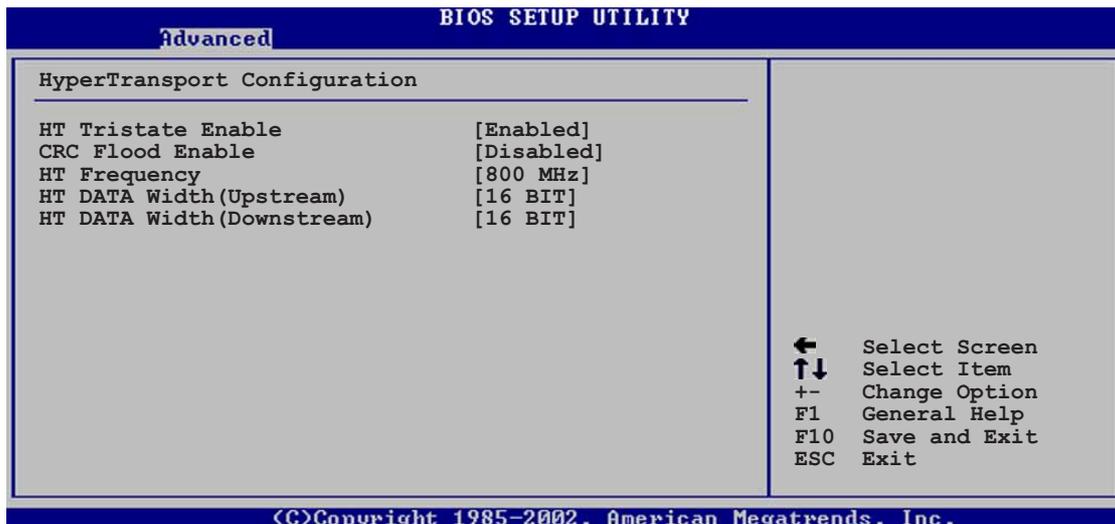


4.4.1 CPU 構成

このメニューのアイテムは、BIOSによって自動検出されたCPU関連情報を表示します。



4.4.1.1 ハイパートランスポート構成



HT Tristate Enable[Enabled]

このアイテムはハイパートランスポートトライステートの有効/無効を切り替え、LDTSTOPが切断状態にある間、トライステートリンクを有効にします。

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

CRC Flood Enable [Disabled]

このアイテムはCRCフラッドの有効/無効を切り替え、CRCエラーで同期化されたパケットの生成を有効にします。 構

成オプション: [Disabled] [Enabled]

HT Frequency [800 MHz]

このアイテムは、K8 CPU からAGPまでハイパートランスポート転送の周波数選択を可能にします。 構成オプション: [200 MHz] [400 Mhz] [600 Mhz] [800 Mhz]

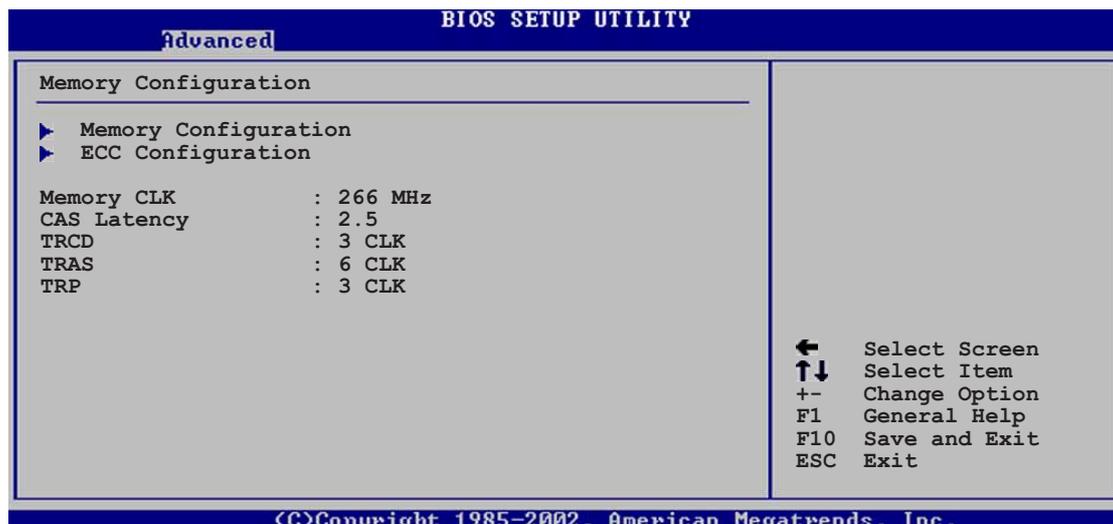
HT DATA Width (Upstream) [16 BIT]

このアイテムは、ハイパートランスポートの上りデータ幅の選択を可能にします。構成オプション: [16 BIT] [8 BIT]

HT DATA Width (Downstream) [16 BIT]

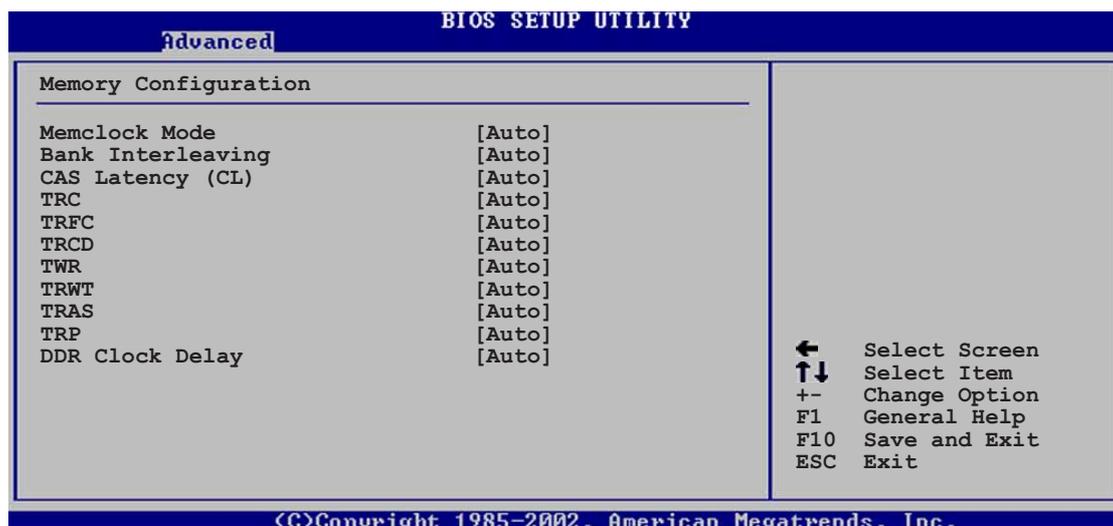
このアイテムは、ハイパートランスポートの下りデータ幅を可能にします。構成オプション: [16 BIT] [8 BIT]

4.4.1.2 メモリ構成



Memory Configuration

メモリ構成メニューアイテムでは、メモリ設定を変更します。アイテムを押し、Enterを押してサブメニューを表示します。



Memclock Mode [Auto]

このアイテムは、メモリクロックモードを設定します。[Auto]を使用してコードごとに設定するか、[Manual]を選択し標準の値のどれかを使用して設定します。構成オプション: [Auto] [Manual]

Bank Interleaving [Auto]

このアイテムは、同じノード上でまたはノード間でBANKにまでメモリアクセスを展開し、アクセス競合を減少します。構成オプション: [Auto] [Disabled]

CAS Latency (CL) [Auto]

このアイテムはCASレイテンシを設定します。

構成オプション: [Auto] [2.0] [3.0] [2.5]

TRC [Auto]

このアイテムはTRCを設定します。構成オプション: [Auto] [7 CLK] [8 CLK] [9 CLK] [10 CLK] [11 CLK] [12 CLK] [13 CLK]

TRFC [Auto]

このアイテムはTRFCを設定します。構成オプション: [Auto] [9 CLK] [10 CLK] [11 CLK] [12 CLK] [13 CLK] [14 CLK] [15 CLK]

TRCD [Auto]

このアイテムはTRCDを設定します。構成オプション: [Auto] [2 CLK] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK] [6 CLK]

TWR [Auto]

このアイテムはTWRを設定します。構成オプション: [Auto] [2 CLK] [3 CLK]

TRWT [Auto]

このアイテムはTRWTを設定します。構成オプション: [Auto] [1 CLK] [2 CLK] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK] [6 CLK]

TRAS [Auto]

このアイテムはTRASを設定します。構成オプション: [Auto] [5 CLK] [6 CLK] [7 CLK] [8 CLK] [9 CLK] [10 CLK] [11 CLK] [12 CLK] [13 CLK] [14 CLK] [15 CLK]

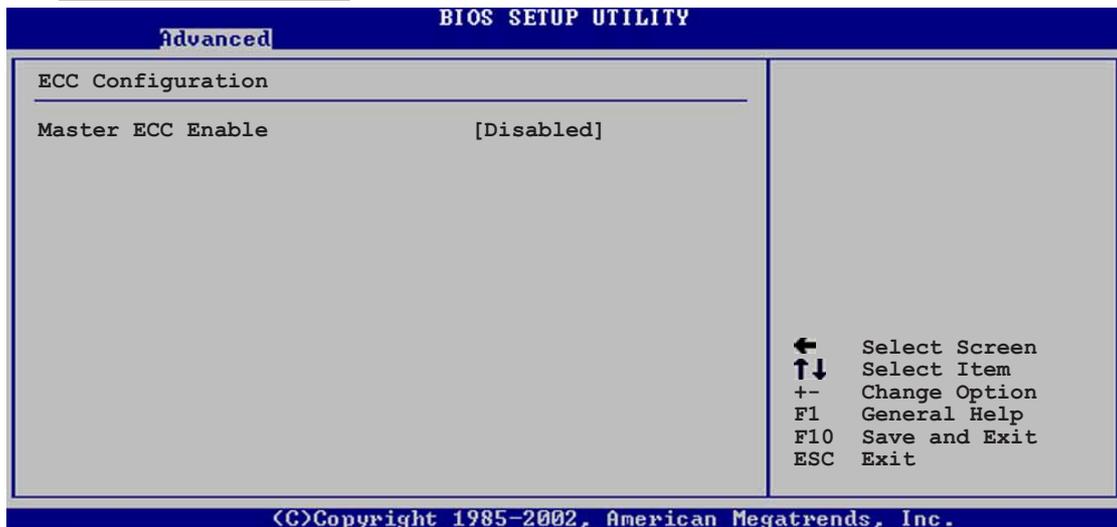
TRP [Auto]

このアイテムはTRPを設定します。構成オプション: [Auto] [2 CLK] [3 CLK] [4 CLK] [5 CLK] [6 CLK]

DDR Clock Delay [Auto]

このアイテムはDDRクロック遅延を設定します。構成オプション: [Auto] [50 22] [50 33] [50 44] [60 22] [60 33] [60 44]

ECC Configuration



Master ECC Enable [Disabled]

このアイテムは、ECCエラー検出と訂正に対して全てのノードの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled]
[Enabled]



次のアイテムは、Master ECC Enableアイテムが[Enabled]に設定されているときのみ表示されます。

DRAM ECC Enable [Disabled]

このアイテムはDRAM ECCの有効/無効を切り替え、ハードウェアが正しいメモリエラーを自動的にレポートし、システム保全を維持できるようにします。構成オプション: [Disabled]
[Enabled]

L2 Cache BG Scrub [Disabled]

このアイテムは、L2データキャッシュを無効にしたり、アイドルになっているRAMを訂正します。構成オプション:
[Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns]
[1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us]
[81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us] [1.31ms]
[2.62ms] [5.24ms] [10.49ms] [20.97ms] [42.00ms]
[84.00ms]

Data Cache BG Scrub [Disabled]

このアイテムは、L1データキャッシュを無効にしたり、アイドルになっているRAMを訂正します。構成オプション:
[Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns]
[1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us]
[81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us] [1.31ms]
[2.62ms] [5.24ms] [10.49ms] [20.97ms] [42.00ms]
[84.00ms]



次のアイテムは、DRAM ECC Enableアイテムが[Enabled]に設定されているときのみ表示されます。

DRAM BG Scrub [Disabled]

このアイテムはDRAMスクラビング機能を無効にしたり設定して、メモリエラーを訂正したり書き換えるので、後に読み込んだほうが正しい設定です。メモリが使用されていない間にこれを行うことによって、パフォーマンスが向上します。構成オプション: [Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns] [1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us] [81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us] [1.31ms] [2.62ms] [5.24ms] [10.49ms] [20.97ms] [42.00ms] [84.00ms]

DRAM SCRUB REDIRECT [Disabled]

このアイテムは、DRAM ECCエラーが発生した際に、バックグラウンドスクラビングがオンになっている場合でも、直ちにそのエラーを訂正するようにシステムをセットします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

ECC Chip Kill [Disabled]

このアイテムは、ECCチップキル機能の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

MemoryCLK [266MHz]

このアイテムは、メモリクロックの速度設定を表示します。

CAS Latency [2.5]

このアイテムは、CASレイテンシ設定を表示します。

TRCD [3 CLK]

このアイテムは、TRCDクロック設定を表示します。

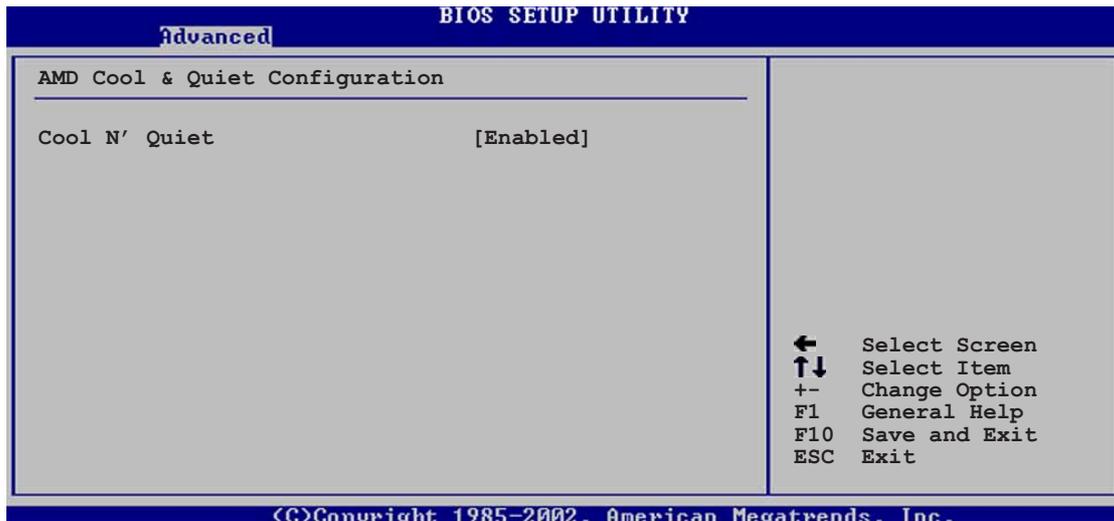
TRAS [6 CLK]

このアイテムは、TRASクロック設定を表示します。

TRP [3 CLK]

このアイテムは、TRPクロック設定を表示します。

4.4.1.3 AMD Cool & Quiet構成



Cool N' Quiet [Enabled]

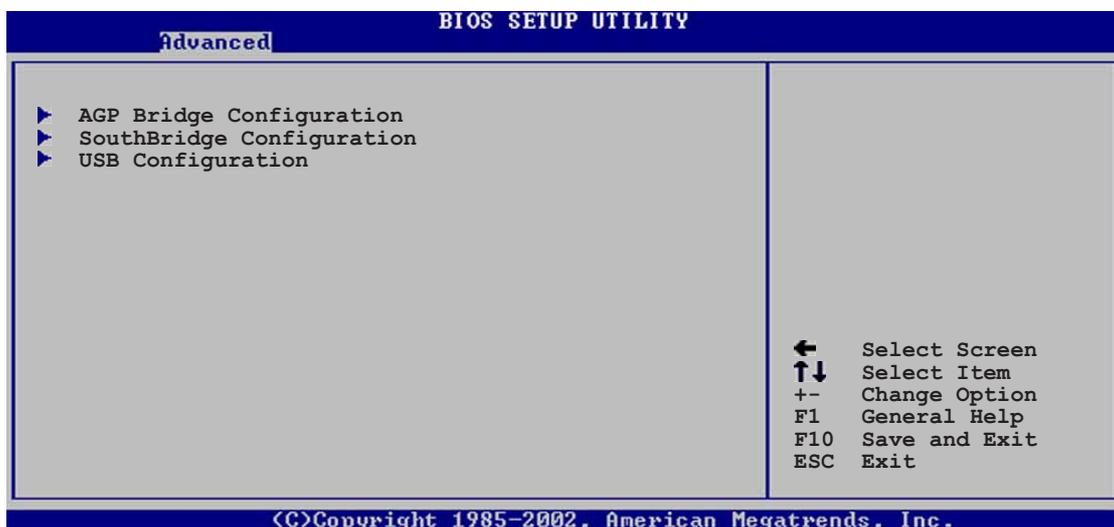
このアイテムは、AMD K8の「クールアンドクワイエット」機能の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Enabled]
[Disabled]

Processor

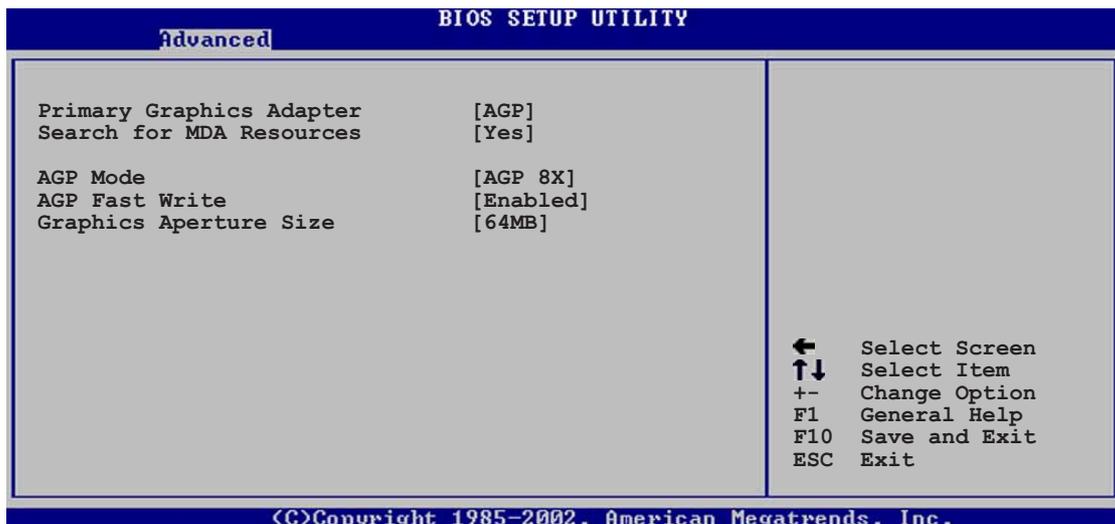
このアイテムは、プロセッサのタイプと速度を表示します。

4.4.2 チップセット

チップセットメニューでは、詳細なチップセット設定の変更が可能です。アイテムを選択してからEnterを押すと、サブメニューが表示されます。



4.4.2.1 AGP ブリッジ構成



Primary Graphics Adapter [AGP]

このアイテムは、ビデオカードを検索している間にPCIバススキャン順序を切り替えます。これにより、複数のビデオコントローラの場合プライマリVGAのタイプを選択できます。構成オプション: [PCI] [AGP]

Search for MDA Resources [No]

このアイテムは、MDAリソースの検索を許可するかどうかを設定します。構成オプション: [Yes] [No]

AGP Mode [AGP 8X]

このマザーボードはAGP 8Xインターフェイスをサポートして、2.12GB/秒でビデオデータを転送します。AGP 8Xは下位互換性があるため、AGP 4Xビデオカードを使用している場合でもデフォルトの[AGP 8X]モードを維持できます。[AGP 4X]モードに設定しているとき、AGPインターフェイスはAGP 8Xビデオカードを使用している場合でも、1.06GB/秒のピークデータスループットのみを提供します。構成オプション: [8X] [4X]

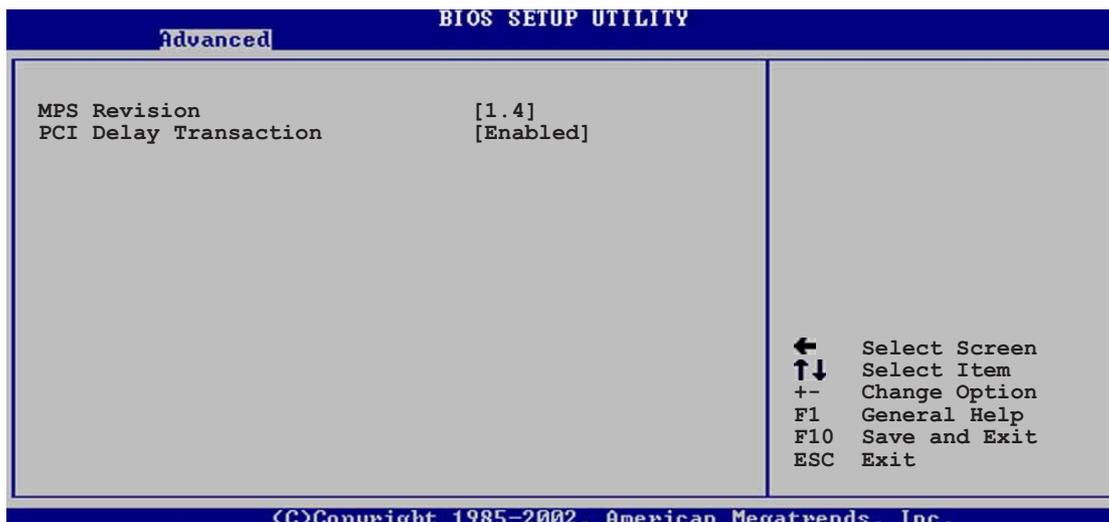
AGP Fast Write [Enabled]

このアイテムは、AGP高速書き込み機能の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Graphics Aperture Size [64MB]

AGPグラフィックデータのマップされたメモリサイズを選択します。構成オプション: [4MB] [8MB] [16MB] [32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

4.4.2.2 サウスブリッジ構成



MPS Revision [1.4]

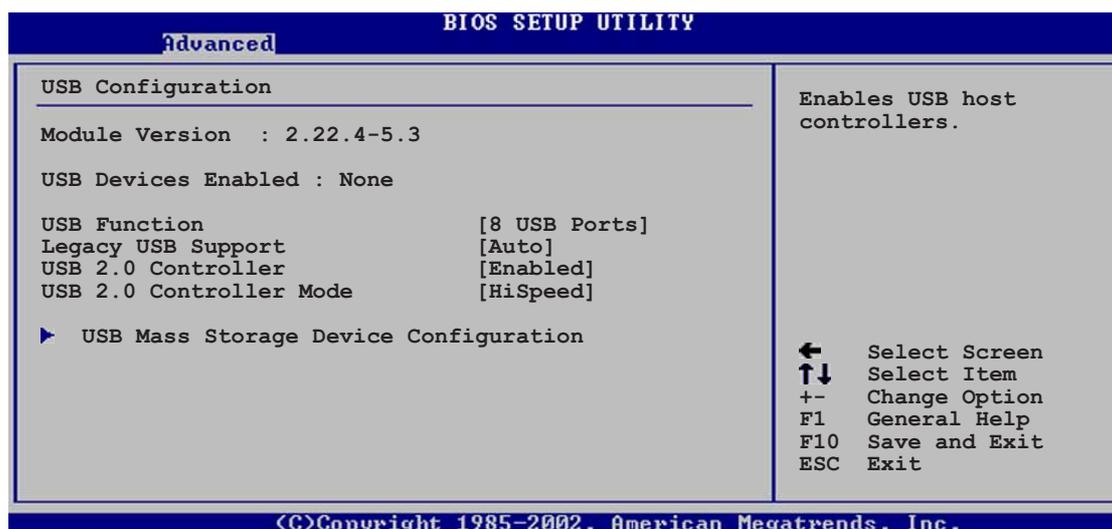
このアイテムは、MPSリビジョン値を設定します。構成オプション: [1.1] [1.4]

PCI Delay Transaction [Disabled]

このアイテムは、PCI遅延処理機能の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.2.3 USB 構成

このメニューのアイテムによって、USB関連機能を変更できます。アイテムを選択してからEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



モジュールバージョンとUSBデバイスEnabledアイテムは、自動検出された値を表示します。USBデバイスが検出されると、アイテムは「なし」を表示します。

USB 1.1 Ports Configuration [USB 8 Ports]

USBポートの数をアクティブに設定します。構成オプション:
[Disabled] [USB 2 Ports] [USB 4 Ports][USB 6 Ports] [USB
8 Ports]

USB 2.0 Ports Enable [Enabled]

USB 2.0ポートコントローラの有効/無効を切り替えます。構
成オプション: [Disabled] [Enabled]

VIA USB Device Function Enable [Disabled]

VIA USBデバイスコントローラの有効/無効を切り替えます。構成オプ
ション: [Disabled] [Enabled]

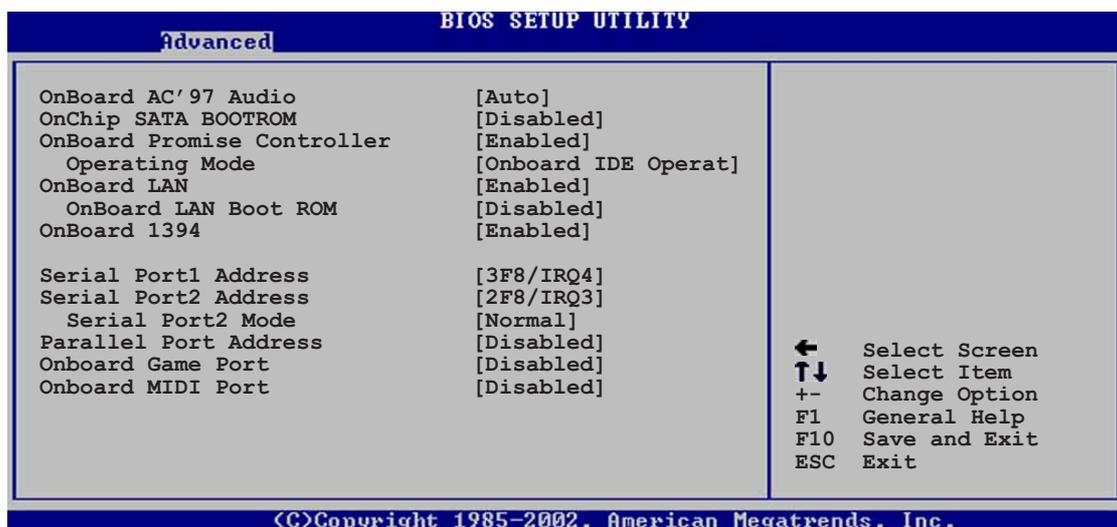
Legacy USB Support [Auto]

古いタイプのUSBデバイスのサポートの有効/無効の切り替えが可能です。
自動に設定すると、システムは起動時にUSBデバイスの存在を検
出できます。検出されると、USBコントローラレガシーモードは有効
になります。USBデバイスが検出されないと、古いタイプのUSBサ
ポートは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Enabled]
[Auto]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

HiSpeed (480 Mbps)でまたはFull Speed (12 Mbps)で、USB 2.0コ
ントローラを構成できます。構成オプション: [HiSpeed] [Full
Speed]

4.4.3 オンボードデバイス構成



OnBoard AC'97 Audio [Auto]

[Auto]によって、BIOSはオーディオデバイスが使用されているかどうか
を検出できます。オーディオデバイスが検出されれば、オンボードオー
ディオコントローラは有効になり、オーディオデバイスが検出されなけれ
ば、コントローラは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Auto]

OnChip SATA Boot ROM [Enabled]

オンチップシリアルATAブートROMの有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard Promise Controller [Enabled]

オンボードPromise RAIDコントローラの有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Operating Mode [Onboard IDE Operate Mode]

このアイテムは、Promise RAIDコントローラ操作モードを設定します。
構成オプション: [RAID] [Onboard IDE Operate Mode]

OnBoard LAN [Enabled]

オンボードLANコントローラの有効/無効の切り替えが可能です。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボードLANコントローラで、オプションROMの有効/無効の切り替えが可能です。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard 1394 [Enabled]

オンボードIEEE 1394コントローラの有効/無効の切り替えが可能です。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

シリアルPort1ベースアドレスを選択できます。
構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port2 Address [2F8/IRQ3]

シリアルPort2ベースアドレスを選択できます。
構成オプション: [Disabled] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port2 Mode [Normal]

シリアルPort2モードを選択します。
構成オプション: [Normal] [IrDA] [ASK IR]

IR Duplex Mode [Half Duplex]

このアイテムは、シリアルPort2モードが[Normal]に設定されているときのみ、表示されます。このアイテムでは、BIOSがシリアルポート2に対して全二重または半二重モードを選択できます。
構成オプション: [Full Duplex] [Half Duplex]

IR I/O Pin Select [SINB/SOUTB]

このアイテムは、シリアルPort2モードが[Normal]に設定されているときのみ表示されます。このアイテムでは、BIOSがシリアルポート2に対して受信または送信ピンを選択できます。構成オプション: [SINB/SOUTB] [IRRX/IRTX]

Parallel Port Address [378]

パラレルポートベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [378] [278] [3BC]

Parallel Port Mode [Normal]

パラレルポートモードを選択できます。アイテムパラレルポートアドレスが3BCに設定されているとき、パラレルポートモードオプションは標準、双方向、ECPしかありません。構成オプション: [Normal] [Bi-directional] [EPP] [ECP]

EPP Version [1.9]

パラレルポートEPPバージョンを選択できます。このアイテムは、パラレルポートモードがEPPに設定されている場合のみ、表示されます。構成オプション: [1.9] [1.7]

ECP Mode DMA Channel [DMA3]

パラレルポートECP DMAチャンネルを選択できます。このアイテムは、パラレルポートモードがECPに設定されている場合のみ、表示されます。構成オプション: [DMA0] [DMA1] [DMA3]

Parallel Port IRQ [IRQ7]

構成オプション: [IRQ5] [IRQ7]

Onboard Game Port [Disabled]

このアイテムは、オンボードゲームポートの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Onboard MIDI Port [Disabled]

このアイテムは、オンボードMIDIポートの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.4 PCI PnP

PCI PnPメニューアイテムによって、PCI/PnPデバイスの詳細設定を変更できます。メニューには、PCI/PnPまたは古いタイプのISAデバイスに対してはIRQとDMAチャンネルリソースの設定が、また古いタイプのISAデバイスに対してはメモリサイズブロックの設定が含まれます。



PCI PnPメニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動を起こす原因となります。

Advanced		BIOS SETUP UTILITY	
Advanced PCI/PnP settings			
WARNING: Setting wrong values in the sections below may cause system to malfunction.			
Plug and Play OS	[No]	NO: Lets the BIOS configure all the devices in the system. YES: Lets the operating system configure Plug and Play (PnP) devices not required for boot if your system has a Plug and Play operating system. ← Select Screen ↑↓ Select Item +- Change Option F1 General Help F10 Save and Exit ESC Exit	
PCI Latency Timer	[64]		
Allocate IRQ to PCI VGA	[Yes]		
Palette Snooping	[Disabled]		
IRQ3	[Available]		
IRQ4	[Available]		
IRQ5	[Available]		
IRQ7	[Available]		
IRQ9	[Available]		
IRQ10	[Available]		
IRQ11	[Available]		
IRQ14	[Available]		
IRQ15	[Available]		
(C)Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.			

Plug and Play O/S [No]

[No]に設定されていると、BIOSはシステムの全てのデバイスを構成します。[Yes]に設定されているときにプラグアンドプレイオペレーティングシステムをインストールしていると、オペレーティングシステムはブートに必要なでないプラグアンドプレイデバイスを構成します。構成オプション: [No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCIデバイスレイテンシタイムレジスタに対して、PCIクロックの値を選択できます。構成オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes]に設定されていると、BIOSはPCI VGAカードがIRQを要求している場合、カードにIRQを割り当てます。[No]に設定されていると、BIOSはたとえ要求されても、PCI VGAカードにIRQを割り当てません。構成オプション: [No] [Yes]

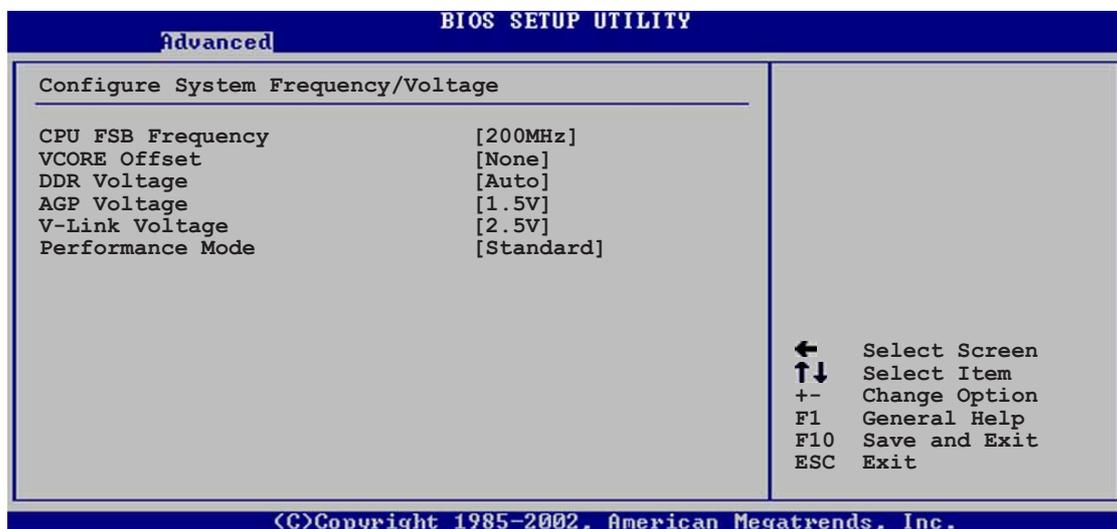
Palette Snooping [Disabled]

[Enabled]に設定されていると、パレットスヌープ機能はISAグラフィックデバイスが正しく機能するように、このデバイスがシステムに取り付けられていることをPCIデバイスに通知します。[Disabled]に設定されていると、この機能を無効にします。構成オプション: [Disabled]
[Enabled]

IRQ xx [Available]

[Available]に設定されていると、特定のIRQはPCI/PnPデバイスを自由に使用できます。[Reserved]に設定されていると、IRQは古いタイプのISAデバイス用に割り当てられます。構成オプション: [Available]
[Reserved]

4.4.5 ジャンプフリー構成



CPU FSB Frequency [200MHz]

このアイテムは、CPU FSBの動作周波数を調整します。構成オプション: [200MHz] [201 MHz] ~ [260MHz]

VCore Offset [None]

このアイテムは、特定のVCoreオフセット電圧を設定します。構成オプション: [None] [100mV] [200mV] [300mV]

DDR Voltage [Auto]

このアイテムは、リストからDDR動作電圧を自動的に検出または選択します。構成オプション: [Auto] [2.6V] [2.7V] [2.8V]

AGP Voltage [1.5V]

このアイテムは、AGP電圧設定を調整します。構成オプション: [1.5V] [1.7V]

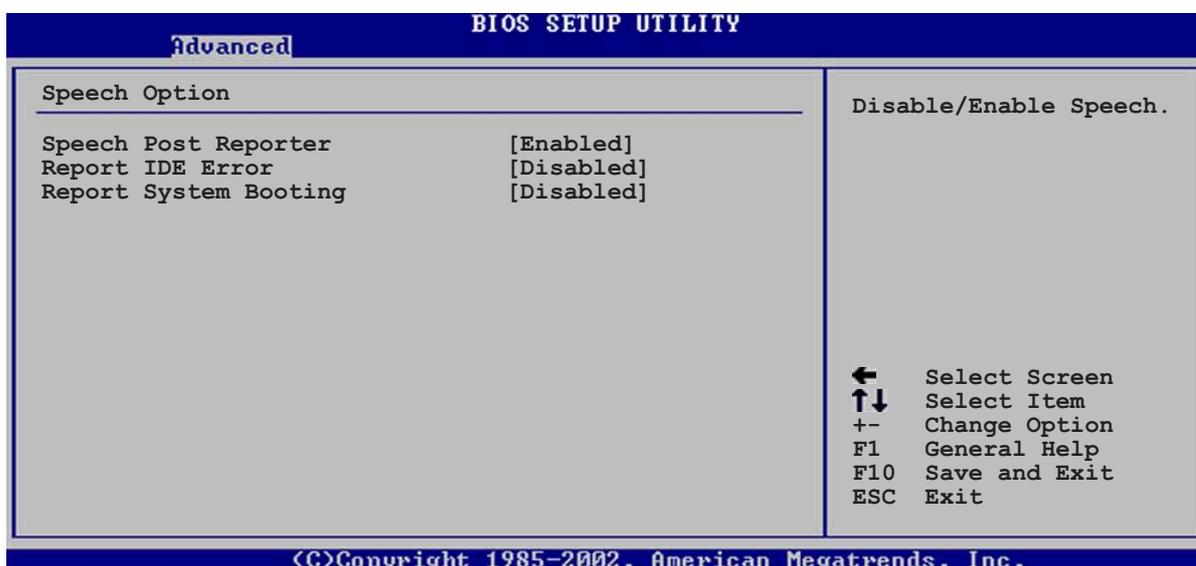
V-Link Voltage [2.5V]

このアイテムは、V-Link電圧設定を調整します。構成オプション:
[2.5V] [2.7V]

Performance Mode [Auto]

システムパフォーマンスを向上させます。[TurboX]に設定するとシステムが不安定になります。この場合、デフォルト設定 [Standard]に戻してください。構成オプション: [Standard] [Turbo1] [Turbo2] [Turbo3]

4.4.6 スピーチ構成



Speech POST Reporter [Enabled]

ASUS Speech POST Reporter 機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のアイテムは、Speech POST Reporterが有効に設定されている場合のみ、表示されます。

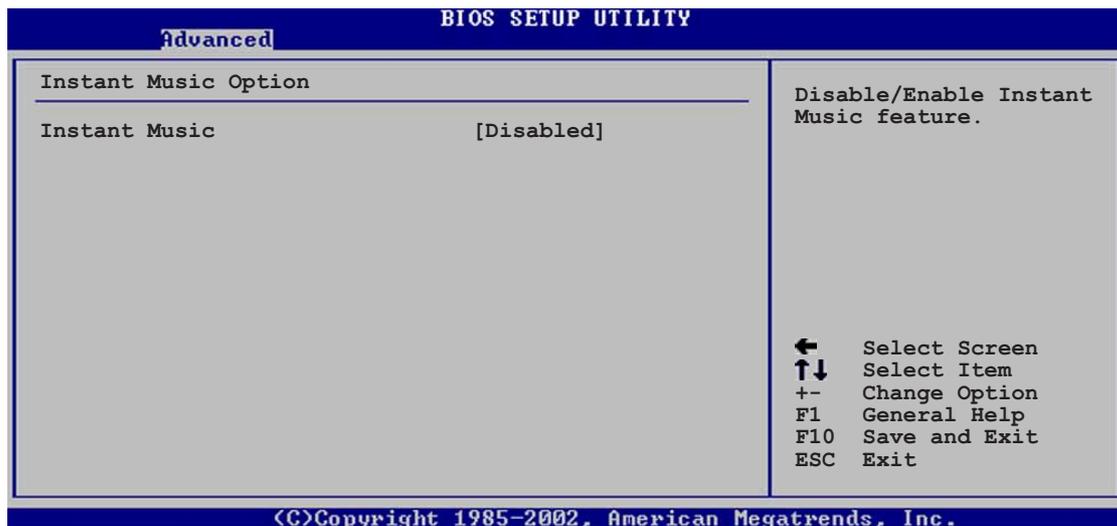
Report IDE Error [Disabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Report System Booting [Disabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.7 インスタントミュージック構成



Instant Music [Disabled]

BIOSでインスタントミュージック機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



インスタントミュージックが有効になっていると、PS/2 キーボードの電源アップ機能は自動的に無効になります。

Instant Music CD-ROM Drive [IDE Secondary Master]

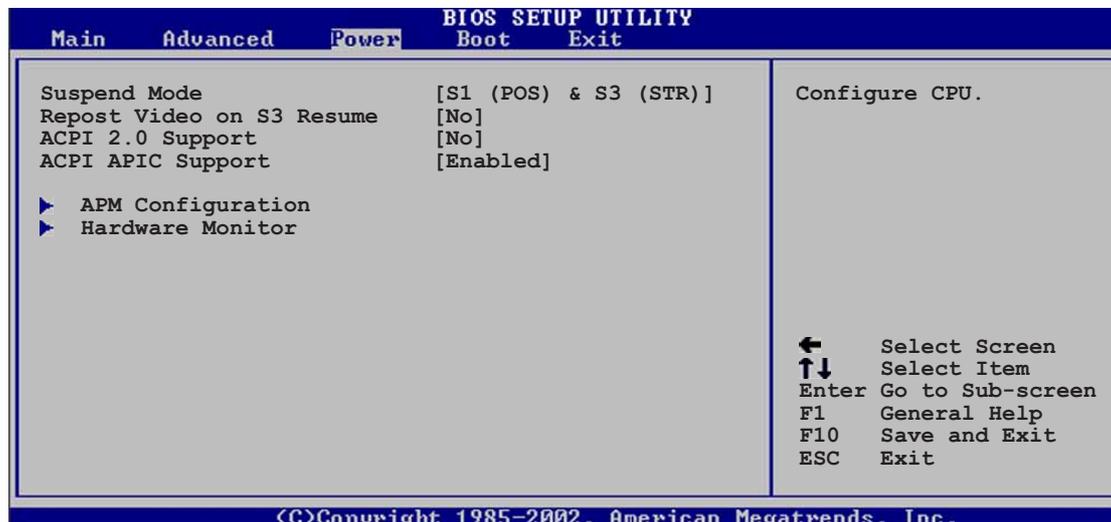
インスタントミュージックCD再生に対して使用するCD-ROMドライブを選択できます。構成オプション: [IDE Primary Master] [IDE Primary Slave] [IDE Secondary Master] [IDE Secondary Slave]



上のアイテムは、インスタントミュージックアイテムを有効にしている場合のみ表示されます。

4.5 電源メニュー

電源メニューアイテムによって、アドバンストパワーマネージメント (APM) の設定を変更できます。アイテムを選択してからEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



4.5.1 Suspend Mode [S1 (POS) & S3 (STR)]

システムサスペンド用に使用するACPI状態を選択できます。構成オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [S1 (POS) & S3 (STR) Auto]

4.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

VGA BIOS POST on S3/STR レジュームを呼び起こすかどうか決定します。構成オプション: [No] [Yes]

4.5.3 ACPI 2.0 Support [No]

ACPI 2.0仕様に対してさらに表を追加できます。構成オプション: [No] [Yes]

4.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

ASICでACPIサポートの有効/無効を切り替えることができます。有効に設定されていると、ACPI APIC 表ポインタはRSDTポインタに含まれます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.5 APM 構成

BIOS SETUP UTILITY		
Power		
Power Management/APM	[Enabled]	Enabled or disable APM.
Power Button Mode	[On/Off]	
Suspend Power Saving Type	[C3]	
Restore on AC Power Loss	[Power Off]	
Standby Time Out	[Disabled]	
Suspend Time Out	[Disabled]	
Hard Disk Time Out (Minute)	[Disabled]	
Video Power Down Mode	[Suspend]	
Hard Disk Power Down Mode	[Suspend]	
Advanced Resume Events Controls		
Power On By RTC Alarm	[Disabled]	← Select Screen
Power On Ring	[Disabled]	↑↓ Select Item
Power On PME#	[Disabled]	+ - Change Option
Resume On KBC	[Disabled]	F1 General Help
Resume On PS/2 Mouse	[Disabled]	F10 Save and Exit
		ESC Exit

(C)Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.

Power Management/APM [Enabled]

アドバンストパワーマネジメント(APM)機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disbaled] [Enabled]



次のアイテムは、電源管理/APMアイテムが[Enabled]に設定されているときのみ表示されます。

Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンを押したとき、システムはオン/オフモードにまたはサスペンドモードに入ることができます。構成オプション: [On/Off] [Standby] [Suspend]

Suspend Power Saving Type [C3]

このアイテムは、サスペンド省電力タイプを設定します。構成オプション [C3] [S1]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

電源オフに設定されていると、AC電源損失の後システムはオフ状態に入ります。電源オンに設定されていると、AC電源損失の後システムはオン状態に入ります。最後の状態に設定されていると、AC電源損失の後のシステムの状態には関わらず、システムはオンまたはオフ状態に入ります。構成オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Standby Time Out [Disabled]

システムがスタンバイモードになる特定の時間を選択します。構成オプション: [Disabled] [1 Min] [2 Min] [4 Min][8 Min] [10 Min] [20 Min] [30 Min] [40 Min] [50 Min] [60 Min]

Suspend Time Out [Disabled]

システムがサスペンドに入る指定時間を選択できます。構成オプション:
[Disabled] [1 Min] [2 Min] [4 Min] [8 Min] [10 Min] [20 Min] [30 Min]
[40 Min] [50 Min] [60 Min]

Hard Disk Time Out (Minute) [Disabled]

ハードディスクがスタンバイモードになる特定の時間を、分で選択しま
す。構成オプション: [Disabled] [1] [2] ~ [15]

Video Power Down Mode [Suspend]

ビデオのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション:
[Disabled] [Standby] [Suspend]

Hard Disk Power Down Mode [Suspend]

ハードディスクのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション:
[Disabled] [Standby] [Suspend]

Advanced Resume Events Controls

Power On By RTC Alarm [Disabled]

呼び起こしイベントを生成するために、RTCの有効/無効を切り替えるこ
とができます。このアイテムが有効に設定されていると、アイテムRTC
アラーム日、RTCアラーム時間、RTCアラーム分、RTCアラーム秒が設
定値で表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On Ring [Disabled]

このアイテムは、コンピュータがソフトオフモードになっている間、外付
モデムが着信を受け取ると、コンピュータの電源をオンするための
[Enabled] または [Disabled] を切り替えます。構成オプション:
[Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行されるまで、コン
ピュータはデータの送受信を行うことができません。従って、一度で
接続を行うことはできません。コンピュータがオフになっている間
に、外部モデムをオフにしてからオンにすると、初期化ストリングに
よりシステムの電源はオンになります。

Power On PME# [Disabled]

[Enabled] に設定しているとき、このパラメータはPME#を通してシステ
ムの電源をオンにします。この機能は、+5VSBリード線で少なくとも1A
を提供するATX電源装置が必要となります。構成オプション: [Disabled]
[Enabled]

Power On KBC [Disabled]

このパラメータは、キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。[S5]に設定しているとき、ウェークアップキーアイテムが有効になります。この機能は、+5VSBリード線で少なくとも1Aを提供するATX電源装置が必要となります。構成オプション: [Disabled] [S5]

Resume On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、このパラメータはPS/2マウスを使用してシステムをレジュームします。この機能は、+5VSBリード線で少なくとも1Aを提供するATX電源装置が必要となります。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.6 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Hardware Monitor	CPU temperature
CPU Temperature [40°C/104°F]	
MB Temperature [36°C/96.5°F]	
CPU Fan Speed [2250RPM]	
Chassis Fan Speed [N/A]	
Q-Fan Control [Disabled]	
VCORE Voltage [1.632V]	
3.3V Voltage [3.344V]	
5V Voltage [5.107V]	
12V Voltage [11.584V]	
	← Select Screen
	↑↓ Select Item
	+ - Change Option
	F1 General Help
	F10 Save and Exit
	ESC Exit

(C)Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.

MB Temperature [xxxC/xxxF]

CPU Temperature [xxxC/xxxF]

オンボードのハードウェアモニタは、マザーボード、CPUの温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合は、無効を選択してください。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

オンボードハードウェアモニタは、CPU、シャーシの毎分の回転速度(RPM)を自動的に検出して表示します。ファンのどれかがマザーボードに接続されていない場合、特定のフィールドがN/Aを表示します。

Q-Fan Control [Disabled]

このアイテムにより、ASUS Q-Fan機能の有効/無効を切り替え、システムをより効率的に操作するためにファン速度をスマートに調整できます。このフィールドを[Enabled]に設定すると、ファン速度比アイテムが表示されて、適切なファン速度比を選択できます。構成オプション:
[Disabled] [Enabled]

VCORE Voltage, +3.3V Voltage, +5V Voltage, +12V Voltage

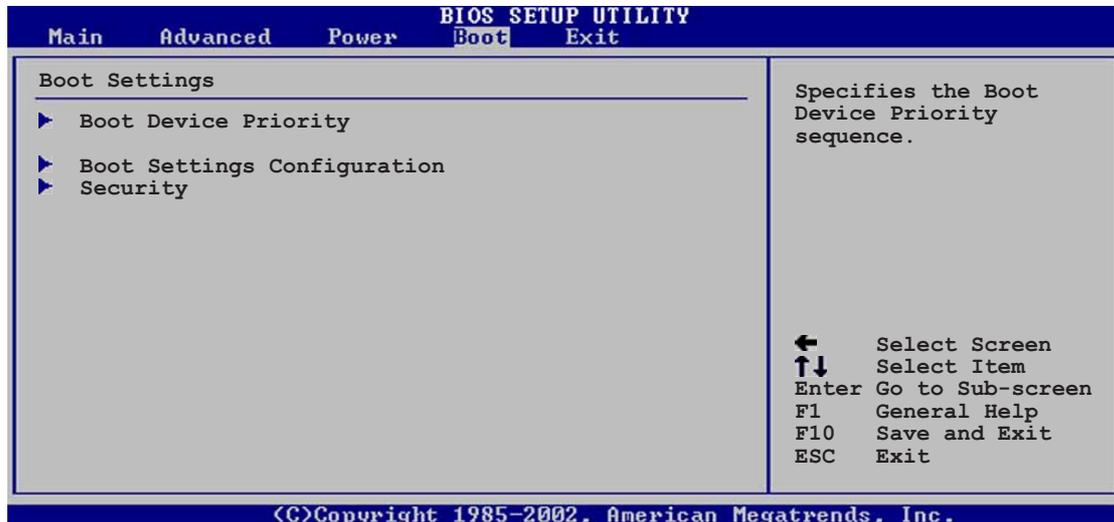
オンボードハードウェアモニタは、オンボード電圧レギュレータを通して電圧出力を自動的に検出します。



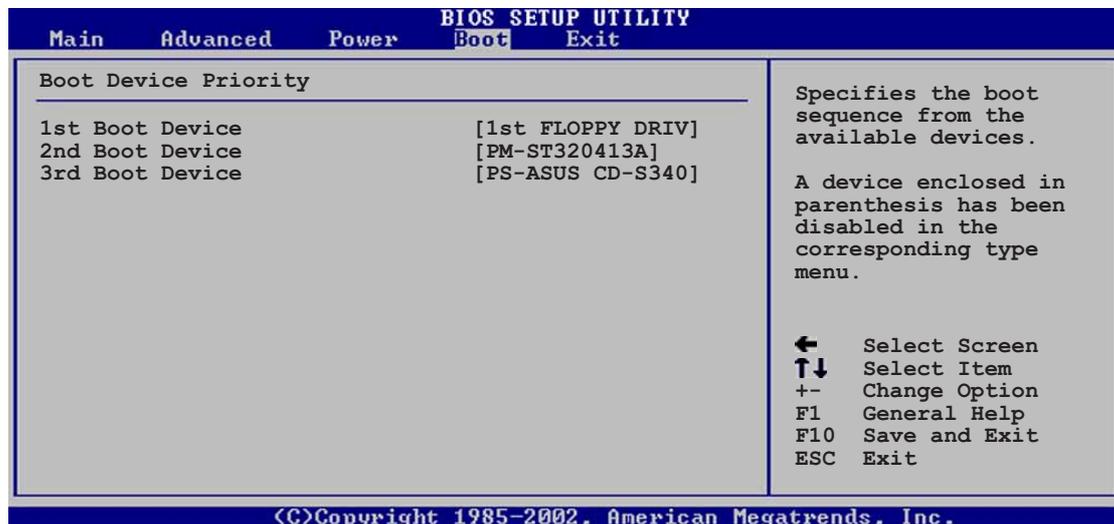
マザーボードアイテムのどれかが範囲から外れていると、次のエラーメッセージが表示されます:「ハードウェアモニタがエラーを検出しました。詳細は、電源セットアップメニューに入ってください」。次に、「F1を押して続行するか、DELを押してセットアップに入ってください」という指示メッセージが表示されます。

4.6 ブートメニュー

ブートメニューアイテムによって、システムのブートオプションを変更できます。アイテムを選択しEnterを押すと、サブメニューが表示されます。



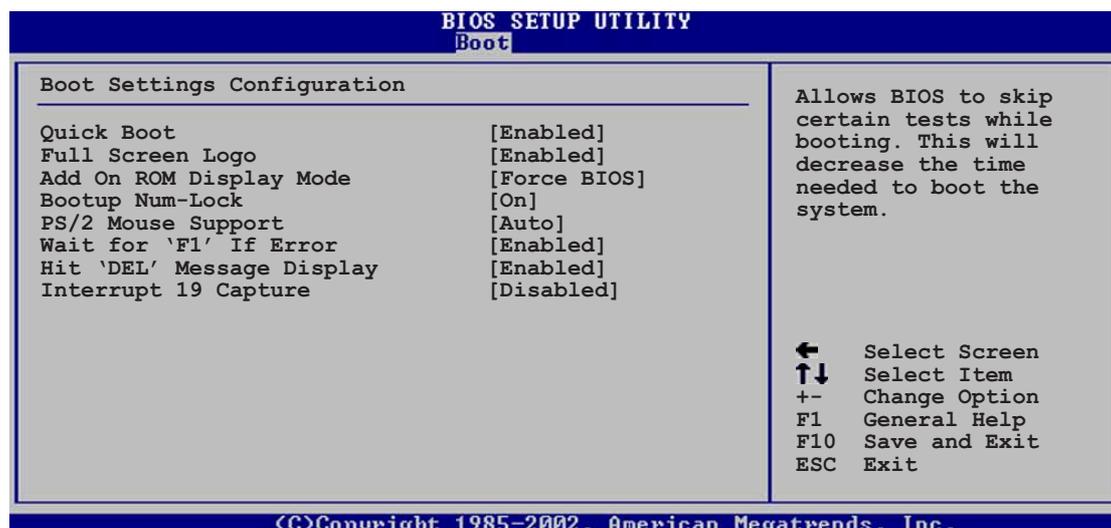
4.6.1 ブートデバイスのプライオリティ



1st ~ xxth Boot Device [1st Floppy Drive]

これらのアイテムは、利用可能なデバイスからブートデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスアイテムの数は、システムに取り付けられているデバイスの数によって異なります。構成オプション:
[xxxxx Drive] [Disabled]

4.6.2 ブート設定構成



Quick Boot [Enabled]

このアイテムを有効にすることによって、BIOSはブートしながら一部のパワーオンセルフテスト(POST)をスキップして、システムのブートに必要な時間を削減できます。[Disabled]に設定していると、BIOSは全てのPOSTアイテムを実施します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

[Enabled] に設定すると起動時にマザーボード固有の画像を表示します。設定できる値は : [Disabled] [Enabled] です。



ASUS MyLogo2™ をお使いになる場合は、[Enabled] に設定してください。

Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプションROMに対して、表示モードを設定します。構成オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

NumLockの電源オン状態を選択できます。構成オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2マウスのサポートの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

有効に設定している場合、システムはエラーが発生したときにF1が押されるのを待ちます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

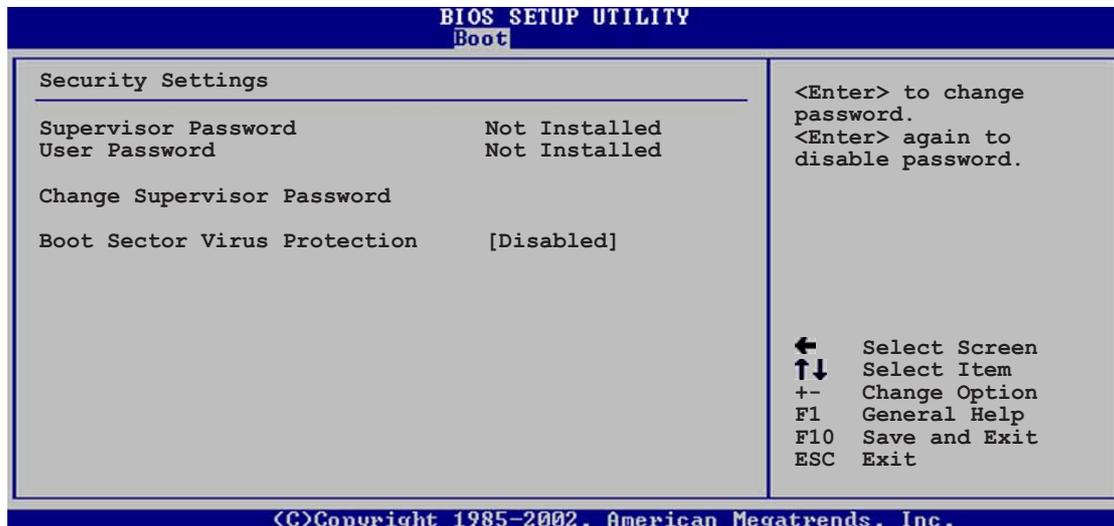
有効に設定されている場合、システムはPOSTの間「DELを押してセットアップを実行」というメッセージを表示します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled]に設定している場合、この機能によってオプションROMは割り込み19にトラップできます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.6.3 セキュリティ

セキュリティメニューアイテムによって、システムのセキュリティ設定を変更できます。アイテムを選択してEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



管理者パスワードの変更

この相手区を選択するか、管理者パスワードを変更します。画面の上部にある管理者パスワードは、デフォルトのインストールされていないを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムはインストール済みを表示します。

管理者パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. 管理者パスワードアイテムの変更を選択し、Enterを押します。
2. 表示されるパスワードボックスに、文字と数字から成るパスワードを入力し、Enterを押します。パスワードは6文字以上でなければなりません。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。
パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。
管理者パスワードアイテムが、これでインストールされたことを示します。

管理者パスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

管理者パスワードを消去するには、管理者パスワードの変更を選択し、Enterを押します。「パスワードが削除されました」というメッセージが表示されます。



BIOSパスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック (RTC) RAMを消去することによって消去できます。RTC RAMを消去する方法については、「2.7 ジャンパ」をご覧ください。

管理者パスワードを設定すると、他のアイテムが表示され、他のセキュリティ設定を変更できるようになります。



User Access Level (Full Access]

このアイテムによって、セットアップアイテムへのアクセス制限を選択できます。構成オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

アクセスなしは、セットアップユーティリティへのユーザーアクセスを妨げます。

表示のみは、アクセスを許可しますが、フィールドの変更は一切許可しません。

制限付きは、日付や時間などの選択されたフィールドのみの変更を許可します。

フルアクセスは、セットアップユーティリティの全てのフィールドの表示と変更を許可します。

Change User Password

このアイテムを選択すると、ユーザーパスワードを設定したり変更できます。画面上部のユーザーパスワードアイテムは、デフォルトの設定されていませんを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムは設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーパスワードの変更アイテムを選択し、Enterを押します。
2. 表示されるパスワードボックスに、文字と数字から成るパスワードを入力し、Enterを押します。パスワードは6文字以上でなければなりません。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。
パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードアイテムは、設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

Clear User Password

ユーザーパスワードを消去したい場合、このアイテムを選択します。

Password Check [Setup]

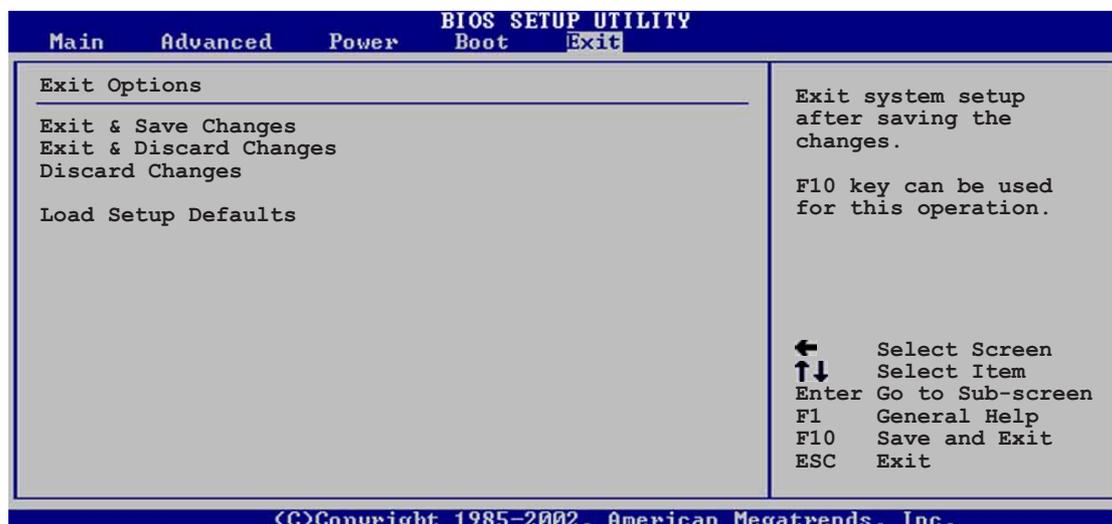
[Setup]に設定されていると、BIOSはセットアップユーティリティにアクセスするときユーザーパスワードをチェックします。[Always]に設定されているとき、BIOSはセットアップにアクセスしシステムをブートするとき、ユーザーパスワードをチェックします。構成オプション: [Setup] [Always]

Boot Sector Virus Protection [Disabled]

ブートセクタウィルス保護の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.7 メニューの終了

終了メニューアイテムによって、BIOSアイテムに対して最適のまたはフェールセーフのデフォルト値をロードし、BIOSアイテムへの変更を保存したり破棄できます。



<Esc>を押しても、このメニューは直ちに終了しません。このメニューからどれかのオプションを選択するか、ツールバーから<F10>を選択して終了します。

Exit & Save Changes

選択を終了したら、終了メニューからこのオプションを選択して、選択した値がCMOS RAMに保存されていることを確認します。CMOS RAMはオンボードのバックアップバッテリーに保存され、PCの電源をオフにしても消えることはありません。このオプションを選択すると、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとする、プログラムは終了する前に変更を保存するかどうか尋ねるメッセージを表示します。<Enter>を押すと、終了するときに変更を保存します。

Exit & Discard Changes

このオプションは、セットアッププログラムに行った変更を保存したくないときだけ、選択します。システムの日付やシステムの時間、パスワード以外のフィールドを変更すると、BIOSは終了する前に確認を求めます。

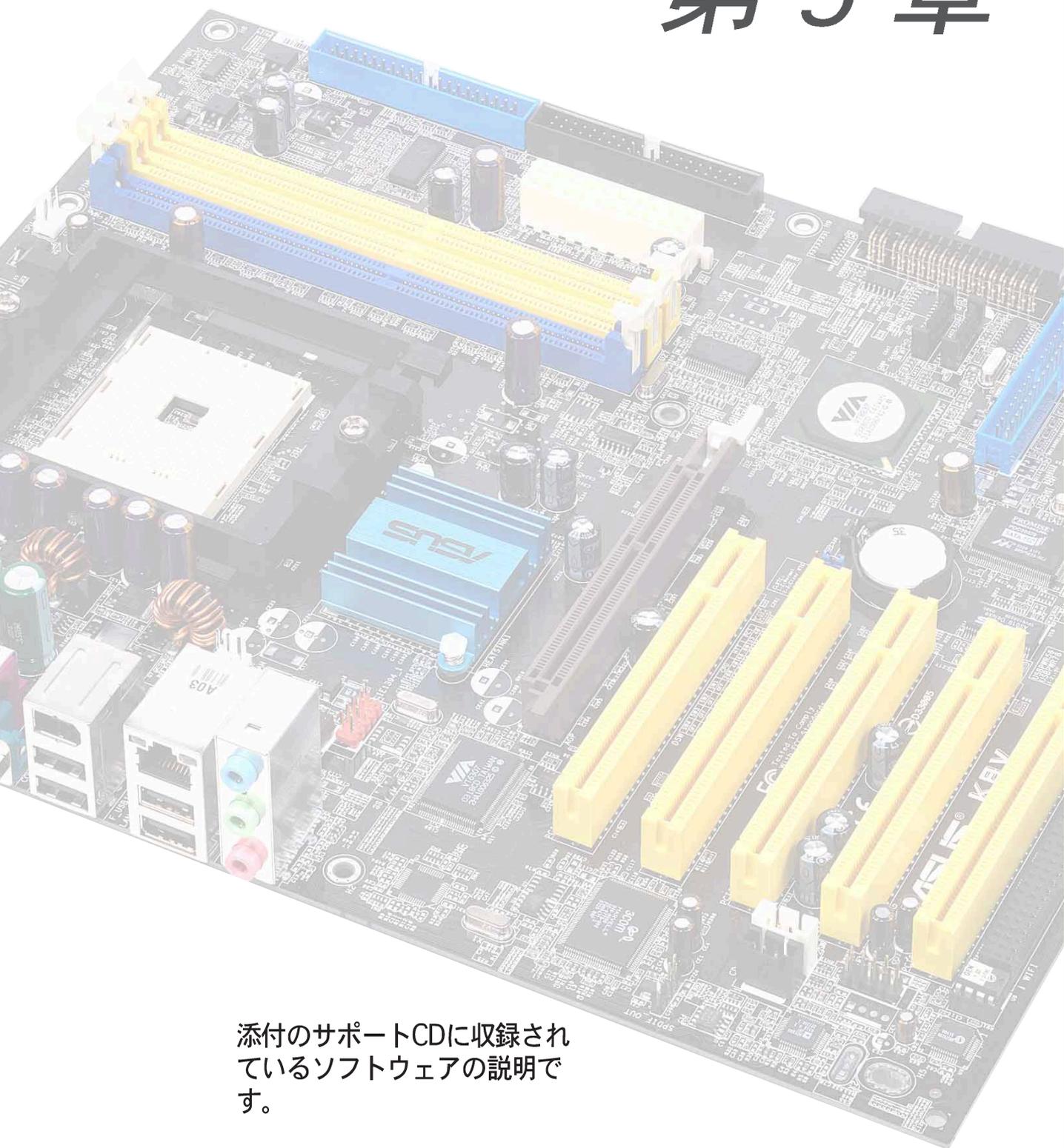
Discard Changes

このオプションによって、行った変更を破棄しそれまでに保存された値を復元します。このオプションを選択すると、確認が表示されます。[Yes]を選択すると、変更を破棄しそれまでに保存した値をロードします。

Load Setup Defaults

このオプションによって、セットアップメニューのそれぞれのパラメータに関するデフォルト値をロードします。このオプションを選択すると、または<F5>を押すと、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を押すと、デフォルト値がロードされます。値を不揮発性RAMに保存する前に、変更を保存して終了を選択するか、他の変更を行ってください。

第5章



添付のサポートCDに収録されているソフトウェアの説明です。

サポートソフトウェア

本章の内容

5.1 OSのインストール	5-1
5.2 サポートCDについて	5-1
5.3 ソフトウェア情報	5-7
5.4 VIA® RAID 構成	5-18
5.5 Promise® RAID構成	5-25
5.6 Makedisk.exeを使用する	5-33
5.7 Marvell® 仮想ケーブル テストテクノロジー	5-34

5.1 OSのインストール

本マザーボードは Windows 2000/Windows 2003 Server/XP OS に対応しています。ハードウェアの最新機能を利用するために、各OSは最新バージョンのものを用いてください。



マザーボードの設定やオプション、拡張カードには様々な種類があります。次章からの説明は一般的な例で、お使いのシステムと異なる場合があります。

5.2 サポートCDについて

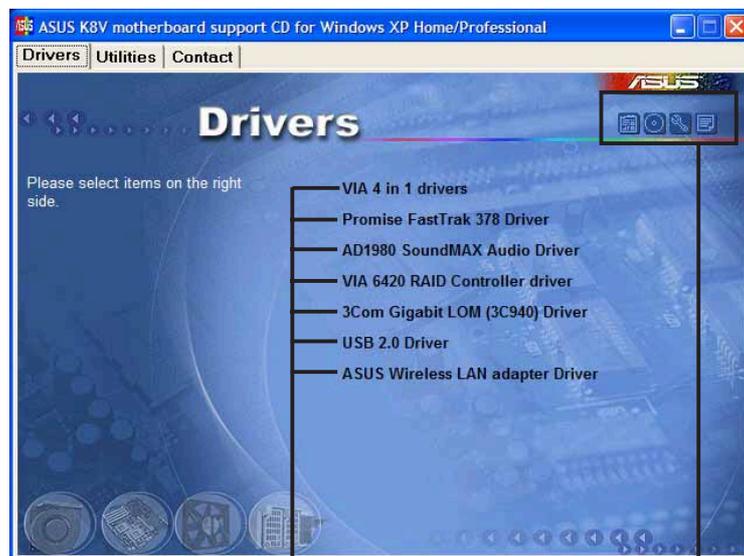
添付のサポートCDには、本マザーボードに必要なドライバ、ソフトウェアおよびユーティリティが含まれています。OSのインストール後に、必ずインストールしてください。



サポートCDの内容は、予告なしに変更される場合があります。最新情報についてはASUSのWEBサイトをご覧ください。

5.2.1 サポートCDの起動方法

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを挿入します。ドライバメニューが自動起動します。



インストールしたい項目をクリックします。

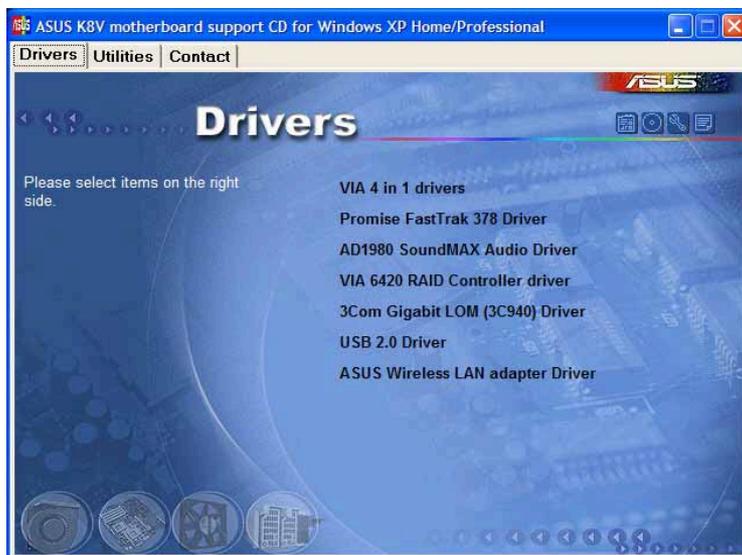
クリックすると詳細情報が表示されます。



メニューが起動しない場合は、BINフォルダ内の ASSETUP.EXE を実行してください。

5.2.2 ドライバメニュー

マザーボードに搭載されているデバイス用のドライバです。各デバイスの機能を有効にするために必要です。



VIA 4 in 1 drivers

以下のドライバをインストールします。

- VIA Registry (INF) ドライバ
- VIA AGP VxD ドライバ
- VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ
- VIA PCI IRQ Miniport ドライバ

Promise FastTrak 378 Driver

Serial ATA および RAID用の Promise FastTrak 378 ドライバをインストールします。

AD1980 SoundMAX Audio Driver Application

ADI 1980 AC'97 準拠オーディオコントローラとアプリケーションです。

VIA 6420 RAID Controller driver

このアイテムは、VIA® 6420 RAIDコントローラドライバとアプリケーションをインストールします。

3Com Gigabit LOM (3C940) Driver

1000Mbps Gigabit LAN 用の3Com® Gigabit LOM (3C940)ドライバをインストールします。

USB 2.0 Driver

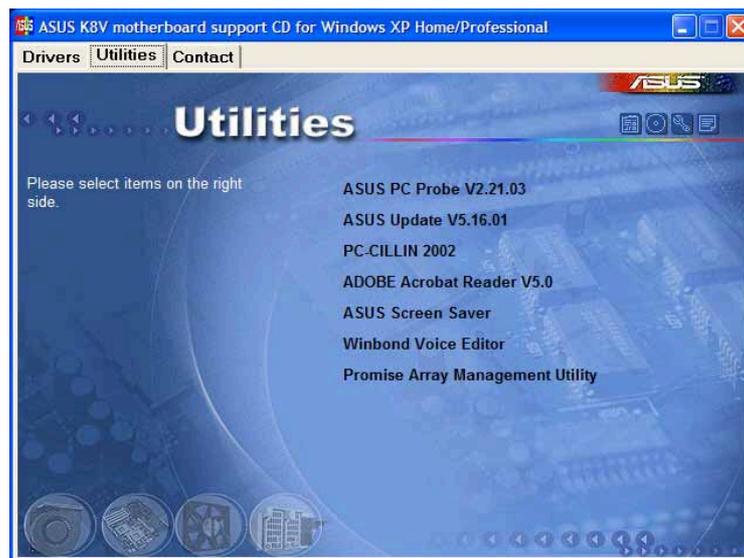
USB 2.0ドライバをインストールします。

ASUS Wireless LAN adapter driver

このアイテムは、ASUSが独自に開発したWi-Fiスロット用のASUSワイヤレスLANアダプタをインストールします。

5.2.3 ユーティリティメニュー

本マザーボードでサポートされているユーティリティに関するメニューです。



ASUS PC Probe

コンピュータのファン回転数・温度・電圧などのハードウェア情報をモニターすることができるユーティリティです。システムの監視に役立ちます。

Install ASUS Update

最新バージョンのBIOSをWEBサイトから自動でダウンロードするユーティリティです。



ASUS Update を使用するには、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。

PC-CILLIN 2002

PC-cillin 2002 アンチウィルスソフトウェアをインストールします。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

Adobe Acrobat Reader

PDF形式のマニュアルを見るために必要な Adobe Acrobat Reader V5.0 をインストールします。最新および他言語のマニュアルが、PDF形式でASUSのサイトにあります。

ASUS Screen Saver

ASUS特製スクリーンセーバーをインストールします。



画面ディスプレイとユーティリティオプションは、他のオペレーティングシステムバージョンと同じでないこともあります。

Winbond Voice Editor

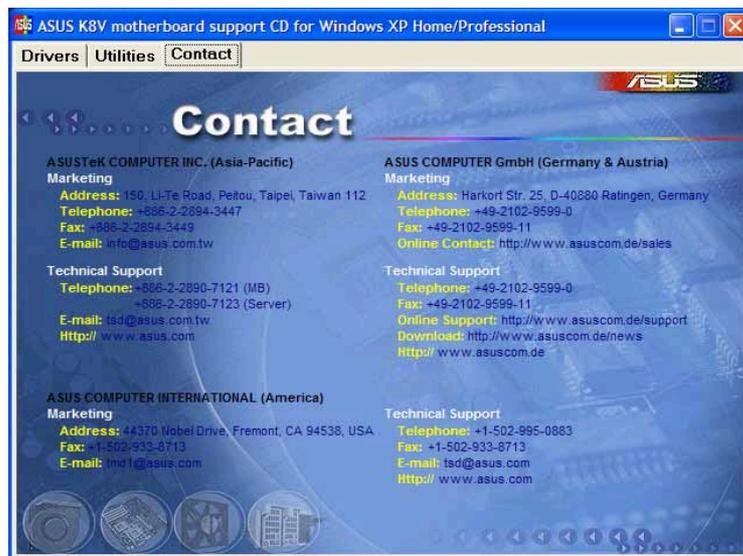
ASUS POST Reporter™ 用の WAVE ファイルを記録・編集するユーティリティです。POST 音声メッセージを編集する場合に使います。詳しくは「3.2 ボーカルPOSTメッセージ」をご覧ください。

Promise Array Management Utility

このアイテムは、Promise Array Management ユーティリティをインストールします。この機能を使用して、RAID インストール用ディスクアレイを構成します。

5.2.4 ASUS サポート情報

ASUS のサポート情報です。本書にあるサポート情報とあわせてご利用ください。

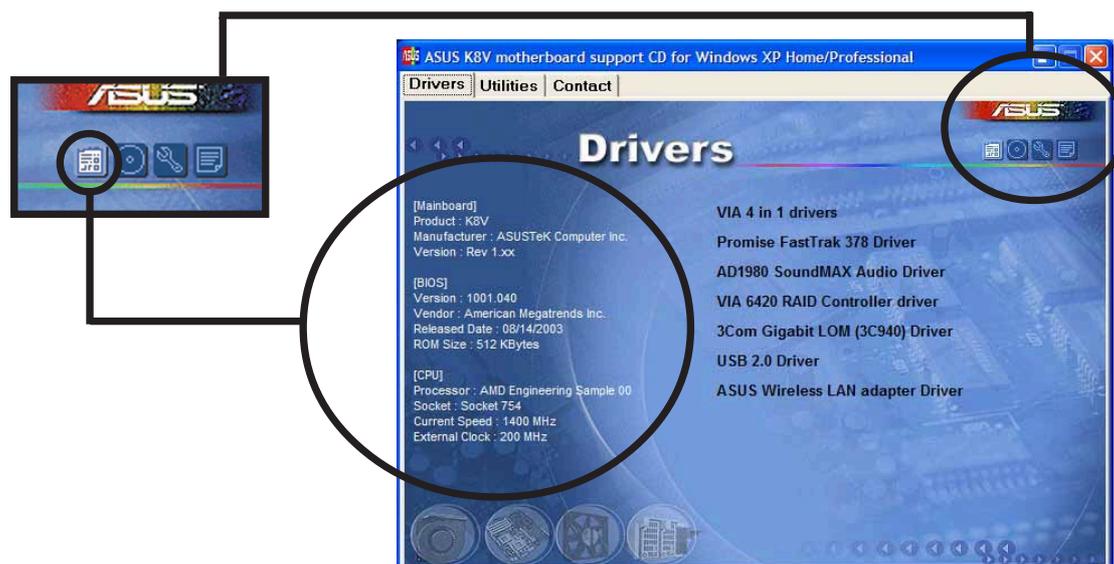


5.2.5 その他の情報

画面右上にあるアイコンをクリックすると、マザーボードおよびサポートCDに関する追加情報を見ることができます。各アイコンは以下の内容になっています。

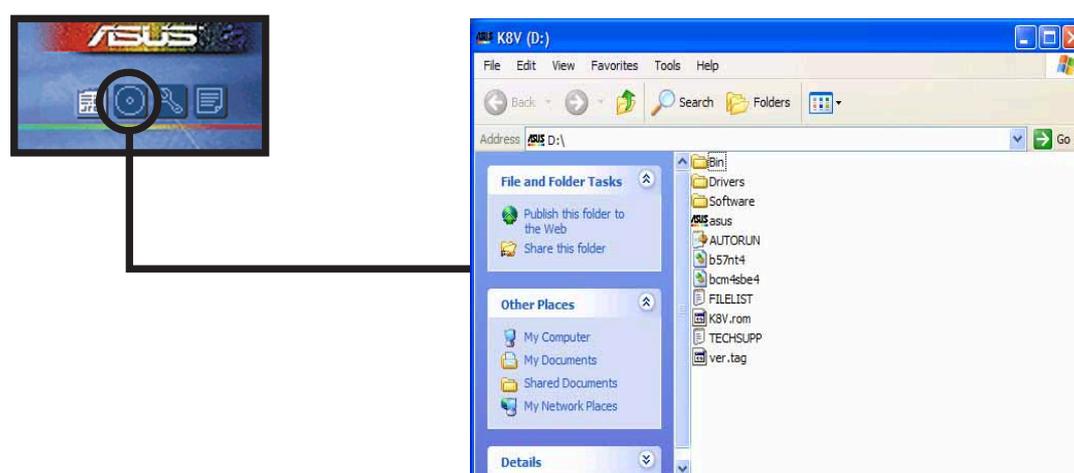
Motherboard Info

K8V マザーボードの仕様が一覧表示されます。



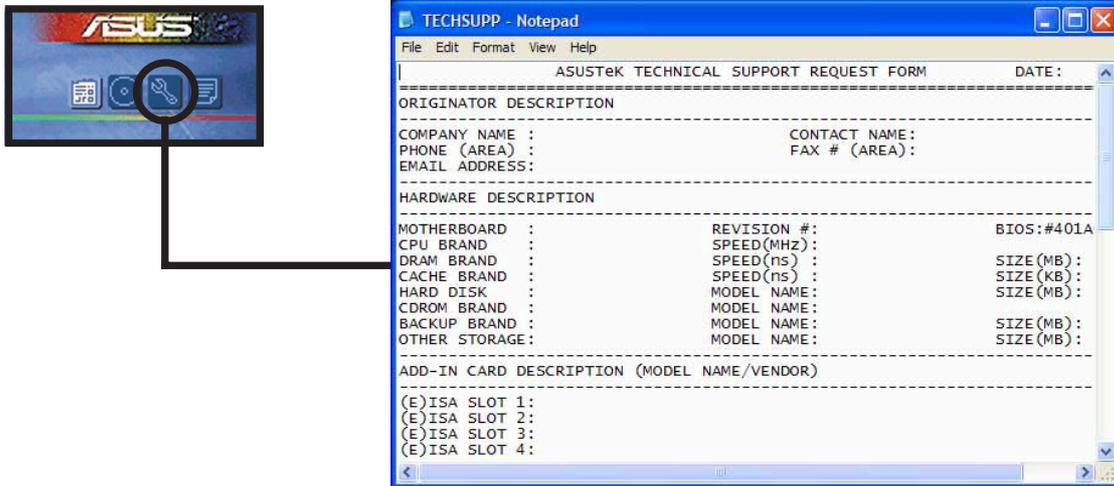
Browse this CD

サポートCDの内容を表示します。



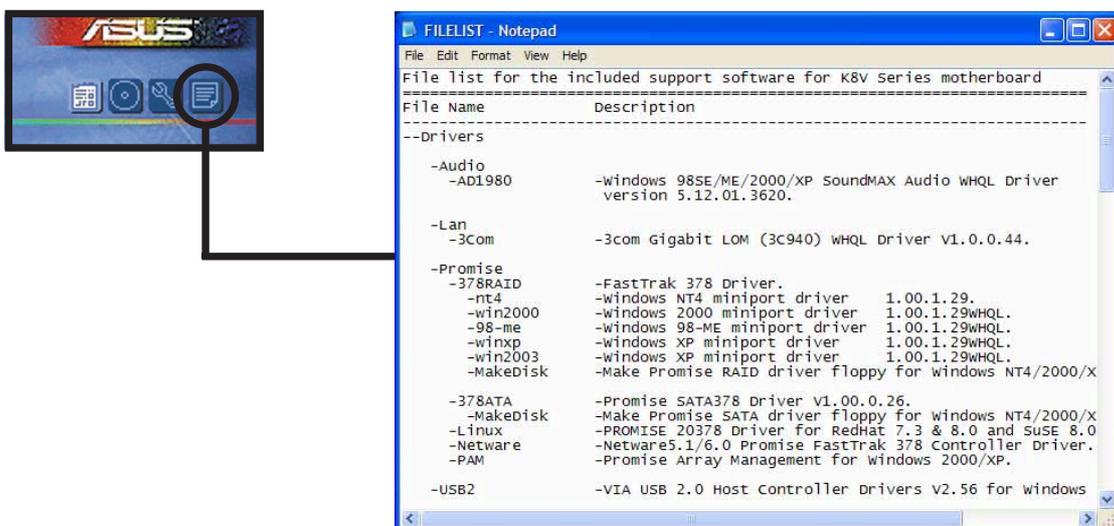
Technical Support Form

ASUSのテクニカルサポート用の書式です。テキスト形式になっていますので、サポートをうける場合、必要な項目を記入します。



Filelist

サポートCDの内容や簡単なドキュメントを記載したテキストファイルです。



5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのソフトウェアの多くはウィザード形式のインストーラーに対応しています。詳しい情報は各ソフトウェアのオンラインドキュメントを参照してください。

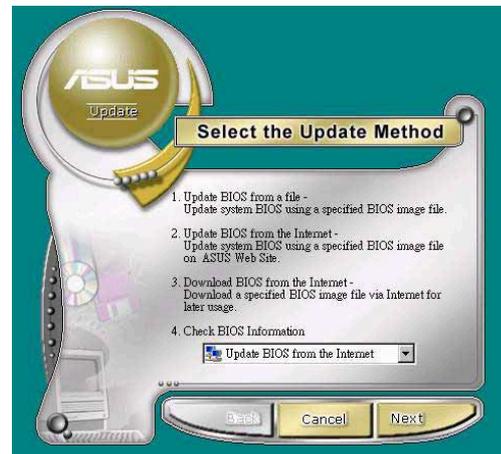
この章では、サポートCD内のいくつかのソフトウェアの詳しい使用方法を説明します。

5.3.1 ASUS Update

ASUS Update は、マザーボードのBIOSとドライバをアップデートするユーティリティです。アップデート作業を行う前にあらかじめインターネットに接続しておいてください。

アップデート方法:

1. Windows のスタートメニューから以下を実行します:
プログラム / AsusUpdate
Vx.xx.xx /AsusUpdate
ASUS Update画面が表示されます。



2. アップデート方法を選択し「Next」をクリックします。

3. 「Updating/downloading from the Internet」を選択した場合、適当なASUS FTPサイトを選択するか「Auto Select(自動選択)」を選択します。「Next」をクリックします。



4. FTPサイトから、希望のBIOSのバージョンを選択します。
5. 画面の指示に従ってアップデートを行います。



ファイルからアップデートする場合、BIOSファイルが保存されている場所を選択します。BIOSファイルを選択し「保存」をクリックします。画面の指示に従ってアップデートを行います。



5.3.2 ASUS MyLogo2™

ASUS MyLogo2™ は ASUS Update と同時に自動でインストールされます。インストールについては「5.2.3 ユーティリティメニュー」を参照してください。



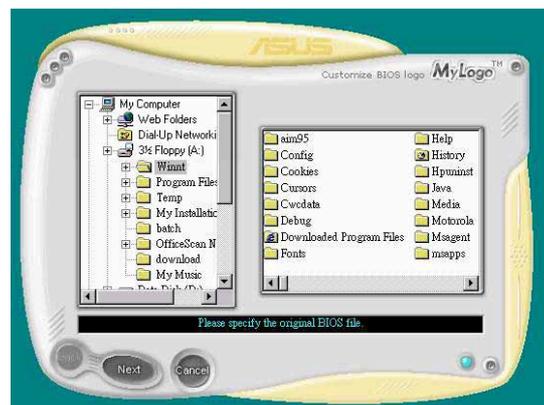
ASUS MyLogo2™ を使用する前に、AFUDOSユーティリティなどを用いて現在のBIOSのバックアップをとっておいてください。



BIOSセットアップの「Full Screen Logo」を [Enabled] に設定してください(P.4-35参照)。

ASUS MyLogo2 の使い方 :

1. ASUS Updateを起動します (5.3.1 ASUS Update 参照)。
2. BIOSのアップデート方法で、「Update BIOS from a file」を選択します。
3. BIOSファイルの場所(FDなど)を指定します。Next をクリックします。



4. ログイメージの選択画面になります。Next をクリックします。



自作のイメージ(GIF, JPG, BMP形式)を使用することもできます。



5. 選択したイメージは MyLogo2 スクリーンに拡大表示されます。



ロゴの画像をもっと小さくしたい場合、比率アイテムの矢印をクリックし、希望する縮尺を選択します。



6. BIOSイメージを新しいロゴイメージのものに書き換えます。Flash をクリックします。
7. 書き換えが完了したら、Exit をクリックします。コンピュータを再起動すると、起動時に新しいロゴが表示されるようになります。



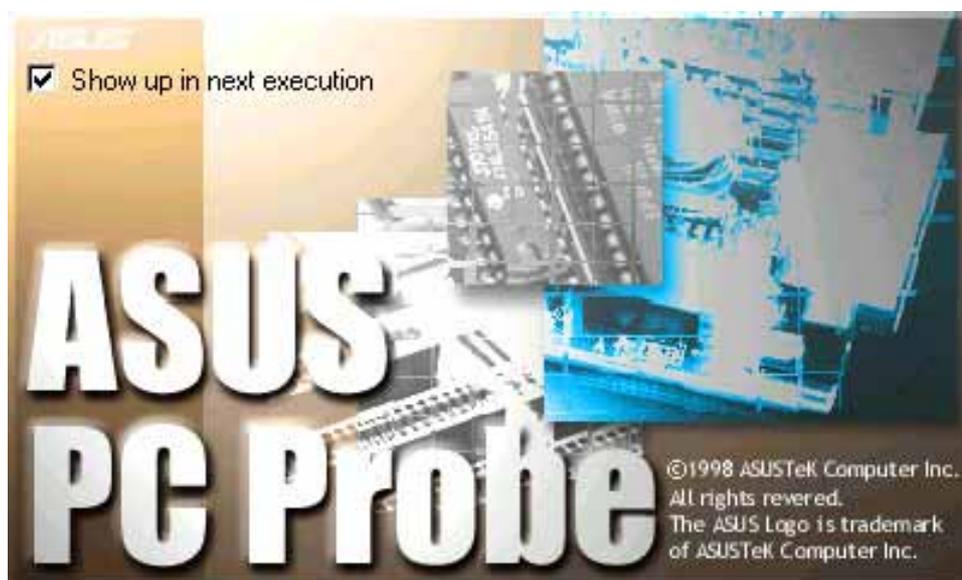
ASUS Update の代わりに ASUS MyLogo2 を直接起動して、ロゴイメージの書き換えを行うこともできます。この場合は、BIOSファイルを書き換えた後、ASUS Update を用いて、BIOSファイルをEEPROMに書き込む必要があります。

5.3.3 ASUS PC Probe

「ASUS PC Probe」は、コンピュータの重要な部品の電圧・温度およびファンの回転数をモニタできる便利なユーティリティです。さらに「DMI Explorer」を用いて、ハードディスクの空き量、メモリの使用状況、CPUの種類、内部/外部クロックを知ることができます。

ASUS PC Probe をはじめよう

「ASUS PC Probe」を起動すると、オープニングビデオが始まります。これは次回の起動時に表示しないようにもできます。表示しないようにするには「Show up in next execution」のチェックを外します。



「ASUS PC Probe」を起動するには、Windowsの「スタート」 - 「プログラム」 - 「ASUS Utility」 - 「Probe Vx.xx」と選択します。

「PC Probe」のアイコン  がタスクバーに表示され「ASUS PC Probe」が動作していることを示します。このアイコンにマウスポインタを重ねると、コンピュータの状態を表示します。

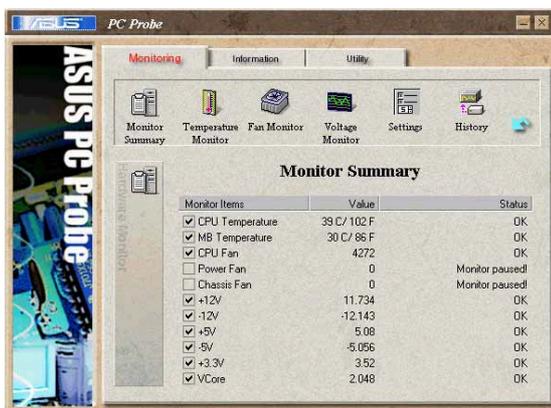


ASUS PC Probe を使う

Monitoring

Monitor Summary

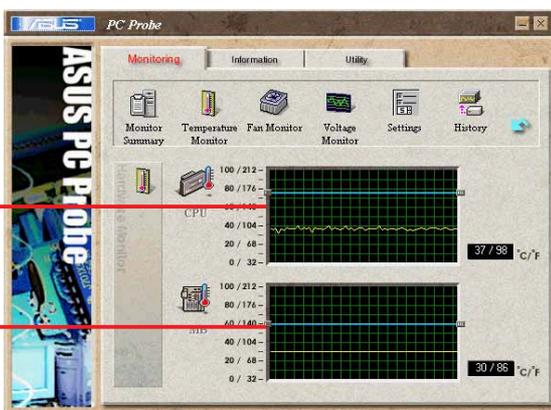
モニタ中のアイテムの概要を表示します。



Temperature Monitor

コンピュータ各所の温度です

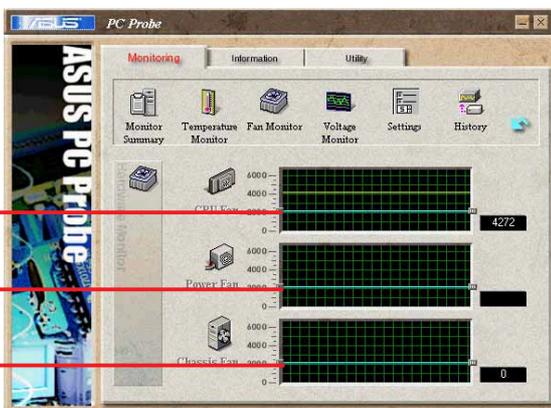
警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させま
す。)



Fan Monitor

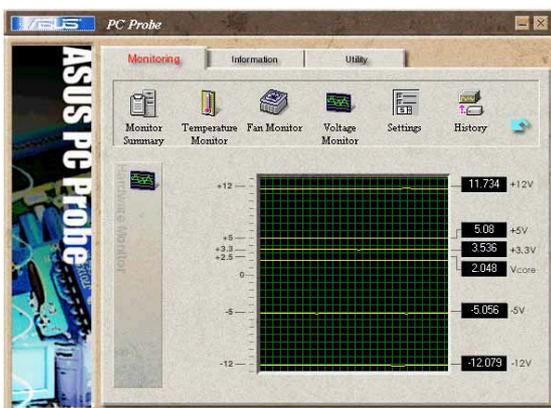
各ファンの回転数を表示します。

警告上下限値を調整できます。
(スライダをドラッグして、
上下限レベルを上下させます。)



Voltage Monitor

コンピュータ各所の電圧です。



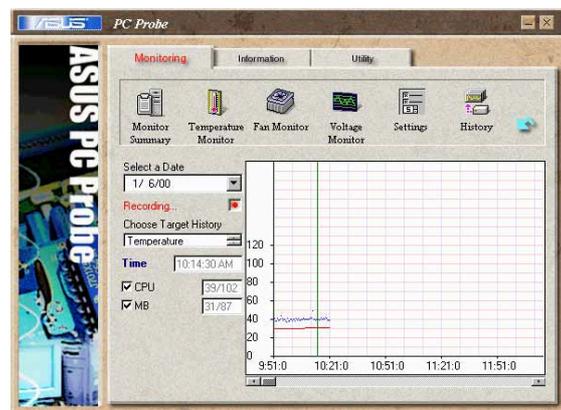
Settings

各上下限値を数値で設定できます。また、モニタリングの周期・表示の更新間隔を変更できます。



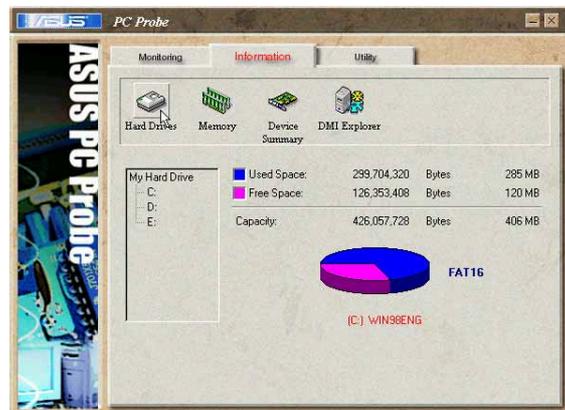
History

現在の状況を保存します。参考値として保存しておく場合などに使います。



Hard Drives

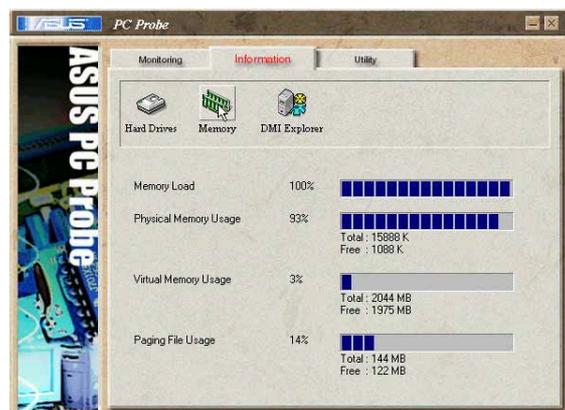
ハードディスクの使用状況・空き容量・ファイルアロケーションテーブル(FAT)の状態・ファイルシステムの種類などを表示します。



Information

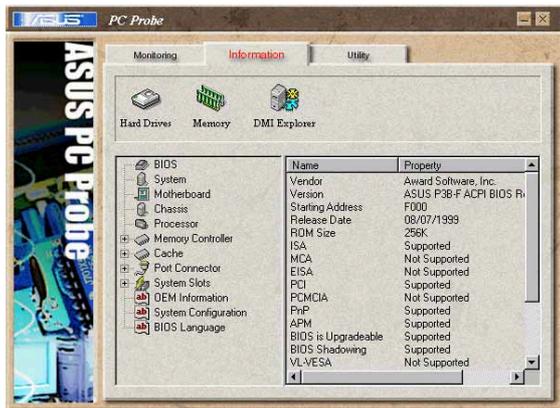
Memory

メモリの使用状況、仮想メモリの状態などを表示します。



DMI Explorer

CPUの種類・内部/外部クロック周波数、メモリ容量など、コンピュータに関する情報を表示します。



Utility

「ASUS Probe」から別のプログラムを起動する場合に用います。「Execute Program」をクリックします。

注：この機能は現バージョンでは無効になっています。



ASUS PC Probe タスクバーアイコン

「PC Probe」アイコンを右クリックするとメニューが現れ、ウィンドウを開いたり、プログラムとモニタリングを終了させたり、再開させたりできます。



「ASUS PC Probe」がコンピュータに異常を発見した場合は、アイコンの一部が赤く変わり、ビーブ音が鳴り、モニタ画面が開きます。



5.3.4 マルチチャンネルオーディオの設定

ADI AD1980 AC'97 オーディオCODECは6チャンネルオーディオを提供します。6チャンネルオーディオを使用する場合は、サポートCDの「SoundMAX Audio Driver and Application」をインストールしてください。



この機能を利用するには、4chまたは6chのスピーカシステムが必要です。

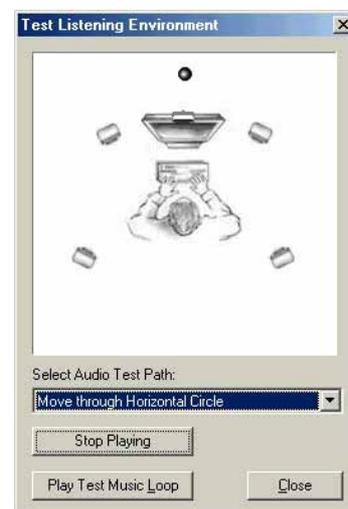
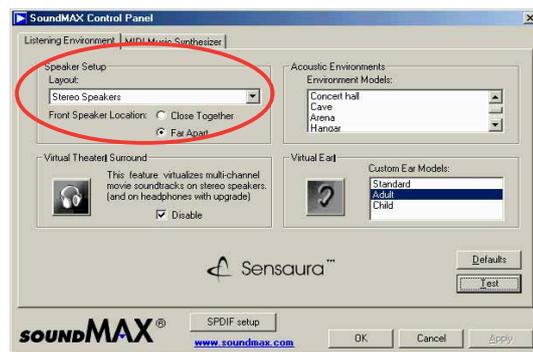
マルチチャンネルオーディオの設定

オーディオドライバをインストールした後、6チャンネルオーディオ機能の設定が可能です。

1. タスクバーの「SoundMAX Digital Integrated Audio」アイコンをクリックすると「SoundMAX Control Panel」が起動します。
2. 「Listening Environment」画面でマルチチャンネルスピーカの設定、Virtual Theater Surround、Acoustic Environments および Virtual Earの設定を行うことができます。
3. デフォルトは Stereo Speakers (2チャンネル)です。6チャンネルスピーカに変更するには「Speaker Setup」の下のリストをクリックします。
4. 「Surround Sound Speakers (5.1 Surround)」を選択します。
5. 「適用」をクリックします。
6. 「Test」をクリックすると Test Listening Environment ウィンドウが開きます。
7. Select Audio Path の下のリストからお好みの設定を選択してください。

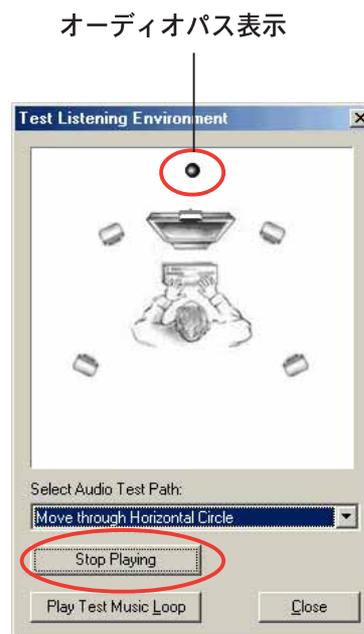


Sound MAX Digital Integrated Audio アイコン



8. 「Play Test Noise」をクリックすると設定をテストすることができます。スクリーンにオーディオパスを示す黒い丸印が表示されます。

テスト中は「Play Test Noise」が「Stop Playing」に変わりますので、テストを終了するには、これをクリックします。



9. テストが完了したら「閉じる」をクリックします。

10. MIDI Music Synthesizer 画面でMIDI の設定を行うことができます。



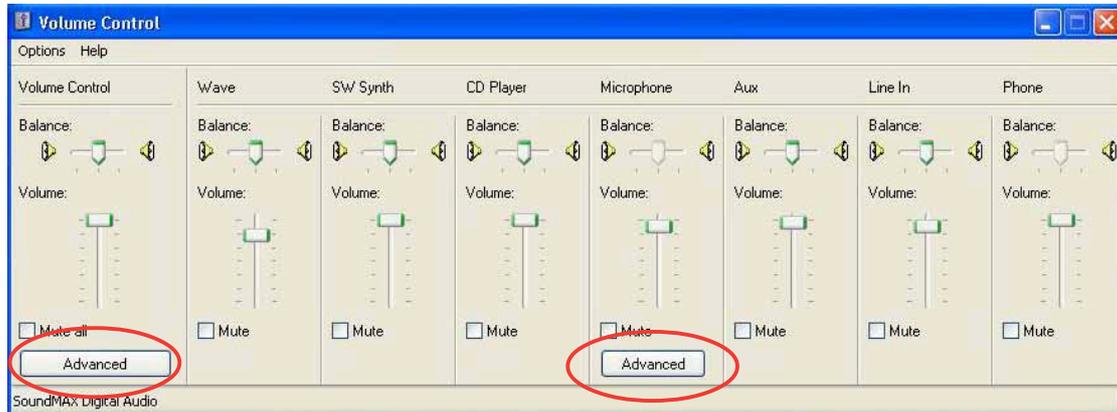
11. Synthesizer Default Set の下の矢印をクリックするとオプションリストが表示されます。お好みの設定を選択してください。



12. 設定を保存するには「適用」をクリックし「OK」をクリックします。

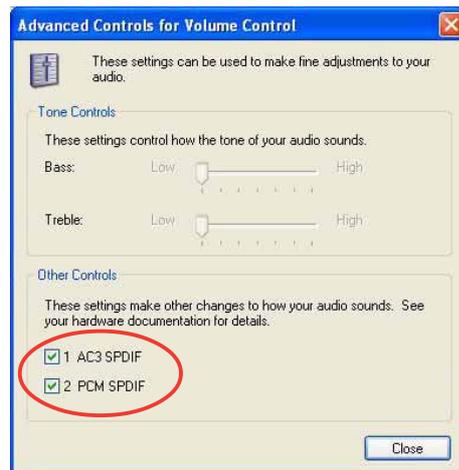
ボリュームの調整

1. 再起動後、タスクバーの右下にあるボリュームアイコンをクリックするとボリュームコントロールパネルが開きます。



2. S/PDIFモジュールをインストールしている場合は、詳細ボタンをクリックし、オーディオの詳細プロパティを開きます。

DVD再生時に6チャンネルオーディオを有効にするには、AC3 SPDIF およびPCM SPDIF.をチェックします。閉じる ボタンをクリックします。



S/PDIFモジュールをインストールしていない場合は2項は不要です。

マイクロホンの設定

1. 詳細 ボタンをクリックし、オーディオの詳細プロパティを開きます。
2. ASUS iPanelなどのフロントパネルオーディオ機能を使用していて、フロントパネルマイクロホンを利用するには、Mic2 Select をチェックします。
3. 閉じる ボタンをクリックします。



フロントパネルにマイクロホンを接続するとリアパネルのマイクロホンは自動で無効になります。マイクロホンは、同時に1本のみが使用可能です。

リアパネルコネクタの設定および機能

以下の表は、3つのオーディオジャックをどのように使用するかの設定です。「Line In」や「Mic」ジャックをサブウーファやセンタースピーカ出力用ジャックとして用いることができます。

	Headphone/ 2-Speaker	4-Speaker	6-Speaker
水色	Line In	Line In	サブウーファ/センター
緑	Line Out	フロントスピーカ	フロントスピーカ
ピンク	Mic In	リアスピーカ	リアスピーカ



Windows 98SE は 4.1チャンネルスピーカのみサポートします。

5.4 VIA® RAID 構成

本マザーボードは、VIA® VT8237高性能IDE RAIDコントローラを組み込み、2つの独立したSATAチャンネルでRAID 0、RAID 1をサポートします。

RAID 0（データストライピングと呼ばれる）は2つの全く同一のハードディスクドライブを最適化して、パラレルな、インターリーブされたスタックにデータの書き込み/読み込みを行います。2つのハードディスクは単一ドライブとして同じ機能を果たしますが、持続的データ転送速度では、単一ディスクのみの場合の2倍の速度を実現して、データアクセスと格納を向上させています。

RAID 1（データミラングと呼ばれる）は1つのドライブからもう1つのドライブに同じ画像データをコピーして保存します。1つのドライブが故障しても、他のドライブには、データの完全なコピーを保持されているので、ディスクアレイ管理ソフトウェアは全てのアプリケーションを、バックアップされているドライブに送ります。このRAID構成はデータ保護を実現して、システム全体に対するフォールとトレランスを増大しています。

5.4.1 シリアルATAハードディスクの取り付け

VIA® VT8237チップセットは、シリアルATAハードディスクドライブをサポートします。最適の性能を確保するために、RAIDセットを作成するときは、同じモデルと容量のドライブを取り付けてください。

- パフォーマンスを重視してRAID 0 (ストライピング)アレイを作成する場合、2台の新しいドライブを使用してください。
- 保護を重視してRAID 1 (ミラリング)を作成する場合、2台の新しいドライブまたは既存のドライブと新しいドライブ (新しいドライブは、既存のドライブと同じかまたは大きいサイズでなければなりません) を各1台、使用することができます。異なるサイズの2台のドライブを使用する場合、小さい容量のハードディスクが基本記憶サイズとなります。例えば、1台のハードディスクの記憶容量が80GBで、もう1台のハードディスクの記憶容量が60GBだとすると、RAID 1セットの最大記憶容量は60GBになります。

次の手順に従って、ハードディスクを取り付けてRAID構成を行ってください。

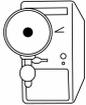


- 新しいRAIDアレイをセットアップする前に、ハードディスクのステータスを確認してください。マスタ/スレーブジャンパを正しく構成しているか確認してください。
- データと電源SATAケーブルはどちらも新しいケーブルです。古い40ピン80コンダクタIDE、またはシリアルATAドライブを搭載した普通のIDE電源ケーブルを使用することはできません。シリアルATA (SATA)ハードディスクを取り付けるには、シリアルATAプロトコルとシリアルATA電源ケーブルをサポートする、新しいATAケーブル(4コンダクタ)を使用する必要があります。
- シリアルATAデータケーブルのどちらかの端をマザーボードのSATAハードディスクまたはSATAコネクタに接続することができます。

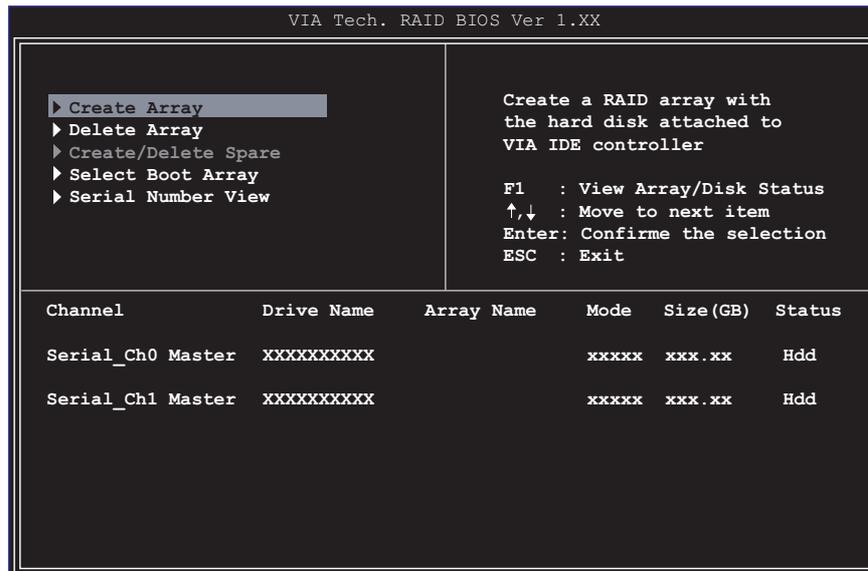
1. シリアルATAハードディスクをドライブベイに挿入します。
2. シリアルATAケーブルの一方の端を、マザーボードのプライマリシリアルATAコネクタ(SATA1)に接続します。
3. シリアルATAケーブルの他の端を、マスターシリアルATAハードディスクに接続します。
4. セカンダリシリアルATAケーブルの一方の端を、マザーボードのセカンダリシリアルATAコネクタ(SATA2)に接続します。
5. シリアルATAケーブルの他の端を、セカンダリシリアルATAハードディスクに接続します。
6. シリアルATA電源ケーブルを、それぞれのドライブの電源コネクタに接続します。
7. 次の手順に関しては、5.4.2 「VIA® Tech RAID BIOSユーティリティに入る」に進んでください。

5.4.2 VIA® Tech RAID BIOS ユーティリティに入る

1. コンピュータを起動します。
2. POSTの間、<Tab>を押してVIA RAID構成ユーティリティに入ります。次のメニューオプションが表示されます。



表示されるセットアップ画面のRAID BIOS情報は参照のためのものです。画面の表示はこれと異なっていることもあります。

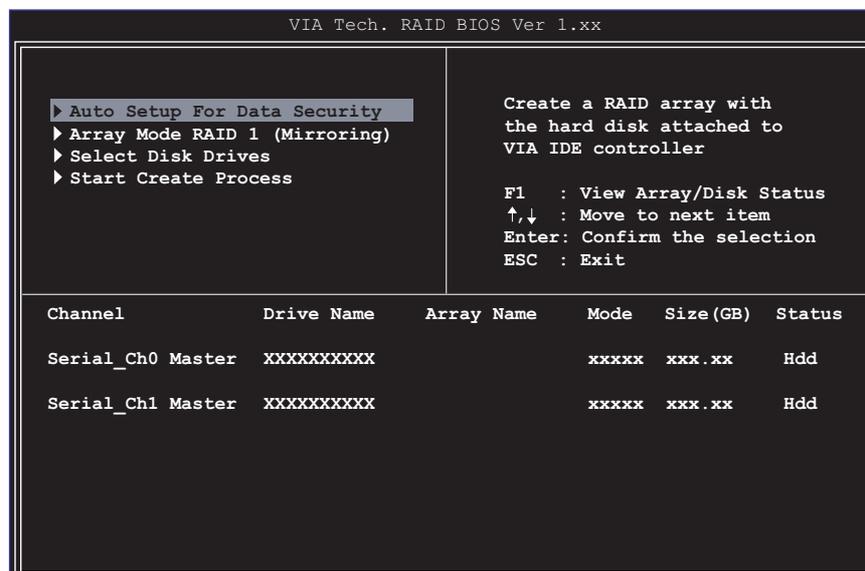


画面の右上には、メッセージと凡例ボックスがあります。凡例ボックスのキーによって、セットアップメニューオプションを移動することができます。メッセージは各メニューアイテムの機能を説明しています。次は、判例ボックスに表示されるキーとそれぞれに対応する機能の一覧です。

F1 : アレイ/ディスクステータスの表示
↑, ↓ : 次のアイテムに移動
Enter : 選択の確認
ESC : 終了

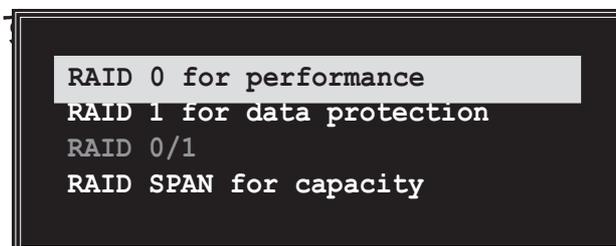
5.4.3 アレイの作成

1. VIA RAID BIOユーティリティメインメニューで、アレイの作成を選択し<Enter>キーを押します。画面の左上隅にあるメインメニューアイテムは、アレイの作成メニューオプションに代わります。



5.4.3.1 パフォーマンス用RAID 0

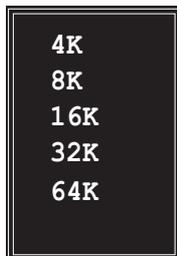
1. 2番目のオプションアイテムアレイモードを選択し、<Enter>キーを押します。RAIDシステム設定のポップアップメニューが表示されま



2. メインメニューから パフォーマンス用RAID 0を選択し、<Enter>を押します。

この点から、パフォーマンス用自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択するか、ストライプされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行し、そうでない場合は、ステップ#5に進みます。

3. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクドライブを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします。選択したドライブの前に、アスタリスクが置かれます。
4. ブロックサイズを選択し、<Enter>を押してアレイブロックサイズを設定します。有効なアレイブロックサイズの一覧が、ポップアップメニューに表示されます。



ヒント：サーバーシステムの場合、下の方のアレイブロックサイズを使用するようにお勧めします。主にオーディオやビデオ設定で使用するマルチメディアコンピュータシステムの場合、最適の性能を発揮するためには、高い方のアレイブロックサイズをお勧めします。

矢印キーを使用してアイテムの選択バーを移動し、<Enter>を押して選択します。

5. 作成プロセスの開始を選択し、<Enter>を押しRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。



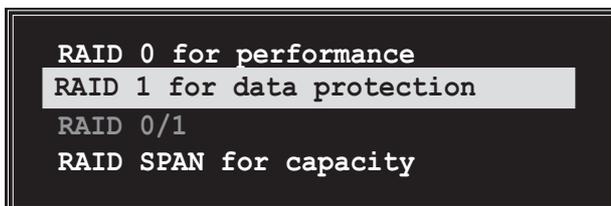
パフォーマンス用自動セットアップオプションを選択しても、同じ確認メッセージが表示されます。

```
The data on the selected disks will
be destroyed. Continue? Press Y/N
```

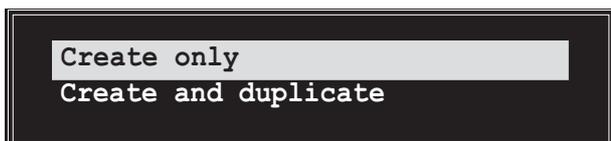
“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.3.2 データ保護用RAID 1

1. 2番目のオプションアイテムアレイモードを選択し、<Enter>キーを押します。RAIDシステム設定ポップアップメニューが表示されます。

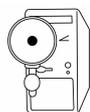


2. メニューからデータ保護用RAID 1を選択し、<Enter>を押します。ポップアップメニューから、次のタスクを選択します。タスク作成のみは、バックアップを作成せずにミラーされたセットを作成します。作成と複製は、ミラーされたセットとバックアップを作成します。



3. タスクを選択し、<Enter>を押します。画面がアレイの作成メニューアイテムに戻ります。この点から、データセキュリティ用の自動セットアップを選択してRAIDアレイの自動構成を選択したり、ミラーされたセットに対してRAIDアレイを手動で構成することができます。RAIDアレイを手動で構成したい場合は次のステップを続行し、そうでない場合は、ステップ#5に進みます。

4. ディスクドライブの選択を選択し、<Enter>を押します。矢印キーを使用してディスクあドライブ/sを選択し、<Enter>を押して選択したドライブをマークします（選択したドライブの前には、アスタリスクが置かれます）。
5. 作成プロセスのスタートを選択し、<Enter>を押してRAIDシステム用にハードディスクをセットアップします。次の確認メッセージが表示されます。



データセキュリティ用自動セットアップオプションを選択しても、同じ確認メッセージが表示されます。

```
The data on the selected disks will
be destroyed. Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

5.4.4 アレイの削除

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、アレイの削除を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。
2. <Enter>キーを押して、削除するRAIDアレイを選択します。次の確認画面が表示されます。

```
The selected array will be destroyed.
Are you sure? Continue? Press Y/N
```

“Y”を押して確認するか、“N”を押して構成オプションに戻ります。

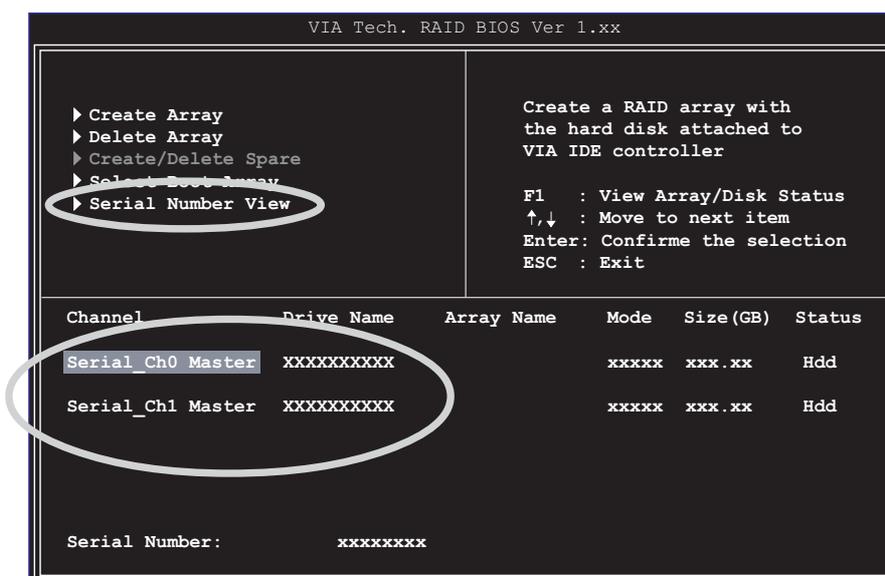
5.4.5 ブートアレイの選択

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、ブートアレイの選択を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。
2. <Enter>キーを押してブートするRAIDアレイを選択します。選択したアレイのステータスがブートに変わります。<ESC> キーを押すと、メニューアイテムに戻ります。同じ手順に従って、ブートアレイの選択を解除します。

ESC : Exit					
Channel	Drive Name	Array Name	Mode	Size (GB)	Status
Serial_Ch0	Master	XXXXXXXXXX	xxxxx	xxx.xx	Hdd
Serial_Ch1	Master	XXXXXXXXXX	xxxxx	xxx.xx	Hdd

5.4.6 シリアル番号の表示

1. VIA RAID BIOSユーティリティメインメニューで、シリアル番号の表示を選択し、<Enter>キーを押します。IDE RAID用に使用されるチャンネルの一覧に焦点が向けられます。各アイテムに選択バーを移動すると、画面の下部にシリアル番号が表示されます。このオプションは、同じモデルディスクを識別する上で役に立ちます。



5.5 Promise® RAID構成

マザーボードはPromise® PDC20378コントローラチップセットを組み込んで、Redundant Array of Independent Disks(RAID)構成をサポートします。PRI_SATA / SEC_SATA インターフェイス上で2つのシリアルATAハードディスク、およびPRI_RAIDインターフェイス上で2つのATA133ハードディスクを使用すると、RAID0、RAID1、RAID0+1、マルチRAID構成をセットアップできます。MBFastTrak378™ BIOS と FastBuild™ ユーティリティを使用して、ディスクアレイを構成します。

RAID 0 (データストライピングと呼ばれる) は2つの全く同一のハードディスクドライブを最適化して、パラレルな、インターリーブされたスタックにデータの書き込み/読み込みを行います。2つのハードディスクは単一ドライブとして同じ機能を果たしますが、持続的データ転送速度では、単一ディスクのみの場合の2倍の速度を実現して、データアクセスと格納を向上させています。

RAID 1 (データミラリングと呼ばれる) は1つのドライブからもう1つのドライブに同じ画像データをコピーして保存します。1つのドライブが故障しても、他のドライブには、データの完全なコピーを保持されているので、ディスクアレイ管理ソフトウェアは全てのアプリケーションを、バックアップされているドライブに送ります。このRAID構成はデータ保護を実現して、システム全体に対するフォールとトレランスを増大しています。

RAID 0+1 は、パリティ (冗長データ) を計算したり書き込んだりすることなく、データストライピングとデータミラリングを結合しています。RAID 0 + 1の利点は (RAID 0と同様に) 高速データアクセスですが、1つのドライブを切り離して完全なバックアップ用の複製ドライブまたはドライブのセット (RAID 1と同様) にする機能があります。



1. Windows XP または Windows 2000オペレーティングシステムを使用している場合、RAID構成を作成する前に、まずサポートCDからPromise FastTrak 378ドライバをフロッピーディスクにコピーします。
2. 異なるオペレーティングシステム下のRAID構成に関する詳細については、サポートCDの「FastTrak 378クイックスタートガイド」および「SATAクイックスタートガイド」を参照してください。

5.5.1 ハードディスクの取り付け

PDC20378チップセットは、Ultra ATA/133/100/66ハードディスクドライブをサポートします。最適の性能を得るには、ディスクアレイを作成するとき、モデルと容量が等しい全く同じドライブを取り付けてください。

- ・ 性能面を考慮してRAID 0 (ストライピング) アレイを作成している場合、新しいドライブを2台使用してください。
- ・ 保護面を考慮してRAID 1 (mirroring)アレイを作成している場合、2台の新しいドライブを、または既存のドライブを1台と新しいドライブを1台使用することができます(新しいドライブは既存のドライブと同じサイズかそれより大きくなければなりません)。

次の手順に従って、構成用のRAIDハードディスクを取り付けてください。

1. 各ハードディスクのジャンパをマスタ/スレイブとして設定します。
2. ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
3. HDDケーブルを接続します。これらの接続オプションは、RAID 0またはRAID 1アレイを作成するために利用できます。
 - a) 個々のパラレルATAまたはシリアルATAケーブルを使用して、2台のパラレルATA HDDをPRI_RAIDコネクタに、1台のシリアルATA HDDを2台のシリアルATA コネクタのどちらかに接続します。
 - b) 個々のシリアルATAケーブルを使用して、1台のシリアルATA HDDをそれぞれのシリアルATAコネクタに接続します。
4. 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。
5. システムを起動し、BIOSセットアップユーティリティに入ります。
6. BIOSで詳細メニューに入り、適切なIDE構成設定を設定します。
7. 変更を保存して、セットアップを終了します。
8. 次の手順に対しては、5.5.2項に進んでください。

5.5.2 MBFastBuild™ ユーティリティに入る

1. システムの起動

これが、マザーボードのATAIDEコネクタに取り付けられ接続された新しいハードディスクで初めてシステムを起動する場合、MBFastTrak378™ BIOSは次のメッセージを表示します。

```
MBFastTrak378 (tm) BIOS version 1.00
(c)2000-2005 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved.

No Array defined...

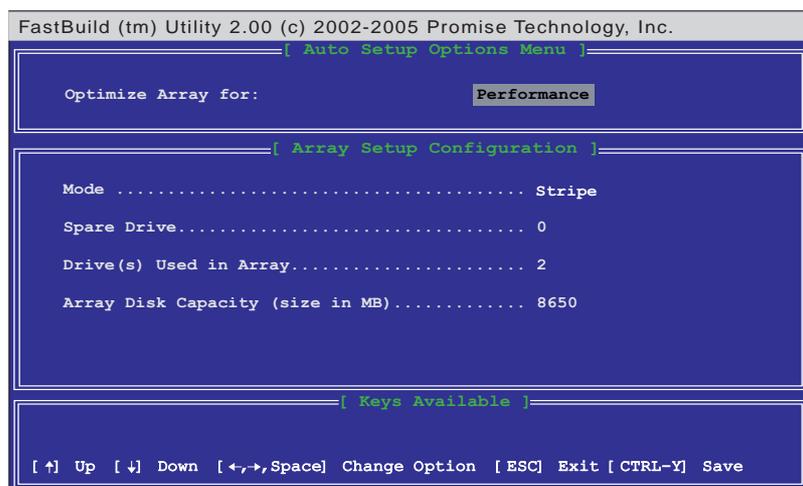
Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility
Or press <ESC> key to continue booting.
```

2. <Ctrl-F>を同時に押すと、FastBuild™ ユティリティメインメニューが表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility 2.00 (c) 2002-2005 Promise Technology, Inc.
[ Main Menu ]
Auto Setup . . . . . [ 1 ]
View Drive Assignments . . . . [ 2 ]
Define Array . . . . . [ 3 ]
Delete Array . . . . . [ 4 ]
Rebuild Array. . . . . [ 5 ]
[ Keys Available ]
Press 1..5 to select Option [ESC] Exit
```

5.5.3 RAID 0アレイを作成する(性能)

1. FastBuild™ ユーティリティメインメニューで、"1"を押して自動セットアップを選択します。次の画面が表示されます。



2. 矢印キーを使用してフィールドアレイの最適化に入り、スペースバーで"性能"を選択します。モードフィールドが"ストライプ"を表示します。
3. 選択を行った後、<Ctrl-Y>を押して保存し、RAID 0アレイを作成します。
4. 任意のキーを押してシステムをリブートします。ブートプロセスの間、MBFastTrak378 BIOSはディスクアレイ情報をチェックして表示します。



5. アレイが作成されたら、FDISKユーティリティを使用してアレイを単一ハードドライブとしてフォーマットします。
6. アレイされたドライブをフォーマットした後、オペレーティングシステム(OS)をインストールします。OSは、単一ドライブ装置としてRAID 0アレイを処理します。
7. マザーボードパッケージに付属するサポートCDからRAIDドライバをインストールします。

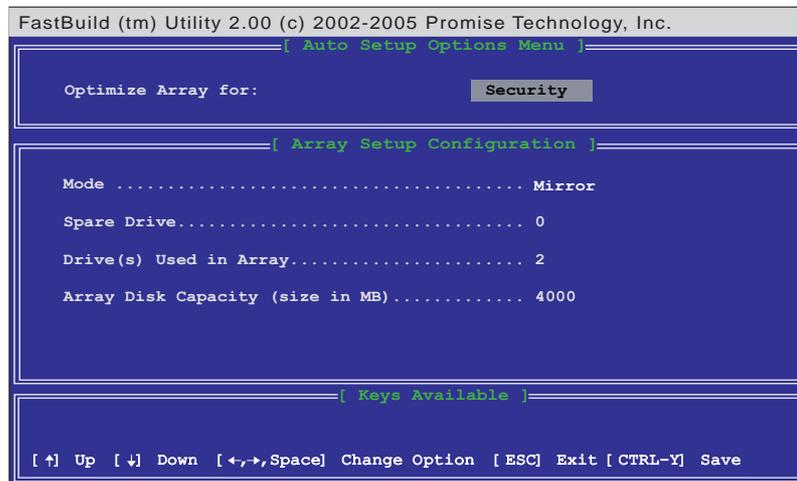


インストールしているオペレーティングシステムによっては、OSをインストールしている間またはその後で、RAIDドライバをインストールする必要があります。

5.5.4 RAID 1 アレイを作成する(セキュリティ)

新しいドライブでセキュリティアレイを作成する

1. FastBuild™ ユーティリティメインメニューで、"1"を押して自動セットアップを選択します。



2. 矢印キーを使用して、フィールドアレイの最適化に入り、スペースバーで「セキュリティ」を選択します。モードフィールドは「ミラー」を表示します。
3. <Ctrl-Y>を押して、選択を保存します。
4. 次のメッセージが表示されます。

```
Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No)
Y - Create and Duplicate
N - Create Only
```

5. 作成のみオプションの場合、Nを押します。セキュリティアレイが作成されたことを確認するメッセージが表示されます。

```
Array has been created.
<Press any key to reboot>
```

6. 任意のキーを押してシステムをリブートします。ブートプロセスの間、MBFastTrak376 BIOSはディスクアレイ情報をチェックして表示します。

```
MBFastTrak376 (tm) BIOS Version 1.00
(c) 2000-2005 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved.
ID MODE SIZE TRACK-MAPPING STATUS
-----
1* 1x2 Mirror 1628M 827/64/63 Functional
Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility
```

7. FDISKユーティリティを使用し、フォーマット手順に従って新しいハードドライブを取り付けます。アレイされたドライブをフォーマットした後、オペレーティングシステム(OS)をインストールします。
8. マザーボードパッケージに付属するサポートCDからRAIDドライバをインストールします。



インストールしているオペレーティングシステムに従って、OSをインストールしている間またはインストール後、RAIDドライバをインストールする必要があります。

既存のデータドライブを使用してセキュリティアレイを作成する
すでにデータを含んでいる既存のドライブを使用する場合、またはシステムにブート可能なドライブがある場合、アレイで使用する新しいハードドライブが既存のドライブと同じかまたは大きな容量を持っていることを確認してください。



アレイを作成する前に、全ての重要なデータのバックアップを取ってください。そうしないと、データが失われることがあります。

1. FastBuild™ ユーティリティメインメニューで"1"を押し、自動セットアップを選択します。
2. 矢印キーを使用してフィールドアレイの最適化に入り、スペースバーで"セキュリティ"を選択します。モードフィールドが"ミラー"を表示します。
3. <Ctrl-Y>を押しして選択を保存します。次のメッセージが表示されます。

```
Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No)

Y - Create and Duplicate
N - Create Only
```

5. 作成と複製オプションで、Yを押し、次のウィンドウが、使用するソースドライブを選択するように促します。
6. 矢印キーを使用して、ソースドライブを選択します。FastBuildユーティリティがソースドライブからターゲットドライブに全てのデータをコピーします。
7. <Ctrl-Y>を押しして選択を保存し、複製を開始します。次のメッセージが表示されます。

```
Start to duplicate the image...
Do you want to continue? (Yes/No)

Y - Continue    N - Abort
```

8. **Y**を選択して続行します。**N**を選択すると、メインメニューに戻ります。
9. 複製プロセスが完了したら、セキュリティアレイが作成されたことを確認するメッセージが表示されます。
10. 任意のキーを押して、システムをリブートします。
11. マザーボードパッケージに付属するサポートCDから、RAIDドライバをインストールします。



インストールしようとしている（またはすでにインストールしている）オペレーティングシステムに従って、RAIDドライバのインストールシーケンスは異なります。

5.5.5 その他のFastBuildユーティリティコマンド

FastBuild™ ユーティリティメインメニューのコマンドオプション 3-6はアレイをセットアップするためには必要ありませんが、アレイを再構成する上で役に立ちます。

アレイの表示 (3): このコマンドによって、アレイのハードディスクのドライブ割当を表示できます。

アレイの削除 (4): このコマンドは、システムを再構成するためにアレイを削除します。アレイを削除しても、ハードディスクの情報は削除されません。誤ってアレイを削除した場合、削除されたアレイとしてそれを直ちに再定義することによって回復してください。

アレイの再構築 (5): このコマンドは、RAID 1アレイの障害後、アレイとシステムデータを回復します。

次の手順に従って、アレイのデータを再構築して回復してください。

1. 起動時に、エラーメッセージがシステム障害を通知します。
2. <Ctrl-F>を押して、FastBuild™ メインメニューに入ります。
3. アレイの表示の場合は<3>を選択し、消えたハードディスクのIDを確認します。
4. システムの電源をオフにし、同一のモデルのハードディスクと交換します。
5. リブートして、再びFastBuild™ メインメニューに入ります。
6. アレイを再構築する場合は、<5>を選択します。誤動作が発生しているアレイが強調表示されます。Enterを押して、選択します。

```

FastBuild (tm) Utility 2.00 (c) 2002-2005 Promise Technology, Inc.
----- [ Rebuild Array Menu ] -----
  Array No   RAID Mode   Total Drv   Capacity   Status
-----
  Array 1    Mirror/Stripe   4           7999      Critical
  Array 2    -----
  Array 3    -----
  Array 4    -----
-----
----- [ Keys Available ] -----
[ ↑ ] Up [ ↓ ] Down [ ESC ] Exit [ Enter ] Select

```

7. 交換するドライブを選択します。<Enter>を押します。

```

FastBuild (tm) Utility 2.00 (c) 2002-2005 Promise Technology, Inc.
----- [ View Array Definition Menu ] -----
  Array No   RAID Mode   Total Drv   Status
-----
  Array 1    Mirror/Stripe   4           Critical
-----
  Stripe Block: Not Available           Gigabyte Boundary: ON
-----
----- [ Select Drive for Rebuild ] -----
  Channel: ID      Drive Model      Capacity (MB)
-----
  3:Mas FUJITSU MPD3043AT      4325
-----
----- [ Keys Available ] -----
[ ↑ ] Up [ ↓ ] Down [ ESC ] Exit [ Enter ] Select

```

8. コマンドを確認して、無傷なソースハードディスクから新しく交換したハードディスクにデータをコピーします。その間、進捗ゲージがコピー状況を示します。
9. 再構築プロセスが完了したら、ユーザーはシステムをリブートするように求められます。

コントローラ構成 (6): このコマンドは、コントローラ構成のデフォルトを表示します。デフォルト値は[Enabled]です。

5.6 Makedisk.exeを使用する

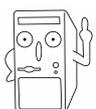
重要な通知

1. Makedisk.exe ユーティリティは、RAIDインストールを構成するときに必要なRAIDドライバで、フロッピーディスクを作成します。
2. Promise® SATA 378ドライバのMakedisk.exeユーティリティは、サポートCDの"\Drivers\Promise\378ATA\Makedisk.exe"にあります。BIOSの操作モード設定が[Onboard IDE Operate Mode] (デフォルト) になっているとき、このユーティリティを使用してください。
3. FastTrak 378ドライバのMakedisk.exeユーティリティは、サポートCDの"\Drivers\Promise\378RAID\Makedisk.exe"にあります。BIOSの操作モード設定が[RAID]モードになっているとき、このユーティリティを使用してください。
4. VIA® RAIDドライバのMakedisk.exeユーティリティは、サポートCDの"\Drivers\VIARAID\6420RAID\DriverDisk\Makedisk.exe"にあります。シリアルATA RAID 0またはRAID 1を構成しているとき、このユーティリティを使用してください。



Windows® XP™/ 2000™ またはNT™ オペレーティングシステムをインストールしているとき、Promise® SATA 378、FastTrak 378、VIA® RAID ドライバの入ったフロッピーディスクが必要です。オペレーティングシステムをインストールする前に、VIA® または Promise® ATA/SATA RAID 機能用のMakedisk.exeユーティリティを使用してRAIDドライバフロッピーディスクを必ず作成してください。

5. OSをインストールしている間に、"F6" キーを押して作成したドライバフロッピーディスクを挿入してRAIDドライバをアップロードしてください。



コンピュータのコンピュータのウィルス感染を避けるために、フロッピーディスクを書き込み禁止にしてください。

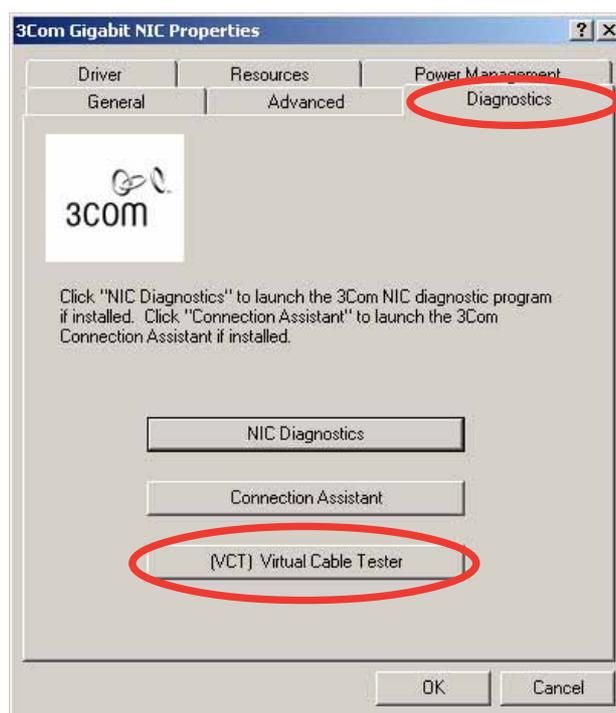
5.7 Marvell® 仮想ケーブルテストテクノロジー

マザーボードは、Marvell® 仮想ケーブルテストテクノロジーをサポートします。VCTは、タイムドメイン反射計(TDR)を使用して、ケーブル障害を仮想的に診断して報告します。この必須ツールのおかげで、取り付けとネットワーク診断はかつてないほど簡単になっています。VCTテクノロジーは最大1メートルの精度で、オープンケーブルと短いケーブルの検出し報告します。これはまた、電気抵抗の不一致、ペアスワップ、ペア極性の問題、最大64nsのペアスキュー問題も検出します。

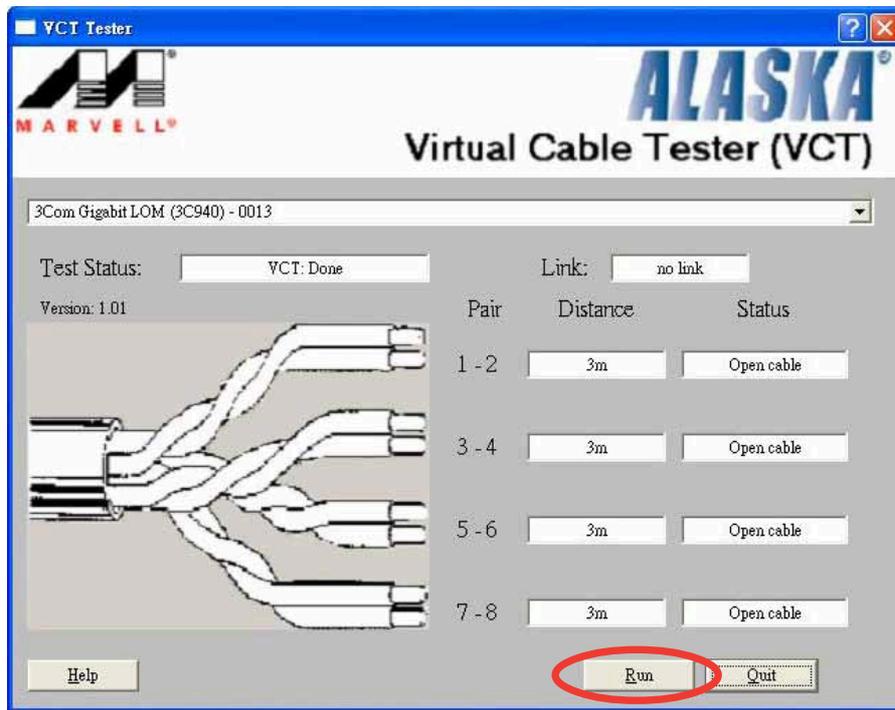
VCT はきわめて管理しやすくまた制御可能なネットワークシステムを補完しながら、ネットワークとサポートコストを削減しています。また、このツールはネットワークシステムソフトウェアを組み込むことによって、フィールドのサポートだけでなく、開発診断に理想的なものとなっています。

仮想ケーブルテストを使用する

1. デスクトップで、マイコンピュータアイコンを右クリックします。ポップアップメニューで、プロパティをクリックすると、システムプロパティダイアログボックスが表示されます。
2. ネットワークアダプタをクリックし、一覧から3Com Gigabit NIC アダプタを選択します。プロパティボタンをクリックします。
3. 3Com Gigabit NICプロパティダイアログボックスから、診断タブを選択します。



4. (VCT)仮想ケーブルテストボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。



5. ファイル名を指定して実行をクリックして、テストを実行します。



ケーブル接続の問題がある場合、ファイル名を指定して実行ボタンは淡色表示されて、選択することはできません。

